

第一九一四號

inches
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 8

Kodak Color Control Patches

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
Light Blue	Light Cyan	Light Green	Light Yellow	Light Red	Light Magenta	White	Light Skin	Light Gray
Dark Blue	Dark Cyan	Dark Green	Dark Yellow	Dark Red	Dark Magenta	White	Dark Skin	Dark Gray

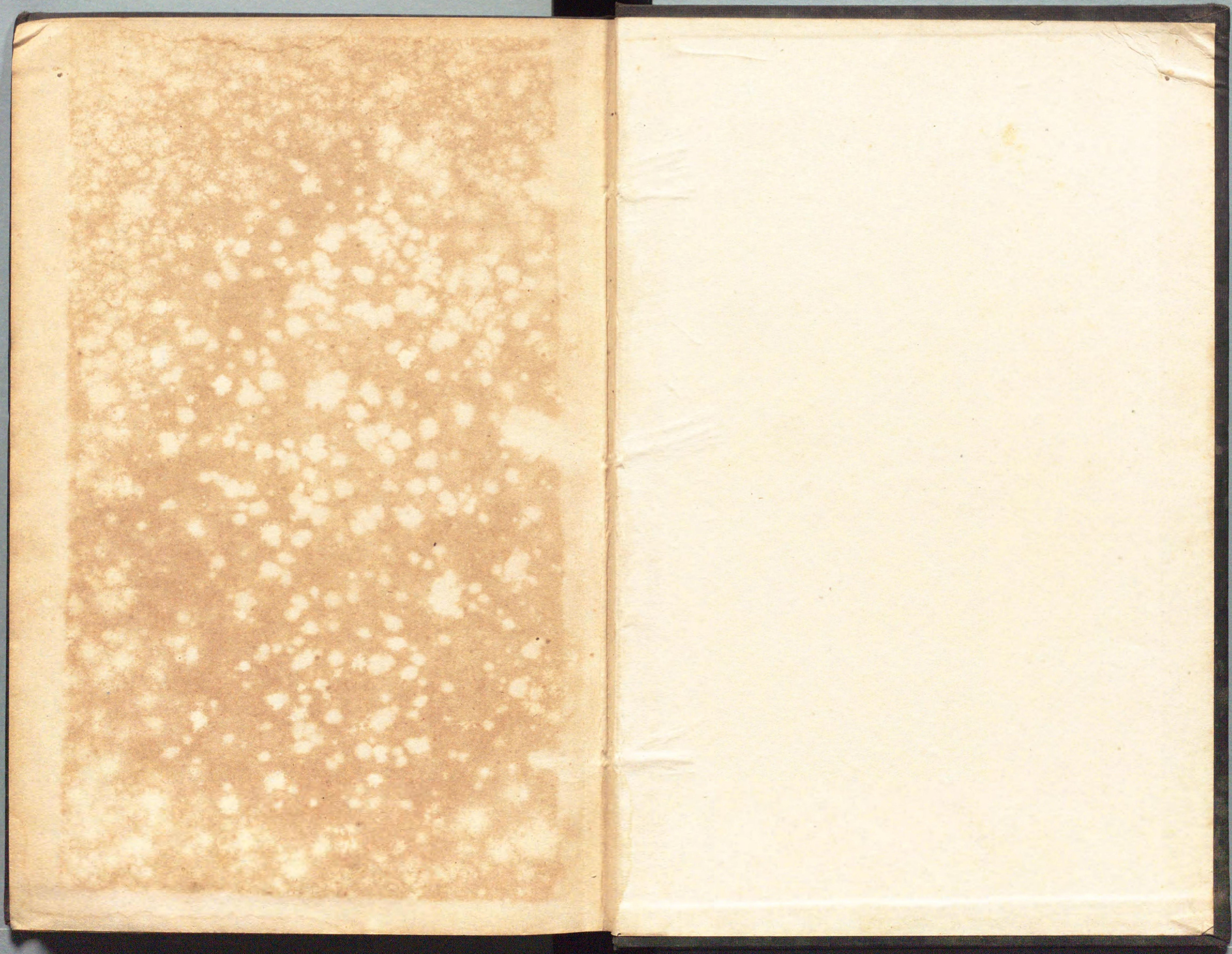
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Gray Scale

C Y M

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak





保
險
法

完

法學博士 志田鉀太郎 講述

東京法學院大學

保

險

法

論

目

次

第一編 保險總論

第一章 保險ノ意義

第二章 保險ノ種類

第一節 營利保險及ヒ相互保險

第二節 損害保險及ヒ生命保險

第三節 物保險及ヒ人保險

第四節 損害填補保險、利害關係者ノ定額保險及ヒ定額保險

第五節 損害填補保險及ヒ定額保險損害保險及ヒ人ノ生命若クハ健康ノ危險ニ關スル

保險、損害保險及ヒ生命保險

保險法目次

一七丁

六丁

五丁

四丁

同丁

二丁

同丁

一丁



保 險 法

目 次

第一編 保險總論	一
第一章 保險ノ意義	一
第二章 保險ノ種類	二
第一節 營利保險及ヒ相互保險	同
第二節 損害保險及ヒ生命保險	四
第三節 物保險及ヒ人保險	五
第四節 損害填補保險、利害關係者ノ定額保險及ヒ定額保險	六
第五節 損害填補保險及ヒ定額保險損害保險及ヒ人ノ生命若クハ健康ノ危険ニ關スル保險、損害保險及ヒ生命保險	七

保險法目次

一 七 丁



第六節	陸上保險及海上保險	八丁
第七節	海上火災運送、農業、家畜、雹災、霜災、不作、洪水、玻璃、水道、有價證券、信用、抵當、同盟罷工、責任、生命、疾病、災害、老病等ノ保險	同丁
第八節	專業保險及附隨保險	九丁
第九節	公保險及私保險	同丁
第十節	任意保險及強制保險	一〇丁
第三章	私法組織ニ於ケル保險ノ位置	同丁
第四章	保險ノ歴史	一一丁
第五章	現今諸國ニ於ケル保險法規	一二丁
第六章	參照法令	二二丁
第七章	參考書	二四丁
第二編	保險契約法論	二七丁

第一部	損害保險契約	二七丁
第一章	損害保險契約ノ意義	同丁
第一節	當事者	三八丁
第一款	保險者	三九丁
第二款	保險契約者	四五丁
第三款	被保險者	五八丁
第二款	被保險利益	五九丁
第三節	危險	七三丁
第四節	保險料	八四丁
第五節	損害及ヒ損害ノ填補	九一丁
第六節	保險期間	九五丁
第二章	保險契約ノ取結	同丁
第三章	保險契約上ノ法律關係ノ變更	九六丁
第四章	保險契約上ノ法律關係ノ消滅	九七丁

第二部 損害保險各論	四
第一章 火災保險	九七丁
第二章 運送保險	同 丁
餘論ノ一 包括保險	一〇二丁
餘論ノ二 責任保險(義務保險)	一〇五丁
餘論ノ三 再保險(戻保險)	一〇八丁
餘論ノ三 再保險(戻保險)	一〇九丁
第三部 生命保險	一一一丁
第一章 生命保險ノ性質	同 丁
第二章 生命保險契約ノ要件	一二二丁
第一節 當事者	一二三丁
第二節 被保險者ノ生存又ハ死亡	一三二丁
第三節 保險契約者ノ給付	一三四丁
第四節 保險者ノ給付	一三七丁
餘 論 再保險及ヒ聯關保險	一三九丁

第三章 生命保險契約ノ取結、其法律關係ノ變更及ヒ消滅	一四〇丁
----------------------------	------

緒論
ノ基礎
ノ基礎

保 險 法

法學士 加納友之介 講義

卒業生 川 上 清 編輯

緒 論

第一 保險制度ノ基礎

現時ノ社會ニアリテハ保險制度ハ社會的事業トシテ頗ル盛大ノ域ニ進メルモノ
ニシテ尙ホ將來ニ於テ益發達ノ傾向アルノミナラス漸次世界的トナルノ趨勢ヲ
發現シ來レリ斯ノ如キ盛大ナル保險制度ハ抑モ何ニ基キテ發生シタルモノナル
カ換言スレハ其基礎トスル所果シテ那邊ニ存スルヤ是レ以下説明セントスル所
ナリ
凡ソ人類社會ニハ不測ノ災害頗ル多シ之ヲ人ノ身上ニ付キ觀ルトキハ生命ニ對

保險法 緒論 保險制度ノ基礎

スル危険即チ死亡、疾病ノ如キアリ之ヲ財産ニ付キ觀ルトキハ物ニ對スル危険即チ風水害、火災ノ如キアリ之ヲ海運事業ニ付キ觀ルトキハ船舶ノ沈没、坐礁等、其他諸種ノ危険アリ、吾人ノ身體、財産ニ對スル危険、災害ハ殆ト枚擧ニ遑アラサルナリ、然リ而シテ社會組織ノ次第ニ複雑ニ赴キ、吾人ノ生業ノ漸次ニ活潑トナルニ從ヒ、此等災害ニ遭遇スヘキ機會ハ益多キヲ加フルニ至リ、爲メニ吾人ノ身體及ヒ財産ノ上ニ被ムルヘキ結果ハ頗ル恐ルヘキモノアリ而モ、此等ノ災害タルヤ其來ルコト不測ニシテ之ヲ避クルコト能ハサルヲ以テ、古昔、矇昧ノ民ハ或ハ之ヲ運命ニ歸シ、僅カニ神佛ノ加護ヲ祈リ以テ安心ヲ得ルヲ事トセシカ、人智ノ開發ニ從ヒ、斯ノ如キ事ヲ以テ満足スル能ハス極力之ヲ豫防ノ策ヲ講スルニ至レリ、蓋シ人情ノ自然ニ出ツルモノト云フヘシ而シテ、此等災害ニ對シ、吾人ノ執ルヘキ方法ハ根本的ニ災害其者ノ性質ヲ究メ之ヲ發生ノ原因ヲ知得シ以テ、其豫防ノ策ヲ講スルヲ以テ第一トス、然レトモ諸多ノ災害中ニハ到底人力ヲ以テ之ヲ豫知スルヲ得サルモノアリ、又ハ縱令之ヲ豫知スルコトヲ得ルモ救濟ノ途ナキモノアリ、斯ノ如キ災害ニ對シテハ吾人ハ唯其災害ニ因リテ生スル結果ノ除却若クハ輕減ヲ努ムルノ外

其策アルコトナシ、此結果ノ除却、輕減ヲ策ルハ即チ第二ニ執ルヘキ方法ナリ、保險ハ實ニ此第二ノ方法ニ屬ス而シテ、又災害ニ因リ生スル不幸ハ災害ノ性質若クハ災害ヲ受クル所ノモノニ因リ、經濟的不幸ト其他ノ不幸トニ分別スルコトヲ得ヘシ、其經濟的不幸ニ屬スルモノハ經濟的賠償方法ニ依リテ之ヲ回復スルコトヲ得ヘシ、保險ハ正ニ經濟的不幸ヲ經濟的ニ回復スル方法ニ屬ス、經濟的不幸ヲ經濟的ニ回復スル方法トシテハ同一危険ノ下ニ在ル多數人カ一ノ組合ヲ設ケ各人カ災害ニ因リテ生スル損害ヲ分擔スルハ最モ簡易ナルモノニ屬ス、斯ノ如ク各人ノ被ムル所ノ損害ヲ多數人ニ分擔セシムルハ保險制度ニ於ケル第一ノ基礎ナリ、共濟組合ヲ設ケ以テ經濟的不幸ヲ分擔スルハ保險制度ニ於ケル第一ノ基礎ヲ成スト、雖モ單純ナル共濟組合ハ到底永續スル能ハサル理由アリ、即チ(一)各自ノ負擔公平ナラサルコト、(二)最モ親密ナル關係ヲ有スル者ノ間ニアラサレハ此結合ハ行ハレサルコト、(三)組合員少數ナルトキハ各自ノ負擔重キニ過キ大ナル損害ノ負擔ニ堪ヘサルコト、是ナリ、就中組合ノ結合ヲ容易ニシ多數人ノ集團ヲ促スニ必要ナ

ル條件ハ各自ノ負擔ノ公平ヲ得ルニアリ而シテ負擔ノ公平ヲ得ルニハ災害ノ統計ヲ必要トス即チ災害ノ統計ニ基キ各自カ公平ニ災害ヲ分擔スルコトハ保險制度ニ於ケル第二ノ基礎ナリ

第二 保險制度ノ歴史

保險制度ノ沿革ヲ繹スルニ歐米ノ學者中或ハ保險ハ希臘若クハ羅馬ノ時代ニ其端ヲ發シタリト云フ者アリ蓋シ冒險貸借ニ根源シタリトスルモノナルヘシ又或ハ中世紀ノ頃ニ於テ寺院法カ利息制限ヲ行ヒタル結果ニ歸スルモノアリ即チ金錢ノ貸借ヲ爲スニ當リ或危險ヲ保證スル條項ヲ加ヘ保險料ナル名稱ヲ以テ高利ヲ約束シタルニ基クモノトスルニアリ要スルニ保險ニ類シタル行爲又ハ保險ナル名稱ハ第十一世紀ノ頃ヨリ歐洲ノ歴史中ニ散見シタルモノ、如シ然レトモ近代ノ保險ハ第十四世紀ノ頃地中海ノ商權ヲ掌握シ居リタルロンバトト人カ地中海ノ商業ニ付テ行ヒタリシ海上ニ於ケル危險ノ共濟組合ニ淵源スルモノトスルヲ以テ最モ妥當ナリト信ス此組織ハ葡萄牙、西班牙ニアリテハ政府ノ獎勵スル所トナリ次テ和蘭ニ入り終ニ英國ニ轉シテ茲ニ其大成ヲ見タルモノナリ夫ノ

千四百三十四年ノハルセロナノ法典千五百二十三年ノフロレンスノ法典ハ海上保險ニ關シテ規定ヲ有スル最モ古キ法典ナリト稱セラル英國ニ於テハ千六百一年英國海上保險ノ裁判所法ヲ發布シ其首文ニ題シテ「海商ヲ獎勵スルニハ海上保險ヲ獎勵スルコト最モ緊要ナレハ茲ニ海上保險裁判所ヲ設置スルコトヲ定ム」ト宣言シタリ
火災、生命ノ保險ニ至リテハ歐洲ノ中古ニ於テ盛ンニ行ハレタル「ギルド」(Guild)ノ組織ト年金賣買ニ關係ヲ有スルモノナリ火災保險ハ千六百六十六年ニ於ケル龍動市ノ大火ニ刺激セラレテ起リタル火災相互保險會社ヲ以テ嚆矢トス(千六百六十七年設立)此會社ノ組織ハ極メテ簡單ナルモノニシテ一軒ノ家屋ニ付キ五百磅ヲ支拂フノ仕組ナリシカ終ニ營業ヲ繼續スル能ハスシテ三年ニシテ倒レタリ然レトモ其後英國ニ於テ火災保險業ヲ營ムモノ陸續トシテ起リ第十八世紀ノ頃ニハ既ニ歐洲大陸ニ波及シタリ生命保險ハ第十七世紀ノ中葉ニ當リ英國ニ於テ猛烈ナル惡疫流行シ多數ノ死亡者ヲ生シタルカ爲メ政府ニ於テ年々死亡ノ數ヲ記錄シタル報告書(Bill of mortality)ヲ公布シタリシカ之カ動機トナリテ遂ニ千六百六十九年ニ

「ミステリー、オブ、マートン」ト稱スル保險會社起リ後千七百六年ニ有名ナル「ア
ミケール」保險會社設立セラレ茲ニ生命保險ノ端緒ヲ成セリ然レトモ此時代ニ
於テハ火災、生命共ニ不完全ナル統計ノ下ニ海上保險ノ習慣ヲ準用シタルニ過キ
サリシヲ以テ頗ル富籤ニ類似シ人皆之ヲ賭博視セリ保險制度カ稍、面目ヲ改メタ
ルハ近ク第十九世紀ニ入りタル後ニアリトス

保險ノ種類

第二 保險ノ種類

保險ハ海上保險ニ始マリ次テ火災保險及ヒ生命保險ヲ醸成スルニ至リタルモノ
ナルコト上述ノ如シ而シテ第十九世紀ノ中葉ニ至ルマテハ保險ト云フトキハ此
三者ノ外ニ出テサリシカ近時保險ノ學理的、研究漸次發達スルニ從ヒ保險ノ種類
ハ著シク増加シ且同シク海上保險、火災保險又ハ生命保險ト云フモ其内容ニ於テ
ハ大ニ擴張セラレタリ故ニ現今行ハレツ、アル所ノ保險ノ種類ハ頗ル多ク種々
ノ標準ニ依リ之ヲ分類スルコトヲ得ヘシト雖モ大體ニ於テ之ヲ物ノ保險及ヒ人
ノ保險ノ二者ニ區別スルヲ以テ最モ通常ナリトス此區別ハ畢竟災害ノ生スヘキ
目的物ニ因リ下シタルモノニシテ物ノ保險ナル語中ニハ商品、家屋等ノ有形物ノ

保險ノミナラス信用ノ保險例ハ、抵當保險、保證保險或ハ未來ニ取得スヘキ利益
ノ保險ヲ包含シ又人ノ保險ニハ死亡、疾病、負傷若クハ年齢ノ保險ノ如キハ勿論出
生、結婚等ノ如キ凡テ人身ニ關係アルモノ、保險ヲ包含スルモノトス
次ニ學者ノ舉クル所ノモノハ賠償保險、定額保險ノ區別ナリ這ハ保險契約ノ性質
ニ基キ爲シタル區別ニシテ賠償保險トハ災害ニ因リテ生スル損害ヲ填補スル性
質ヲ有スル保險ヲ謂フ所謂損失トハ現ニ存在スル利益ノ毀損ハ勿論將來ノ利益
ノ毀損ヲモ包含ス又定額保險トハ災害ニ因リテ生スル損失ノ額ヲ客觀的ニ定ム
ルコトナク保險スル者ト保險セラル、者トノ間ニ災害ノ發生ニ因リ一定ノ金額
ヲ支拂フヘキコトヲ約スルニ因リテ生スル保險ナリ例ハ死亡保險、終身保險ノ
如キ是ナリ
抑モ保險契約ハ近キ以前マテハ凡テ賠償契約 (Contract of indemnity) ナリトノ觀念
ヲ有シタリ即チ保險契約ニハ必ス被保險利益ナカルヘカラス而シテ其被保險利
益カ或種類ノ災害ノ發生ニ因リテ喪失シタル場合ニ於テ其損失ヲ填補セラレ、
モノ即チ保險契約ナリト云フニアリ然ルニ生命保險モ亦保險ノ一種ナルヲ以テ

何故ニ生命保険カ賠償契約ナルヤニ付キ種々ノ説ヲ生シタリ
 第一説 人ノ勞力ハ經濟上生産ノ要素ナリ故ニ人ノ生命ハ生産ノ原動力ナリ人
 ノ中ニハ小兒老衰者ノ如キ生産ニ何等效力ナキモノアリト雖モ一般ニ云フト
 キハ人ノ生命ハ經濟上必ス價值ヲ有スルモノナリ生命保険ハ此經濟上ノ價值
 ノ喪失ヨリ生スル損失ヲ填補スルコトヲ目的トスルモノナリト然レトモ人ノ
 生命ハ金錢的價值アリト云ヒ得ヘキハ勿論ナルモ其果シテ幾何ノ價值アルヤ
 ハ到底評價スルニ由ナシ從テ賠償的意義ヲ以テ生命ノ喪失ヲ保險スルカ如キ
 ハ一般ニ不能ノコト、云ハサルヘカラス此説ハ謂ハレナシ
 第二説 人ノ生命ハ最高ノ價格アリ其全價格ハ到底之ヲ賠償スルニ途ナシ故ニ
 當事者ニ於テ合意的ニ其價格ノ一部ヲ定メ以テ損失ノ一部ヲ填補スルコトヲ
 目的トスル一部保險ナリト然レトモ此論據ハ愈窮シテ愈拙ナルモノト云ハサ
 ルヘカラス所謂生命ハ最高ノ價格アリト云フカ如キハ其價值ノ評價スル能ハ
 サルコトヲ自白スルモノニアラスヤ其説ノ不當ナルコト論ヲ俟タス
 要スルニ生命保険ハ凡テ賠償契約ナリト云フヲ得サルト同時ニ保險ハ凡テ賠償

契約ナリト云フヲ得ス蓋シ斯ノ如ク云フトキハ生命保険ハ保險ニアラスト云ハ
 サルヘカラスサルニ至レハナリ生命保険ヲ以テ賠償契約ナリトスルハ到底余輩ノ
 賛同スル能ハサル所ナリ
 定額保險ニ二種アリ賠償的定額保險及ヒ純粹定額保險是ナリ賠償的定額保險ト
 ハ例ヘハ疾病保險、負傷保險若クハ徵兵保險ノ如ク醫療又ハ職業ノ中絶ヨリ生ス
 ル損失ヲ賠償スル趣旨ニ基ケルモノナルモ固ヨリ損害ノ實額ヲ填補スルニアラ
 スシテ豫メ契約ニ依リ一定シタル額ヲ支給スルモノヲ謂ヒ純粹定額保險トハ例
 ヘハ終身保險、養老保險ノ如キ全ク損失填補ノ觀念ナキ純粹ナル金額約束(給付約
 束)ヲ謂フ
 賠償保險ト定額保險トノ區別ハ其大體ニ於テ物ノ保險ト人ノ保險トノ區別ニ一
 致ス然レトモ全ク相等シキモノニハアラス例ヘハ債權者カ其債權ノ辨濟ヲ得ル
 コトヲ目的トシテ債務者ノ生命ヲ保險ニ付スルカ如キ(我商法ニハ認メラレサル
 モ)若クハ甲カ將來二年間生存スルトキハ乙ヨリ或財産ノ遺贈ヲ受クヘキ權利ヲ
 有スル場合ニ甲ノ妻カ甲ノ生存ヲ二年間保險ニ付シタルカ如キ何レモ人ノ保險

ナリト雖モ尙ホ賠償保險ナリ之ニ反シテ物ノ保險ニシテ定額保險ナルモノハ存セサルナリ

我商法ニ於テハ保險契約ヲ損害保險即チ賠償保險ト生命保險トニ區別シタリ是レ主トシテ立法上ノ便宜ニ基キタルモノナレトモ此區別ハ物ノ保險、人ノ保險ナル區別ト賠償保險、定額保險トノ區別ヲ折衷シタルカ如キ觀アリ蓋シ商法ニ於テ生命保險ト云フハ死亡、生存、疾病、兵役ノ如キ人ノ身體ニ關スル保險ハ總テ之ヲ包含スルモノト解釋セラル、ヲ以テナリ

保險事業

第四 保險事業

保險ノ本質ハ既ニ述ヘタルカ如ク一人カ被ムルヘキ經濟的不幸ヲ同一ノ危險ノ下ニ在ル多數人ノ間ニ分擔セシムルニアリ故ニ保險ノ作用ヲ完ウスルニハ同一ノ危險ノ下ニ在ル多數人ノ團體ト其事務ヲ取扱フヘキ機關ヲ要スルハ明カナリ而シテ同一ノ危險ノ下ニ在ル多數人カ團體ヲ組織スルハ知己朋友間ニ於テハ敢テ困難ニハアラサルモ此等ノ者ノミヲ以テ組織スルトキハ其範圍頗ル狹隘ニシテ到底保險ノ實效ヲ收ムル能ハス去レハ廣ク一般公衆ニ向テ團體ノ加入者ヲ募

ラサルヘカラス一般公衆ニ對シテ保險ノ事務ヲ執行スルコトヲ稱シテ保險事業ト云ヒ其事業ヲ取扱フ機關ヲ保險業者ト云フ而シテ我國ニ於テハ保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ得ルニアラサレハ之ヲ營ムコトヲ得サルモノトナセリ(保險法一)

保險事業ニ二種アリ一ハ營利ヲ目的トスルモノ二ハ營利ヲ目的トセサルモノ是ナリ

一 營利的保險事業

營利的保險事業トハ保險業者カ利益ヲ得ル目的ヲ以テ保險ノ引受ヲ爲シ保險契約ニ依リテ生スル損益ハ一切保險業者ニ於テ取得負擔スルモノヲ謂フ元來保險ハ同一ノ危險ノ下ニ在ル多數人カ災害ニ因リテ生スル損害ヲ分擔スル趣旨ニ外ナラサルモノナレトモ互ニ相識ラサル多數人カ團體ヲ成スハ危險ナルノミナラス災害ノ分擔ニ付キ一定ノ制限ナキハ團結ヲ成スニ付キ頗ル不便ナル事情アリ故ニ若シ一人カ若干ノ報酬ニ對シ一定ノ災害ヨリ生スル損害ノ賠償若クハ或金額ノ給付ヲ爲スヘキ責任ヲ負ヒ以テ同一危險ノ下ニ在ル多數人ヲ募集スルトキハ一方ニ於テハ保險申込人ハ保險引受人ノ資力、信用ヲ目的ト

シ保險契約ヲ爲スコトヲ得ヘク他方ニ於テハ保險引受人ハ自己ノ勤勞ニ因リテ自己ノ利益ヲ増進スヘキ希望ヲ有スルカ故ニ努メテ汎ク保險申込人ヲ募集シ自然ニ大ナル保險團體ヲ形成シ間接ニ共濟分擔ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ此方法ハ資本家ヲシテ保險事業ニ投資セシムルニ頗ル便利ニシテ實ニ保險制度カ今日ノ盛大ヲ致シタルハ畢竟此方法カ主因タリト云フモ不可ナキカ如シ然レトモ元來保險制度ハ相互救濟ヲ基礎トスルモノニシテ營利的保險事業モ亦此原則ノ適用ニ過キサルナリ即チ營利的保險業者ハ法律上ハ直接ノ責任者ナリト雖モ其支拂フ所ノ金額ハ其實保險申込人ヨリ受クル所ノ報酬ヲ以テ之ニ充ツルモノタリ故ニ若シ保險業者カ受クル所ノ報酬僅少ニシテ支拂フ所ノ金額巨大ナランカ保險業者ハ縱令巨額ノ資力ヲ有スト雖モ終ニ倒産ノ運命ニ遭ヒ殘存セル保險契約ニ付テノ責任ヲ履行スル能ハサルノ悲境ニ陥ルヘシ之ニ反シテ保險業者ノ利益多大ナルトキハ保險申込人ハ過當ノ分擔金ヲ支出スルノ結果ヲ生シ遂ニ保險申込ニ應スル者ナキニ至ルヘシ斯ノ如ク其何レニ依ルモ不都合ナル結果ヲ免カレサルモノナリ

二 營利ヲ目的トセサル保險事業

營利ヲ目的トセサル保險事業トハ同一危險ノ下ニ在ル者カーノ團體ヲ成シ團體ト組合員トノ間ハ恰カモ營利的保險業者ト保險申込人トノ關係ノ如ク一定ノ料金ヲ徵收シテ危險ヲ保證スルモノナリト雖モ若シ收入シタル料金カ支拂額ヲ超過スルトキハ其過剩金ハ之ヲ團體員ニ返還シ又不足ヲ生スルトキハ其不足額ヲ團體員ヨリ追徴シテ以テ相互救濟ノ精神ヲ實行スルモノヲ謂フ相互保險即チ是ナリ

元來保險事業ハ其本然ノ性質上相互會社トシテ發達スヘキモノナリト雖モ法律上團體ノ資格不明瞭ナル時代ニ於テハ責任ノ基礎薄弱ナルノミナラス危險ノ統計ノ發達セサルトキハ各組合員ノ負擔ハ頗ル不定ナルヲ以テ相互保險ヲ實行スルハ頗ル困難ナリ然レトモ法律制度完備スルト共ニ他方ニ於テ危險ノ統計漸ク確實ナルヲ得ルニ至リテハ相互救濟ノ基礎ニ因レル相互會社ノ發達ヲ見ルハ當然ノ數ナリトス現今保險事業ノ大勢カ相互主義ニ傾キツ、アルハ怪ムニ足ラサルナリ然レトモ相互會社ニ於テモ直接ニ團體員ニ對シテ支拂義

務ヲ負フモノハ相互會社ニシテ(法三六)團體ノ基礎確定スルマテハ一定ノ資金ヲ要ス(法二八)然ルニ相互會社ハ本來利益ヲ得ルコトヲ目的トセサル事業ナルヲ以テ此資金ヲ蒐ムルコト頗ル困難ナルノミナラス保險事業ノ安否ハ相互救助又ハ營利等ノ單純ナル主義ニ依リテ定マルモノニアラスシテ保險ニ加入スル者ノ多寡及ヒ事業管理者ノ技倆ト勤勞トニ因ルコト多ケレハ相互會社必スシモ安全ナリト云フヲ得サルナリ

右營利主義及ヒ相互主義ノ外尙ホ混合主義ナルモノアリ即チ資本家ノ受クル利益ニ一定ノ制限ヲ設ケ其制限以上ノ利益アルトキハ之ヲ被保險者ニ返還スルモノトスルカ如キ又ハ利益ノ幾分ハ資本家ニ於テ之ヲ取得シ其幾分ヲ以テ被保險者ニ分配スルモノトスルカ如キ組織ヲ謂フ此方法モ亦實際ニ行ハレ居ルモノナリ

保險事業ハ最モ確實ナルコトヲ要スルヲ以テ我保險業法ニ於テハ保險會社ハ他ノ事業ヲ兼スルコトヲ得サルノミナラス(法三)尙ホ同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ目的ト爲スコトヲ得サルモノトシ(法四)且又其業務ハ政

府ノ嚴密ナル監督ノ下ニ屬スルモノトナセリ(保險業法九一〇一)是レ唯リ内國保險會社ニ付テノミ然ルニアラス外國保險會社ニ付テモ亦然リトス(明治三十三年九月勅令三八號)

第五 保險法

保險カ單純ナル共濟組合ノ形ニ於テ行ハル、場合ニ於テハ一ノ組合契約トシテ民法ヲ適用スルヲ以テ足レリトスヘキモ保險カ一ノ經濟的事業トシテ活動スルニ至リテハ到底民法ノ原則ヲ適用スルヲ以テ足レリトスル能ハス即チ其取引ノ敏活ヲ圖ルト同時ニ其弊害ヲ防止スルノ目的ヲ以テ特別ノ法規ヲ制定スルヲ要ス

保險カ海上保險ニ始マリシカ如ク保險ニ關スル特別ノ法規モ亦海上保險法ニ始マレリ生命保險、火災保險ハ第十七世紀以來漸次盛大ニ赴キタリト雖モ此等ハ皆海上保險法ノ原則ヲ適用シ居リタルニ過キス現今ニ於テモ海上保險ニ關シテハ各國何レモ特別ノ法規ヲ有スルニ拘ハラス生命保險、火災保險ニ關シテハ特別法規ナキモノ尠ナシトセサルナリ夫ノ佛、獨ノ如キ法制完美ヲ以テ稱セラル、國ニ

於テスラ尙ホ商法中ニ海上保險ニ關スル規定ヲ掲タルニ止マリ生命保險、火災保險ニ付テハ何等規定スル所ナシ唯英國ニ於テ第十九世紀ノ初ニ生命保險、火災保險ニ關スル特別ノ條例ヲ發布シ千八百八十二年ノ伊太利商法、千八百七十五年ノ匈牙利商法等ニ於テ生命保險、火災保險ニ關シ特別ノ規定ヲ制定セルニ過キサレナリ

我國ニ於ケル現今ノ保險法規ハ比較的ニ完備セルモノト云フヘシ即チ保險ノ取引ニ關シテハ商法中ニ保險ニ關スル規定ヲ設ケ之ヲ生命保險ト損害保險トニ別チ殊ニ損害保險ニ付テハ先ツ一般ノ通則ヲ置キ次テ損害保險ノ最モ普通ナル海上保險、火災保險及ヒ運送保險ニ付キ特別規定ヲ設ケ居レリ斯ノ如キ整然タル保險法規ハ現今各國ノ立法例ニ於テ未タ類例ナキ所タリ加之保險事業ニ關シテハ明治三十三年保險業法ヲ制定シテ保險事業ノ監督ヲ完ウセンコトヲ期セリ斯ノ如ク我國ニ於ケル保險法規ハ頗ル整頓シタルモノアリト雖モ尙ホ保險ノ性質ヨリシテ之ニ關スル法律行為ニ付キ保險ノ慣習ヲ適用スヘキ範圍頗ル廣汎ナリ殊ニ我國ニ於ケル保險制度ハ創設日尙ホ淺キヲ以テ外國ニ於ケル保險ノ慣例

本論

損害保險

總則

損害保險契約ノ性質

解釋ノ如キ之ヲ應用シテ我國ノ保險行為ニ關スル問題ヲ解決スヘキ場合頗ル多シトス就中保險ノ約款ニ付キ一層其然ルヲ見ルナリ

本論

第一編 損害保險

第一章 總則

第一節 損害保險契約ノ性質

商法第三百八十四條ハ規定シテ曰ク「損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス」ト此規定ハ實ニ損害保險契約ノ定義ヲ下シタルモノト見ルヘキヲ以テ余ハ移シテ以テ之ヲ定義トナシ其法理上ノ性質ヲ解説セントス

第一 損害保險契約ハ賠償契約ナリ

損害保險契約ニアリテハ偶然ナル事故即チ被害者ノ意思ニ依ラスシテ發生スル所ノ事實ヨリ生スヘキ損害ヲ填補スルコトヲ以テ目的トナス故ニ此契約ハ

必ス先ツ損害ヲ受クヘキ利益ノ存在ヲ前提トス此利益ハ保險社會ニ於テ之ヲ被保險利益ト稱ス古來被保險利益ナケレハ保險ナシト云フ諺ノ存スルハ畢竟保險ノ賠償的性質ヲ有スルコトヲ言ヒ表ハシタルニ過キサレナリ斯ノ如ク損害保險契約ハ賠償契約ナルヲ以テ保險申込者ハ被保險利益ノ範圍ヲ超エテ保險契約ヲ爲スコトヲ得サルヘク又現實ニ受ケタル損害以上ノ保險金ヲ受取ルコトヲ得サルモノトス

第二 損害保險契約ハ射倖契約ナリ

損害保險契約ニ於テ保證スル所ノ損害ハ偶然ナル事故ノ發生ニ因リテ生スルモノナリ故ニ之ヲ賠償スヘキヤ否ヤハ極メテ不確實ナリトス若シ其事故ニシテ發生セザランカ保險者ノ利スル所頗ル大ナリト雖モ之ニ反シテ其事故ニシテ一タヒ發生スルトキハ保險者ノ喪フ所亦甚タ大ナリト云ハサルヘカラス故ニ保險制度ノ本來ノ組織ヨリ云フトキハ保險ハ相互救濟ヲ基礎トスルモノニシテ決シテ射倖的ナルモノニアラス又射倖的ナルヘカラサルモノナルニ拘ハラス之ヲ箇々ノ契約ニ付キ觀察スルトキハ射倖的ノ性質ヲ有スルコト疑ヒナ

シ然レトモ保險契約ヲ目シテ條件附契約ナリトスルハ誤マレリ蓋シ法律上ノ性質ヨリシテ當然存在スヘキ條件ハ所謂條件即チ特ニ當事者カ法律行為ノ本來ノ性質ヲ害セサル限度ニ於テ附加シタル條件ト同シカラサレハナリ

第三 損害保險契約ハ雙務契約ナリ

損害保險契約ニアリテハ保險者カ損害ヲ保證スルニ對シ保險契約者ハ必ス之ニ報酬即チ保險料ヲ與フルコトヲ約セサルヘカラス諺ニ保險者ノ責任ハ保險料ノ受取ヲ以テ始マルト云フハ亦此意ニ外ナラサルナリ古來保險ヲ以テ賣買ナリトシ或ハ貸借ナリトスルノ說存スルハ畢竟保險契約ノ有償契約ナルニ由ラスンハアラス但報酬ノ多寡ニ至テハ法律上ニ於テハ何等ノ關係アルコトナシ

第四 損害保險契約ハ誠意ヲ要スル契約ナリ

普通ノ契約ニ於テハ當事者ハ進テ自己ノ狀態ヲ相手方ニ告知スルノ必要ナシト雖モ保險契約ニ於テハ重要ナル事實ノ告知ハ保險契約者ノ義務トシテ認メラル、所ナリ(商法三九八)

第五 損害保險契約ハ諾成契約ナリ

保險契約ニ於テハ保險者ハ通常保險證券ヲ作成スヘク又請求アルトキハ必ス之ヲ作成交付セサルヘカラサル義務ヲ有ス(商法三)又英國ノ如キハ海上保險契約ハ保險證券ヲ作成スルニアラサレハ成立セサルモノトセリ然レトモ我國ニ於テハ損害保險契約ハ海上保險ニ關スルト否トヲ問ハス凡テ純タル諾成契約ナリトス即チ當事者若クハ其代理人ノ間ニ於テ意思ノ合致アリタル以上ハ特ニ保險證券ノ作成アラサルモ又未タ保險料ノ支拂ヲ爲サ、ルモ損害保險契約ハ完全ニ成立スヘシ然レトモ保險者ノ責任ノ始期ヲ定ムルハ當事者ノ隨意ニ定ムル所ニ任シタルモノニシテ必スシモ契約ノ成立ト時期ヲ同ウスルモノニアラサルナリ

第六 損害保險契約ハ商行爲ナルコトアリ然ラサルコトアリ

保險者ニ取リテハ其營利會社ナルトキハ此契約ハ常ニ商行爲ナリト雖モ若シ相互會社ナルトキハ商行爲ニアラス(商法二)又保險契約者ニ取リテハ商人カ其營業ノ爲メニスルモノナルトキハ此契約ハ商行爲ナリ(商法二)其營業ノ爲メニスルモノニアラサルトキ若クハ非商人ニ於テ爲ストキハ此契約ハ商行爲ニアラサルナリ

損害保險契約ノ要素
損害保險契約ノ目的
被保險利益

第二節 損害保險契約ノ要素

第一款 損害保險契約ノ目的(被保險利益)

損害保險契約ノ目的トハ例ヘハ海上保險ニ於ケル船舶積荷火災保險ニ於ケル家屋什器運送保險ニ於ケル運送貨物ト云フカ如ク保險者カ保證セル危險ノ發生ニ因リ生スヘキ損害ノ客體トナルヘキモノ、謂ナリ抑モ損害保險契約ハ通常有體物ニ關スルヲ以テ恰モ其有體物自體カ契約ノ目的ナルカノ如キ外觀アリト雖モ仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ有體物自體カ保險ノ目的タルニアラスシテ其有體物ノ上ニ存スル所ノ利益カ保險ノ目的トナルコトヲ知ルヘシ加之貨物ノ輸送ニ因リテ運送人ノ取得スヘキ運賃又ハ家屋ノ貸借ニ因リテ家主ノ取得スヘキ家賃ノ如キ直接ニ有體物ノ上ニ存シ居ラサル利益モ亦損害保險ノ目的トナルコトヲ得ヘシ是ニ由テ之ヲ觀レハ損害保險契約ニ於テハ有體物カ目的トナルモノニアラスシテ有體物ノ上ニ存シ又ハ有體物ニ關スル利益カ目的トナルモノナリ我商法

ニ於テモ「損害保險ノ目的」ナル語ハ上述ノ意義ニ於テ使用セルモノトス尤モ往々有體物ノ意義ニ用キラレ居ルモノナキニアラス例ヘハ商法第三百九十六條ノ規定ノ如シ

損害保險契約ハ事變ノ發生ニ因リテ生スヘキ損害ヲ填補スルコトヲ目的トスル契約ナルヲ以テ利益ノ存在ヲ前提トスヘキハ勿論ナリ所謂「利益ナケレハ保險ナシ」トノ古語ハ保險制度全體ノ原則トシテハ舊思想タルヲ免カレスト雖モ少ナクトモ損害保險契約ノミニ付テハ動スヘカラサル原則ナリトス蓋シ損害保險制度カ事業ノ繼續ヲ安全ニシ取引ノ信用ヲ保持スル等經濟上有益ナル效果ヲ擧ケ夫ノ偶然ナル事故ノ發生如何ニ因リテ輸贏ヲ決スルカ如キ單純ナル賭博ト差異ヲ生スル所以ハ實ニ此利益ノ有無ニ在リト云フヘシ然レトモ如何ナル利益ハ果シテ損害保險ノ目的ト爲スコトヲ得ルヤ換言スレハ保險シ得ヘキ利益（通常之ヲ被稱）ハ如何ナル性質ノモノナルヘキヤハ特ニ研究ヲ要スル問題ナリ

現今ノ實際ニ於テ損害保險ノ目的トナリ居ル所ノ利益ハ極メテ雜漠ニシテ到底定義的ニ且概括的ニ之ヲ説述スルコトヲ得ス舊商法ハ第六百二十七條第一項ニ

於テ「所有權債權其他ノ權利名義又ハ權利關係ニ基因スル財産上ノ利益ニシテ之ニ關スル危險ノ發生ニ因リ被保險者ニ直接ニ損害ヲ加フヘキモノハ保險ニ付スルコトヲ得ル利益トス」又其第二項ニ於テ「博奕、賭事、富講又ハ其他ノ意外ノ事ニ依ル僥倖ノ利益ハ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得ス」ト云フカ如キ稍定義的ノ規定ヲ設ケタリト雖モ以テ諸種ノ疑問ヲ解決スルノ標準トスルニ足ラサルノミナラス却テ保險ノ發達ヲ害スルノ虞アリ故ニ新商法ニ於テハ單ニ「保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限リ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得（商法三五）」ト規定スルニ止メ汎ク解釋及ヒ當事者合意ノ餘地ヲ存シタリ故ニ我商法ノ下ニ於テハ金錢ニ見積ルコトヲ得サル利益例ヘハ名譽、愛情、信用又ハ宗教上ノ安心等ノ如キモノハ縦シヤ或事故ノ發生ニ因リテ生命ニモ代ヘ難キ重大ナル不幸ヲ生スルコトアルモ之ヲ以テ損害保險ノ目的トナスコトヲ得サルハ明カナリト雖モ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ナル語ハ極メテ廣汎ナル意義ヲ有シ果シテ如何ナルモノヲ包含スヘキヤハ頗ル困難ナル問題ナリトス

此被保險利益ノ解釋ニ付テハ英國ノ判事ローレンス氏ノ説ハ頗ル參考ニ資スヘ

キモノアリ其説ニ曰ク物ニ隨伴スル狀況ニ因リ利益ヲ得又ハ損失ヲ被ムリ且其物ノ安全ナルコト及ヒ其他ノ狀態ノ繼續スルヲ以テ己ノ便利トナス所ノ人ハ其物ニ付キ利益ヲ有スルモノナリ利益トハ物ノ全部又ハ一部ニ對スル權利ノミノ謂ニハアラス又必スシモ絶對ニ獨占的ノモノナルコトヲ要セス要スルニ被保險者カ保險者ノ負擔シ居レル危險ノ發生ニ因リ被保險者ニ損害又ハ經濟的不幸ヲ生スヘキ關係ヲ保險ノ目的トナサントスル有體物ノ上ニ有スルトキハ此關係ヲ利益ト稱スルナリ又或人カ或事故ノ發生スヘキ虞アリトハ云ヘ其事故發生セサルトキハ將來ニ於テ利得ヲ得ヘキ確實ナル狀況ニ在ルトキハ其人ハ狀況ノ安全ニ付キ利益ヲ有シ又人カ或物ノ存在ニ因リテ益ヲ受ケ減失ニ因リテ損ヲ招クヘキ狀況ニ在ルトキハ其人ハ其物ノ保存ニ付キ利益ヲ有スルモノナリ物ノ所有權ト物ニ牽聯スル利益トハ判然之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ前者ハ物ノ價格カ其利益ノ價值ヲ示シ後者ハ利益ヲ得ルノ程度如何カ其價值ヲ定ムルモノトスト惟フニ損害保險ニ於テ被保險利益ノ存在ヲ必要トスルハ沿革上賭博ト區別セントスルヲ以テ主眼トスルモノナレハ苟モ經濟上ノ損失ヲ免カレントスルノ意思ニ出

テ且實際ニ於テ保險者ノ保證スル危險ノ發生ニ因リ經濟上ノ損害ヲ生スヘキ狀態ニ在ルモノハ其狀態ト關係ヲ有スル所ノ有體物ニ付キ利益ヲ有シ從テ其利益ヲ目的トシテ損害保險契約ヲ有效ニ締結スルコトヲ得ヘシト云フニアリ利益ノ觀念ハ上述ノ如クナルヲ以テ現存スル物ノ所有權者カ其物ノ全價格ニ付キ被保險利益ヲ有スルハ勿論留置權者、質權者、先取特權者、抵當權者ノ如キモ各其債權ノ限度ニ於テ權利ノ目的タル物ニ付キ被保險利益ヲ有スルモノトス加之物ノ所有權者カ物ノ滅失ニ付キ危險ヲ借主ニ負擔セシメテ賃貸ヲ爲シタル場合若クハ物ヲ賣却シテ危險ヲ買主ニ負擔セシメタルモ未タ代金ヲ受取ラサル場合ニ於テ貸主又ハ賣主ハ其物ノ全價額ニ付キ被保險利益ヲ有スルモノトスルハ歐米ニ於テ一般ニ認ムル所ナリ之ト同時ニ其物ノ賃借人若クハ買主モ亦其物ノ全價額ニ付キ被保險利益ヲ有シ其他危險ヲ負擔シ居ル所ノ受寄者若クハ運送者ハ其受寄物又ハ運送貨物ノ上ニ被保險利益ヲ有スルコト明カナリ次ニ將來取得スヘキ物ノ所有權例ヘハ土地ヨリ生スル將來ノ收穫ノ如キ又ハ將來取得スヘキ利得例ヘハ物ノ安全ナル到達ニ因リテ受クヘキ運賃、手数料其他ノ利益ノ如キ若クハ

或工作物ノ製造ニ依リ受クヘキ工賃其他ノ利益ノ如キモ亦一般ニ物ニ關スル被保險利益トナセリ又米國ノ判例ニ依レハ鐵道會社カ過テ沿道ノ民家ニ火災ヲ生セシメタル場合ニハ法律上賠償ノ責任アルトキハ鐵道會社ハ其沿道ノ民家ニ付キ被保險利益アリトシ又各國ノ實例ニ於テハ保險會社ハ自己カ保險ヲ引受ケタル船舶若クハ家屋ニ對シテハ危險ノ發生ニ因リ損害ヲ填補スヘキ責任アルヲ以テ其船舶若クハ家屋ニ付キ被保險利益アリトナセリ(再保險ノ場合是ナリ)此等二箇ノ場合ハ危險ノ不發生ニ因リテ損害ヲ免カル、コトヲ得ルノ状態ヲ利益ト見ルモノナリ

斯ノ如ク利益ナル語ハ頗ル廣汎ナル意義ヲ有スト雖モ利益ト利益ヲ得ヘキ希望トハ之ヲ區別セサルヘカラス英國ノ判事ロールド、エルドン氏曰ク立法者カ假想的財産ニ對スル保險ノ名ノ下ニ賭博ヲ試ムルノ途ヲ禁壓セントシタル注意ヲ顧ルトキハ希望若クハ豫想ノ如キ純粹ナル想像的ノ利益ヲ以テ保險ノ基礎トスルハ避ケサルヘカラサルコトニ屬スト蓋シ利益ト利益ヲ得ヘキ希望トノ區別ノ標準ハ極メテ困難ナリ道理上確實ト云ヒ得ヘキ程度ナリヤ否ヤヲ以テ區別ノ標準

ト爲スコトハ人ニ依リテ其見ヲ異ニシ到底正確ナル能ハス要スルニ保險者ノ負擔スル危險ノ發生セサル限リハ利益ヲ得ヘキ状態カ被保險者ト被保險物トノ關係ニ於テ法律上直接ニシテ且確實ナルト否トノ標準ニ依リテ利益ト希望トヲ區別スヘキモノトスルハ多數學說ノ認ムル所ナルカ如シ故ニ贈與ヲ受クルノ望アル者カ其希望ヲ有スルハ以テ其物ニ付キ被保險利益ヲ有スルモノト云フコトヲ得ス故ニ之ヲ保險ニ付スルハ無効ナリト云ハサルヘカラス又株式會社ノ株主ハ其會社ノ財産カ滅失スルトキハ之ニ因リテ損害ヲ被ムルコトアルヘキモ會社財產ト株主トハ直接ニ何等法律上ノ關係ナキヲ以テ其會社財產ニ付キ株主ニ被保險利益アリト云フコトヲ得ス尤モ未來ニ取得スヘキ利益ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其契約ハ全然無効ナリト云フヘカラス例ヘハ賣買契約ノ成立前ニ於テ或物品ヲ買取ルヘキコトヲ豫想シテ之ヲ船舶ニ積込ムノ契約ヲ爲シ同時ニ保險契約ヲ締結スルコトハ商業者ノ間ニ屢行ハル、所ニシテ此等ノ契約ヲ全然無効ナリトスルハ實際ニ於ケル取引ノ發達ヲ阻害スルヲ以テ現今ニ於テハ之ヲ保險契約ノ豫約ト看做シ其賣買ノ成立シ且物ヲ船積スルニ至リタルトキハ保險契約ハ

茲ニ完成ヲ告クルモノト認メ居レリ
 茲ニ注意スヘキハ人ノ生命ニ關スル利益ハ縱令金錢的價值アルモノト雖モ損害
 保險ニ於ケル被保險利益トナル能ハサルコト是ナリ蓋シ我商法ニ於テハ人ノ生
 死ニ關スル保險ハ總テ生命保險トナシ(商法四)全然損害保險ト之ヲ區別シ而シテ
 生命保險ニ在テハ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者其相續人又ハ親族ニ限ルモ
 ノトシ(商法八)金錢的利益ノ有無ハ之ヲ問ハサルモノト規定シタルヲ以テナリ
 又保險ノ目的タルコトヲ得ヘキ利益ハ適法ノモノナルヲ要スルコトハ勿論ナリ
 不適法ナル利益ヲ目的トスル保險契約ハ不適法ナル行爲ヲ保證スル契約トシテ
 民法第九十條ノ原則ニ依リ當然無効トナルヘキナリ故ニ賊物ニ關スル利益又ハ
 戰時禁制品ノ輸送ヨリ生スル利益又ハ賭博ヨリ得ヘキ利益ノ如キハ何レモ被保
 險利益トナルコトヲ得サルモノト知ルヘシ

保險價額
 及ヒ保險
 金額

第二款 保險價額及ヒ保險金額

我商法ニ依レハ保險契約ノ目的ノ價額ヲ稱シテ保險價額ト云ヒ保險者カ其負擔
 シタル危險ノ發生ニ因リ保險ノ目的カ全部喪失シタル場合ニ支拂フコトヲ約シ

保險價額

タル金額ヲ稱シテ保險金額ト云フ

第一 保險價額

保險價額ハ損害保險契約ニ於テハ頗ル重要ナルモノアリ蓋シ保險ノ目的ハ保險
 價額ニ依リテ具體的ニ表明セラル、モノトス而シテ保險價額ヲ算定スルニハ被
 保險者カ利得ヲ爲ス限度ニ於テ之ヲ定ムヘキコト勿論ナルモ其算定ノ標準タル
 時及ヒ場所ニ依リテ自ラ差異ヲ生スヘシ此標準ニ付テハ左ノ三主義アリ
 第一主義 保險者ノ責任ノ始マル時及ヒ場所ニ於ケル保險ノ目的ノ價額ニ依ル
 此主義ハ簡單ニシテ且實行シ易キノ利益アルモ現實ニ生スヘキ損害ヲ賠償ス
 ル損害保險ノ精神ヨリスルトキハ價額ノ變動少ナキモノニ關スルニアラサレ
 ハ不公平ノ結果ヲ生スルモノトス
 第二主義 保險者ノ責任ノ終ル時及ヒ場所ニ於ケル保險ノ目的ノ價額ニ依ル
 此主義ハ所謂損害保險ハ被保險者ヲ損害ノ發生ナカリシ程度ニ置クト云フ原
 則ニハ適合スルモ保險契約ノ當時ニ於テ之ヲ測定スルコト頗ル困難ナリ
 第三主義 損害發生ノ時及ヒ場所ニ於ケル保險ノ目的ノ價額ニ依ル

此主義ハ損害保險ノ精神タル損害ノ實額ヲ賠償スト云フコトニハ適合スルモ海上保險若クハ運送保險ノ如キ物ノ運動中ニ於テ起ルヘキ危險ヲ保證スル場合ニハ其適用頗ル困難ナリ

我商法ハ以上三主義中其何レヲ採用シタルヤヲ按スルニ原則トシテ第三主義ヲ採リ或場合ニ第一第二ノ主義ヲ混用シ居ルモノト信ス蓋シ商法第三百九十三條ノ規定ハ保險者カ填補スヘキ損害額ノ算定方法ヲ定メタルモノナルモ全部損害ノ場合ニ於テハ其填補スヘキ額ハ保險ノ目的ノ全價額ニ相當スルモノナルヲ以テ此規定ハ亦同時ニ保險價額算定ノ原則ヲ定メタルモノト見ルコトヲ得ヘシ而シテ運送保險ニ於ケル運送品ノ保險價額海上保險ニ於ケル船舶積荷及ヒ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ニ關スル保險價額ヲ算定ニ付テハ特別ノ規定ヲ設ケタリ即チ運送保險ニ於ケル運送品ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル運送品ノ價額ト到達地マテノ運送賃仲買人ニ支拂ヒタル手數料保險料其他ノ費用ヲ加ヘタルモノヲ以テ保險價額トナシ(但運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アル場合ニ限り之ヲ保險價額中ニ算入ス)(商法四二四)又海上保險ニ於ケル船舶ニ付

テハ保險者ノ責任ノ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トシ(法文ニハ場所ニ付キ規定ナキモ責任開始ノ時ニ於ケル場所ト解スヘキモノナラン)(商法五六)積荷ニ付テハ船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トシ(商法五七)積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トナシタルモノト推定スルコトハセリ(商法五六)

保險價額算定ノ標準ニ付テハ上述シタルカ如シ然レトモ損害ノ發生シタル場合ニ於ケル價額ヲ標準トシテ豫メ保險價額ヲ定ムルハ實際ニ於テ不能ナルヲ以テ商法第三百九十四條ハ當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ズト規定シ先ツ以テ當事者ノ約定シタル所ニ依ルモノトナセリ此當事者カ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メタル保險ハ之ヲ稱シテ評價濟保險ト云ヒ然ラサル保險ハ之ヲ稱シテ評價未濟ノ保險ト云フ

保險金額

第二章 保險金額

保險價額ハ契約ニ於テ之ヲ定ムルト否トハ自由ナリト雖モ保險金額ハ必ス之ヲ約定セサルヘカラス蓋シ保險金額ハ保險者ノ負擔ノ限度ヲ示スト同時ニ保險料算出ノ基礎トナルモノナレハナリ斯ノ如ク保險金額ハ保險者ノ責任ニ付テノ標準ナリト雖モ時トシテハ保險者ハ保險金額以上ノ支拂ヲ爲サ、ルヘカラサルコトアリ(商法四)又我商法ニ在テハ保險者ノ填補責任ハ現實ニ生シタル損害額ヲ標準トスルヲ以テ(商法三)損害カ保險ノ目的ノ一部ニ付テノミ生シタルトキハ保險者ノ現實ニ支拂ハサルヘカラサル額ハ保險金額ニ及ハサルコトアリ其他同一ノ利益ニ付キ數多ノ保險者ニ於テ保證ヲ爲ストキハ各保險者ノ負擔ハ必スシモ其約シタル保險金額ト同シカラサルナリ以下之ヲ分説スヘシ

一 全部保險

全部保險トハ保險價額ノ全部ヲ保險金額トナシタル保險契約ノ謂ナリ而シテ其重複保險又ハ共同保險ノ場合ニ付テハ後段ノ説明ニ讓ルヘキモ一保險者トノ間ニ於ケル全部保險ナルトキハ保險ノ目的カ全部滅失スルトキハ保險金額ノ全部ヲ支拂フヘク若シ損害カ一部ニ止マルトキハ其生シタル損害ノ全部ヲ

支拂フヲ以テ足レリトス(商法三)是レ損害ノ實額以上ニ支拂ヲ爲ストキハ被保險者ハ不當ノ利得ヲ爲スニ至リ保險制度ノ目的ニ反スレハナリ又損害ノ發生ニ當リ被保險者カ損害ノ防止ヲ努メタルトキハ之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用ハ保險者ノ負擔ニ歸シ其費用額ト損害額トノ合計カ保險金額ヲ超ユルトキト雖モ保險者ハ其全部ヲ支拂ハサルヘカラス(商法四)蓋シ損害防止ノ費用ハ通常損害ヲ輕減スルノ效アリト看做サルヘキヲ以テ縱令其結果ニ於テハ全部ノ損害ヲ生シタリトスルモ其手段カ不必要ナラザリシ以上ハ保險者ニ於テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナレハナリ況ヤ我商法ハ損害ノ防止ヲ以テ被保險者ノ義務トナセルニ於テオヤ

二 超過保險

保險金額カ保險價額ヲ超過スルトキハ之ヲ超過保險ト云フ損害保險ニアリテハ損害ノ填補ヲ主眼トスルヲ以テ保險價額ヲ超過シタル保險金額ヲ定ムルハ許スヘカラサルコトニ屬ス蓋シ其超過部分ニ付テハ一種ノ賭博契約ノ性質ヲ有スルト同時ニ被保險者ハ危險ノ發生ニ因リ不利益ヲ受クルコトナクシテ却

テ利得ヲ爲スニ至ルヘク從テ其危險ノ發生ヲ希望シ動モスレハ之ヲ誘發スルノ弊ヲ生シ公益ヲ害スルコト甚クシケレハナリ故ニ昔時ニ在テハ超過保險ハ全然之ヲ無効トスルノ主義行ハレタリシモ此主義ハ却テ實際ノ不便ヲ來スコト尠ナカラス即チ被保險者ニ惡意ナクシテ超過保險ヲ爲スカ如キハ豫定保險等ニ在テハ屢起ルヘキモノナルニ悉ク之ヲ無効トスルトキハ當事者ノ不便尠ナカラサルヲ以テナリ是ヲ以テ現今ニ於テハ單ニ其超過部分ニ付テノミ契約ヲ無効トシ保險價額ニ相當スル範圍ニ於テハ契約ヲ有效トスルヲ通例トス我商法ノ規定モ亦然リ(八六法三)尙ホ超過保險ハ一保險者カ保險ヲ引受ケタル場合ニモ存スヘキモ重複保險ノ場合ニ於テ最モ其多キヲ見ル(八六法三)

三 重複保險

重複保險トハ同一ノ目的ニ付キ同一ノ危險ニ對シ數箇ノ保險契約アル場合ヲ謂フ故ニ同一ノ目的ニ付キ數箇ノ保險契約アルモ必スシモ重複保險ニアラサルナリ例ヘハ家屋ノ所有者カ所有者トシテ其家屋ノ全價額ヲ火災保險ニ付シ又其家屋ノ抵當權者若クハ質權者カ自己ノ有スル利益ニ付キ同一ノ家屋ヲ

火災保險ニ付シタリトスルモ決シテ重複保險トナルコトナシ蓋シ同一ノ利益ニ付キ數箇ノ保險契約アル場合ニ於テ始メテ重複ノ問題ヲ生スルモノナレハナリ又同一ノ目的ニ付キ數箇ノ保險契約アルモ各契約ノ保證スル危險異ナルトキハ重複ノ問題ヲ生セサルナリ例ヘハ船舶ノ所有者カ甲保險者トハ普通ノ海上危險ニ對シ保險契約ヲ爲シ乙保險者トハ甲保險者カ保證シ居ラサル所ノ戰時拿捕ノ危險ニ付キ保險契約ヲ締結シタル場合ノ如キ是ナリ蓋シ危險カ異ナルトキハ保險者ノ責任ハ全ク其基礎ヲ異ニスルヲ以テ損害填補ニ於テ重複ノ場合ヲ生スルコトナケレハナリ但前例ニ於テ乙保險者カ戰時拿捕ノ危險ト併セテ普通ノ海上危險ヲモ保證シタリトセハ其甲保險者ト共通ナル危險ノ範圍内ニ於テ重複保險ヲ成スコト勿論ナリ

重複保險ニハ二箇ノ種類アリ即チ左ノ如シ

(甲) 數箇ノ保險契約ノ保險金額ノ總額カ保險價額ヲ超過セサル場合 例ヘハ一萬圓ノ價額アル財産ノ所有者カ甲保險者トハ五千圓乙保險者トハ五千圓ノ保險金額ヲ以テ保險ニ付セシ場合ノ如シ此場合ニ於テハ各保險存ハ後ニ

モ述フルカ如ク一部保険ノ原則ニ從ヒ各自責任ヲ盡セハ足ルモノニシテ別ニ困難ナル問題ヲ生セス

(乙) 數箇ノ保險契約ノ保險金額ノ總額カ保險價額ヲ超過スル場合 此場合ニ於テ困難ナル問題ハ超過保險ノ原則ヲ如何ニ適用スヘキカニ存ス以下三箇ノ場合ニ分テ説明スヘシ

(イ) 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後更ニ保險契約ヲ爲ス場合 此場合ニ於テハ保險契約者ハ明カニ超過保險ヲ爲ス意思ヲ以テスルモノナルカ故ニ超過保險ニ於テ超過部分カ無効ナリトセハ後ノ契約ハ無効ナルヘキハ當然ナリ歐洲大陸諸國ニ於テハ伊國ヲ除クノ外後ノ契約ヲ無効トスルノ主義ヲ採用セリ加之佛國ニ於テハ保險契約者ハ後ノ保險契約ニ對シ保險料支拂ノ義務アルモ保險者ニハ何等ノ義務ヲ生セサルモノトセリ然レトモ此場合ニ於テモ保險契約者ハ常ニ必スシモ惡意ナルモノニアラス若シ善意ニテ之ヲ締結セシモノトセハ法律カ進ンテ何レノ契約ヲ無効トスルヤヲ定ムルハ當事者ノ意思ニ反スルモノト云ハサルヘカラス縱令

全部ノ契約ヲ有效トスルモ實際生シタル損害ノ額以上ニ請求權ヲ與ヘサレハ尙ホ損害保險ノ趣旨ヲ達スルコトヲ得ヘキカ故ニ何レノ契約モ完全ニ成立シタルモノトシ保險契約者ヲシテ何レノ契約ニ付テモ保險料支拂ノ義務ヲ負ハシムルト同時ニ其受ケタル損害額マテハ何レノ保險者ニ對シテモ之ヲ要求スルコトヲ得ヘキコトヲ認ムルハ實際ニ害ナクシテ當事者雙方ニ便宜ナルヘシ英國主義ハ則チ是ナリ而シテ善意ナルコトノ最モ顯著ナル場合ハ各保險者ニ數箇ノ保險契約ヲ締結スルコトヲ明示シタル場合ノ如キ是ナリ此點ニ關シテ我商法ノ規定ヲ見ルニ善意惡意ヲ問ハス後ノ契約ハ之ヲ無効トスルノ大陸主義ヲ採リ唯例外トシテ左ノ場合ニ限リ後ノ契約ヲ有效トセリ(商法三八九)

一 前保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ即チ保險契約者ニ於テ前保險者ヲ不確實ト思惟スルカ又ハ發送地ニ於テ保險シタルニ拘ハラズ到達地ニテ保險金ノ授受ヲ爲サンコトヲ欲シ到達地ニ於テ更ニ保險契約ヲ爲サンカ爲メニ前保險者ニ對スル權利ノ

全部若クハ一部ヲ讓渡スコトヲ條件トシテ保險價額ノ全部又ハ一部ノ保險ヲ締結スル場合ナリ此場合ハ形式ニ於テハ超過保險トナルモ實質ニ於テハ超過保險トナラサルナリ

二 前保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ 此場合ニ於テモ實質上超過保險トナラサルコトハ第一ノ場合ト同一ナレトモ茲ニ一ノ問題ヲ生ス即チ後ノ保險者ニ對シテ前保險者ニ對スル權利ヲ拋棄スルコトヲ約シタルニ依リテ前保險者ハ保險金支拂ノ義務ヲ免カル、ヤ否ヤ此場合ハ余ハ消極的ニ解スヘキモノト信ス即チ前保險者ハ支拂ノ義務ヲ免カル、ヲ得ス然レトモ前保險者ニ對スル權利ノ拋棄カ後ノ保險契約ノ有效條件ナルカ故ニ若シ保險契約者カ前保險者ニ要求ヲ爲ストキハ後ノ保險者ハ當然保險金支拂ノ義務ヲ免カル、ノ結果ヲ生スヘシ此點ニ付テハ保險契約者ヲシテ自己ニ便利ナル保險者ニ對シ支拂ヲ請求セシムル英米主義ヲ幾分カ加味セルモノナリト云フヘシ勿論此場合ノ保險者間ニ分擔問題ヲ生セサル

ハ言ヲ俟タス

三 前保險者カ損害ノ填補ヲ爲サ、ルコトヲ條件トシタルトキ 即チ保險契約者ニ於テ前保險者ハ果シテ填補義務ヲ履行スルヤ否ヤニ付キ疑ヲ抱ク場合ニ尙ホ一層確實ヲ希望シテ更ニ保險ヲ締結スル場合ナリ此場合ニハ保險契約者カ先ツ前保險者ニ請求シ尙ホ満足ヲ得サル場合ニ後ノ保險者ニ請求スルコトヲ得ルモノナリ

以上我商法ニ於テハ一方ニ於テ大陸主義ヲ採用スルト共ニ多少當事者ノ便宜ヲ顧慮シテ例外ヲ認ムルモノナルカ當事者雙方ノ便宜ヨリスルトキハ英米主義ノ勝レルニ如カサルナリ然レトモ善意惡意ヲ區別スルハ甚タ困難ナルカ爲メニ特ニ著シク善意ト看做サレ得ヘキ場合ヲ例外トシテ認メタルノ趣意ニアラサルナキカ

(ロ) 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル後更ニ保險契約ヲ爲ス場合 例ヘハ一萬圓ノ價額アル家屋ニ對シテ甲保險者ト保險金額四千圓ノ契約ヲ爲シタル後乙保險者ト同シク四千圓ノ契約ヲ爲シ又次ニ丙保險者ト四千圓ノ

保險金額ヲ約スル場合ノ如シ(若シ此場合ニ更ニ丁保險者ト契約セハイ)ノ場合ニ屬スヘシ(此場合ニ於テハ結局二千圓ハ超過部分トナルヘシ此超過部分ハ如何ニ之ヲ處置スヘキカト云フニ此點ニ付テモ前述セシカ如ク大陸主義ト英米主義トニ分ル即チ大陸主義ニ從ヘハ時ノ順序ニ依リテ效力ヲ定ムヘシトナスモノニシテ前例ノ甲乙ノ保險者ハ共ニ四千圓ノ契約有效トナリ丙保險者ハ二千圓丈ケ有效トナルナリ之ニ反シテ英米主義ニ依ルトキハ何レノ契約モ有效ニシテ保險契約者ハ甲乙丙何レノ保險者ニ對シテモ四千圓マテノ要求權ヲ有シ唯總額一萬圓以上ヲ要求スルコトヲ得サルノ制限アルノミ即チ甲乙丙ノ何レニ對シテモ各三千三百圓餘ヲ要求スルモ又ハ甲ニ二千圓乙丙ニ四千圓ヲ要求スルモ隨意ナリ但保險者間ニハ勿論比例的ニ分配スヘキモノナリ此點ニ關シテ我商法ノ規定ヲ見ルニ第三百八十八條ニ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前保險者先ツ其損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス」トシ文意稍疑ヲ挾ムノ餘地ナキニアラサルモ結局

大陸主義ヲ採レルモノナリ

(ハ) 同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲セシ場合 例ヘハ一萬圓ノ價額アル家屋ヲ甲乙丙ノ三保險者ト同時ニ各一萬圓宛若クハ各四千圓宛ノ保險金額ヲ以テ保險契約ヲ爲セシ場合ノ如シ此場合ニ於テモ超過部分カ無効ナルコトハ明カナルモ何レノ契約ヲ無効トスヘキカニ付キテハ到底適當ナル標準ヲ求ムルヲ得ス英米主義ニ從ヘハ此場合ニ於テモ凡テノ契約ハ有效ニシテ保險契約者ハ何レノ保險者ニ對シテ要求スルモ任意ナルカ故ニ甚々簡單ナレトモ大陸主義ニ依レハ到底何レノ部分ヲ無効トスヘキカニ付キ適當ナル標準ヲ發見スルヲ得サル結果各保險者ハ其約シタル保險金額ノ割合ニ應シテ比例的ニ負擔スルモノトナセリ但同時ニ數箇ノ保險契約ヲ締結スルコトハ實際ニ於テハ殆ト稀ニシテ日附カ同一ナルモ時ニ於テ遲速アレハ其前後ニ依リテ(ロ)ノ場合ヲ適用セルナリ唯同一ノ日附ヲ以テ同一ノ保險證券ニ數箇ノ保險者カ署名シタル場合ニ限リテ比例分擔ノ規則ヲ適用セリ此點ニ關シテ我商法ノ規定ヲ見ルニ第三百八十七條第一項ニ同

一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ムトアリテ大陸主義ヲ採用セルナリ唯彼レト異ナルハ第三項ニ於テ契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定セルカ故ニ時ノ前後ハ反證ナキ限りハ採用セラレサル點ニ存ス以上説明シタル所ニ依リ重複保險ニシテ超過保險トナル場合ノ規則ハ略ホ説明シ了ハレリ終ニ注意ヲ要スルハ以上ノ規則ハ法律上各保險者ノ權利義務ノ範圍ヲ限定スルモノナルカ故ニ保險契約者ニ於テ任意ニ之ヲ動かスエトヲ得サルナリ商法第三百九十條ヲ見ルニ同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサストアリテ保險者ノ一人カ其比例的ニ分擔セル義務ヲ保險契約者カ任意ニ解除スルモ之カ爲メニ他ノ保險者ノ負擔ヲ重カラシムルヲ得ス他ノ保險者ノ負擔ハ依然トシテ變動セサルナリ

又以上ノ規則ハ數箇ノ保險者カ其資格ヲ異ニスルカ爲メニ影響ヲ受ケサル

ナリ例ヘハ同一商品ニ付キ火災保險者ト運送保險者トカ一方ハ單純ナル火災保險ニ付キ他方ハ一切ノ危險中ノ一部トシテ火災ヲモ包含セシメテ保險シタル場合ニモ火災ヨリ生スル損害ニ付キテハ重複保險トシテ以上ノ規則ヲ適用スルモノナリ

四 一部保險

一部保險トハ保險價額ノ一部ヲ保險ニ付スル場合ヲ謂フ

一部保險ニ於テハ約シタル危險ノ發生ニ因リテ保險ノ目的ノ全部カ喪失シタル場合ニ於テ保險金額ノ全部ヲ支拂フヘキハ論ナキモ若シ損害カ保險ノ目的ノ一部ニ止マリタルトキハ保險者ノ負擔ハ如何ト云フニ此點ニ付テハ當事者ノ契約ノ趣旨如何ニ因リ自ラ差異ヲ生スルモノト信ス例ヘハ家屋ノ價額カ一萬圓ナルモ保險者ニ於テ全部ノ價額ヲ保險スルハ多キニ過クルトナシ五千圓以上ハ引受ケサルモ五千圓マテハ損害ノ全部ヲ支拂フコトヲ約セシトキハ此契約ハ無論有效ナルヘシ而シテ損害カ五千圓以下ナルニ於テハ保險者ハ損害ノ全部ヲ支拂フノ義務ヲ負フモノナリ乍併斯ノ如キ契約ハ固ヨリ特例ニ屬シ

通常一萬圓ノ家屋ヲ五千圓ノ保險金額ヲ以テ契約ヲ爲ストキハ契約者ノ意思ハ損害ノ半額ノ補償ヲ求ムルニアラスト解スルヲ相當トス從テ實際ニ生スル損害カ全部ナルト一部ナルトヲ問ハス保險者ノ負擔ハ常ニ其半額ニ止マルコトヲ以テ相當トスヘキナリ我商法ハ此趣旨ニ依リ規定セラレタルモノナリ(商法三九)即チ保險者ノ負擔ハ常ニ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ定マルモノナリ

危險

第三款 危險

危險ナル語ハ或ハ火災衝突ト云フカ如キ損害ノ原因タル事實自體ヲ指示スルコトアリ(商法四三)或ハ又此等ノ事實ノ發生スヘキ虞ヲ指示スルコトアリ(商法四一)而シテ本款ニ於テ説明スヘキ危險ハ前段ノ意義ニ於ケルモノニ係レリ抑モ保險ニ關シテハ「危險ナケレハ保險ナシ」トノ語アルカ如ク損害ノ原因タル危險ト損害ノ客體タル利益トハ保險ノ二大要件ナルヲ以テ保險契約ニ於テハ被保險利益ノ何タルヤヲ明カニスルト同時ニ保險者ノ負擔スヘキ危險ノ何タルヤヲ明カニセサルヘカラス尤モ實際ニ於テハ保險者ノ負擔スヘキ危險ニ關シテハ理論ニ依リテ

ヨリハ寧ロ從來ノ慣例ニ從ヒ其意義ヲ定ムルコト多シト雖モ少ナクトモ保險證券ニハ明カニ之ヲ記載セサルヘカラサル事項ナリトス而シテ危險ノ各種ノ場合ニ付テハ各論ノ説明ニ之ヲ讓リ茲ニハ危險ノ一般性質ヲ講述スヘシ今損害保險契約ニ於テ保證スヘキ危險ニ關スル我商法ノ規定ヲ見ルニ汎ク「偶然ナル事故」ト稱スルヲ以テ(商法三八四)苟モ偶然ニ出ツル以上ハ財産上ノ損害ヲ生スヘキ萬般ノ危險ハ悉ク損害保險契約ニ於テ保證スルヲ得ヘキ危險ナリト云ヒ得ヘキモノ、如ク然リ然レトモ保險事業ヲ實行スル上ヨリシテ保險者ノ保證スルヲ得サル危險モ亦尠ナカラス以下危險ノ法律上ノ性質及ヒ事業上ヨリ生スル其制限ヲ講述スヘシ

第一 危險ハ偶然發生スヘキモノナルヲ要ス

「偶然」ナル語ノ第一義ハ發生、不發生カ不確定ナリト云フニアリ而シテ發生、不發生ノ不確定ナルニハ三種アリ即チ絕對的不確定、時間的不確定及ヒ相對的不確定是ナリ絕對的不確定トハ或事故ノ發生スルヤ否ヤノ全ク豫知スルコトヲ得サルヲ謂ヒ、時間的不確定トハ或事故ノ何レノ時ニカ發生スルコト確實ナルモ

或一定ノ期間内ニ於テ發生スルヤ否ヤノ不確定ナルヲ謂フ故ニ此時間的不確定ハ性質上ヨリスルトキハ絕對的不確定トハ異ナレルモ特定期間内ニ付テノ觀察スルトキハ毫モ絕對的不確定ト異ナルコトナシ以上二種ノ不確定ナル事故ハ保險契約ニ於テ保證スヘキ危險即チ偶然ナル事故ナルコト言フ俟タヌ又相對的不確定トハ事故ノ性質ハ絕對的不確定若クハ時間的不確定ナルモノニ屬スルモ事實上既ニ發生シ又ハ發生セサルヘキコト確實トナリタルニ拘ハラズ當事者ニ於テ之ヲ知ラサル状態ヲ謂フ例ヘハ英國ヨリ積出シタル荷物ニ付キ日本ノ或港ニ於テ海上保險契約ヲ爲シタル場合ニ其荷物ヲ積込ミタル船舶ハ既ニ沈没シテ全損トナリ或ハ其荷物ハ他ノ船舶ニ積換ヘラレ契約ニ記載シタル船舶カ如何ナル運命ニ陥ルモ荷主ハ損害ヲ受ケサルヘキ状態ニ在ルニ拘ハラズ當事者雙方ニ於テ之ヲ知ラスシテ積出ノ時ヨリ保證ヲ爲スヘキコトヲ定メタルカ如キ場合ニ於テ其結約當時ノ状態ヲ稱シテ相對的不確定ト云フモノナリ此相對的不確定ニ付テハ縱令當事者雙方ニ於テ之ヲ知ラサリシトスルモ事實上既ニ確定ノモノナルヲ以テ單純ナル理論ヨリスルトキハ保險契約

ニ於テ保證スヘキ危險ナリト云フコト能ハスト雖モ凡ソ不確定トハ其絕對的ナルト時間的ナルトヲ問ハス何レモ人智ヲ標準トシタル觀察ノ結果ニ外ナラス果シテ然ラハ既ニ事實上確定シタリトスルモ危險ノ性質カ元來不確定ニシテ當事者ニ於テ全ク之ヲ知ラサリシトキハ人類社會ニ在テハ其不確定ナルコト毫モ絕對的不確定ト異ナルコトナキノミナラス之ヲ保險契約ニ於テ保證スルモノトスルモ不當ノ利得ヲ爲サントスル所謂詐欺保險ニ陥ルノ虞ナク殊ニ海外其他隔絶ノ地ニ在ル物品ニ對シ船荷證券又ハ貨物引換證ニ依リ海上保險若クハ運送保險ヲ取結フカ如キ場合ニ於テハ此種ノ危險ヲモ保證シ得ルモノトスルノ必要大ナリト去レハ英米獨等ノ法制ニ於テハ當然此種ノ危險ヲ保證スヘキ保險契約ヲ有效トシ佛ニ於テハ特ニ其旨ヲ明約シタル場合ニ於テ之ヲ有效トナセリ我商法ニ於テハ保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス(商法三九七)ト規定シタルヲ以テ相對的不確定ナル事故ヲ保證スル保險契約ハ有效ナリト云ハサルヲ得ス尤モ我商法ハ保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險

契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保
 險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全
 部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス(商法八四)トアルヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ
 縱令契約ハ無効トナラストスルモ殆ト無効ナルト同様ノ結果ヲ生スヘク又保
 險者ノ責任ノ始マル前既ニ事故ノ發生シタル場合ニ於テハ保險者ハ固ヨリ損
 害填補ノ責ニ任セサルヲ以テ相對的不確定ナル事故ハ保險者ノ責任ノ始期ヲ
 契約以前ニ遡ラシメタル場合ニ於テ始メテ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險トナ
 ルモノト云フヘシ又危險ハ其性質上發生不發生ノ偶然ナルコトヲ要スル結果
 トシテイ物ノ性質ヨリ生スル損害例ヘハ生物カ腐敗スルカ如キ(ロ)物ノ瑕疵ヨ
 リ生スル損害例ヘハ荷造ノ粗悪ナリシ爲メ荷物ノ汚染スルカ如キ又ハ(ハ)物ノ
 自然ノ消耗例ヘハ擦レ減リ若クハ自然ノ腐朽ノ如ク當然生スヘキモノハ保險
 スヘキ危險トハナラサルナリ(商法九六)但損害ノ直接ノ原因カ保險者ノ負擔シタ
 ル危險ニ在ルトキハ保險者ハ固ヨリ填補ノ責ヲ免カル、コトヲ得ス

第二 危險ハ保險契約者又ハ被保險者ノ意思ニ因ラサルモノナルコトヲ要ス

偶然ナル語ノ第二義ハ保險契約者又ハ被保險者ノ意思ニ因ラスシテ發生スト
 云フニアリ今危險發生ノ原因ヲ大別スレハ不可抗力、人災及ヒ過失ノ三種トス
 ルコトヲ得ヘシ所謂不可抗力トハ適當ノ注意ヲ以テ避クヘカラサル災害ヲ謂
 フモノニシテ絶對ニ人力ヲ以テ避クヘカラサル災害ナリト云フニアラス例ヘ
 ハ風ノ爲メニ火ヲ失シタル場合ニ付テ之ヲ見ルニ非常ニ注意深キ者ナルトキ
 ハ火ヲ失セサリシナランモ普通ノ注意ニ於テハ火ヲ失スヘキ場合ニ於テハ之
 ヲ不可抗力ト云フコトヲ得ヘシ船舶若クハ瀛車ノ衝突シタル場合ノ如キ亦然
 リ人災トハ第三者ノ行爲ニ依ル災害ヲ謂フ例ヘハ放火、盜難等ノ如シ以上不可
 抗力及ヒ人災ハ保險契約者又ハ被保險者ノ如何トモスヘカラサル危險ニシテ
 保險者ノ負擔スヘキ危險ナルコト論ヲ俟タス過失ニ付テハ昔時ニ在テハ其輕
 重ヲ問ハス苟モ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ出テタルモノハ保險者ノ負
 擔スヘキ限ニ在ラストナセリ現時ニ於テモ佛、獨兩國ノ法制ニ於テハ明文ヲ以
 テ之ヲ規定シ又英國ニ於テハ宥恕スヘキ過失ハ保險者負擔ノ範圍内ニアリト
 セリ抑モ法律上過失ニ關シテハ頗ル困難ナル問題多シト雖モ過失アリタル者

ハ其過失ノ責ニ任スヘシト云フ法律上ノ格言ノ如キハ過失ニ因リテ第三者ニ損害ヲ加ヘタル場合ヲ指示シタルニ止マリ過失者自身ヨリ見ルトキハ過失モ亦一ノ災害ナリト云フヲ妨ケス從テ之ヲ保險シ得ヘキ危險ナリトスルモ損害保險契約ノ理論ニ背馳セサルノミナラス實際上必要ナル場合尠ナカラス但重大ナル過失即チ著シク注意ヲ缺ケル場合ニ於テモ尙ホ保險者負擔ノ範圍内ニ在リトスルトキハ人ヲシテ注意ヲ怠ラシムルノ結果ヲ生シ公益上許スヘカラサルヲ以テ之ヲ除外スヘキハ勿論ナリ故ニ我商法ハ……保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス(九六法三)ト規定シタリ然レトモ輕過失ニ付テハ何等規定ヲ設ケザルヲ以テ英國ト同シク保險者負擔ノ範圍内ニ屬セシメタル趣旨ナリト信ス但特約ヲ以テ之ヲ除外シ得ヘキハ勿論ナリ

以上ハ危險ノ性質ヨリシテ法律上保險契約ニ於テ保險者ノ負擔トナラサルモノヲ講述シタリ以下保險事業ノ上ヨリシテ保險スルコトヲ得サル危險ヲ講述スヘシ

第三 危險ハ其發生ノ割合ヲ測定スルコトヲ得ルモノナルヲ要ス
 保險事業ハ其經營ノ基礎ヲ危險ノ統計ニ置クモノナルハ屢、上述シタル所ナリ故ニ發生ノ割合ヲ測定スル能ハサル危險例ヘハ噴火、海瀟ノ如キハ保險シ得ヘキ危險トハナラサルナリ

第四 危險ハ其結果ノ範圍ヲ測定スルコトヲ得ルモノナルヲ要ス
 危險ハ其發生ニ因リ財産上ノ損害ヲ生スルモノナルモ其損害ノ程度ヲ測定スル能ハサルモノハ損害保險ニ於テ保障スルコトヲ得ス例ヘハ商業界ノ恐慌ノ如キ是ナリ又之ト同シク結果ノ著シク大ナルモノ若クハ著シク小ナルモノハ損害保險ニ於ケル危險トシテ適當ナルモノニアラス夫ノ戰爭其他ノ變亂ニ因リ生スル損害ノ如キハ其結果極メテ大ナルヲ以テ特ニ之ヲ明約スルニアラサレハ保險上ノ危險ト看做サ、ルハ各國ノ慣例ニシテ我商法モ亦之ニ倣ヘリ(法商五三九)

第四款 保險料

第一 保險料ハ損害ノ分擔額ナリ

保險制度ハ其營利主義ナルト相互主義ナルトヲ問ハス多數ノ人カ損害ヲ分擔シテ一人ノ受クル損害ヲ輕カラシメントスルモノナルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ而シテ此團體ニ加入スル者ノ醸出スル分擔額ヲ保險料ト云フ

第二 保險料ハ營利主義ノ保險ニ於テハ保險者カ危險負擔ノ對價トシテ受クル報酬ナリ

營利主義保險ニ於ケル保險團體員相互ノ關係ハ法律上間接ノ關係ニシテ直接ニハ保險者カ自ラ危險ヲ保障スルモノナリ而シテ保險料ハ其保障ニ對スル報酬ナリ(八四法三)換言スレハ損害填補ノ約束ニ對スル代價ナリ
保險料ハ危險負擔ニ對スル報酬ナルヲ以テ保險者カ危險ヲ負擔セサレハ保險料ヲ受取ルヘキ權利アルコトナシ故ニ保險契約ヲ締結スルモ保險者ノ責任ノ始マル前ニ於テ其負擔ニ歸スヘキ危險發生セサルニ至リ結局保險者ハ契約ニ依リテ何等ノ危險ヲ負ハサル場合ニハ保險契約者ニモ亦保險料支拂ノ義務ナキナリ商法第四百八條ハ此場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スヘキコトヲ定メタリ同條ニ於テ危險不發生ノ確定ヲ保險者ノ責任ノ始マル前トナシ

タルハ前款ニ於テ説明シタル如ク責任ノ始マル後ニ於テハ縱令締結當時ニ於テ危險ノ發生セサルコト確定セリト雖モ保險者ハ相對的不確定ノ危險ヲ負擔スルカ故ナリ又法文ニ「保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ發生セサルニ至リタルトキ」トアルハ保險者ノ責任開始前ニ於テ全ク危險カ發生セサルコトノ確定シタル場合ノミナラス既ニ危險ノ發生シ了リタルトキヲモ含ムモノトス何トナレハ責任開始前ニ於テ既ニ危險ノ發生スルトキハ保險者ハ固ヨリ之カ填補ヲ爲スノ義務ナク且將來ニ於テ負擔スヘキ危險ノ消滅スヘキコト明白ナルノミナラス此條ノ適用ノ最モ多カルヘキ場合ハ危險カ保險者ノ責任ノ始マル前ニ發生シタル場合ニアレハナリ次ニ「保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラサルコト」ヲ條件トセルハ保險者ノ責任開始期ナルモノハ必スシモ保險契約締結ノ時期ト同一チラスシテ締結後一定ノ時期若クハ一定ノ事由人生シタル後トスルコト普通ナリ此間ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ自己ノ行爲ニ因リテ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險ヲ生セサルニ至ラシメタルトキト雖モ之ヲ以テ既ニ拂込ミタル保險料ノ返還ヲ請求セシムルノ理由ナキカ故ナリ但保險者ノ責

任ノ始マル前ニ於テ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スハ此限ニアラス(商法四)而シテ結約ノ時ト保險者責任ノ始期ト同一ナル場合ニ於テハ一層其理由ノ適切ナルヲ見ルヘキナリ

相互主義保險ニ於テハ保險加入者ハ總テ相互會社ノ社員トナルモノニシテ保險料ハ恰モ出資ト同様ニ看做サル故ニ保險料ヲ以テ危險負擔ニ對スル報酬ナリト云フヘカラサルモ會社ノ危險負擔ト保險料支拂ノ義務トカ相對立スルコトハ前ニ述ヘタル所ト異ナルコトナシ

第三、保險料ノ額ハ危險ノ程度及ヒ保險金額ノ多寡ニ應ス

單純ナル損害共濟組合ニアリテハ損害ノ生スル毎ニ之ヲ組合員ニ分配シテ以テ損害分擔ノ實ヲ舉ク元來各人ノ遭遇スヘキ危險ノ程度ニハ自ラ大小ノ差アリ其受クヘキ損害ノ額モ亦多少ノ別アルヲ以テ各人ノ分擔額ニモ亦自ラ差等ヲ設ケサルヘカラス進歩シタル保險制度ニ於テハ保險料ハ危險ノ程度及ヒ保險金額ノ多寡ニ應シテ之ヲ定ム然レトモ保險料ノ相當ナリヤ否ヤハ法律上保險契約ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニアラスシテ唯保險事業ノ安固ニ對シテ最

モ密接ノ關係ヲ有スルノミ保險料ノ高キニ過クルハ保險加入者ヲシテ過大ノ分擔ヲ負ハシムルノ害アリト雖モ保險料ノ過少ナルノ結果保險者カ事業ヲ繼續スル能ハスシテ遂ニハ多數ノ被保險者ニ對シテ支拂義務ヲ盡ス能ハサルニ至ルノ弊害ニ比スレハ寧ロ恐ルハニ足ラサルナリ

保險料ハ危險ノ程度ニ應スヘキハ當然ナレトモ危險ノ程度ナルコトハ保險期間即チ保險者ノ責任ノ始マル時ヨリ其終ル時ニ至ルマテノ期間ヲ通シテ之ヲ定ムルモノナリ元來損害保險ニ於テハ或ハ一定ノ期間ヲ定メテ保險期間トナスコトアリ例ヘハ一年間火災保險ニ附スト云フカ如シ或ハ一定ノ事項ノ繼續スル間ヲ保險期間トスルコトアリ例ヘハ甲地ヨリ乙地ニ至ルマテノ貨物ノ輸送ニ關スル運送保險ノ如キ是ナリ又或ハ一定ノ期間内ニ於ケル一定ノ事項ノ繼續ヲ以テ保險期間トナスコトアリ例ヘハ一年間甲地ヨリ乙地ニ至ル數回ノ航海ヲ保險スルカ如キ場合是ナリ右何レノ場合ニ於テモ保險者カ危險ノ程度ヲ斟酌シテ保險料ヲ定ムルハ保險期間ヲ通シテ之ヲ定ムルモノナリ故ニ危險カ保險期間ノ半ヲモ經過セサル間ニ發生セル場合ニ於テモ保險契

約者ハ保險料ノ全部ヲ支拂ハサルヘカラス之ヲ危險不可分及ヒ保險料不可分ノ原則ト云フ故ニ保險料ハ一時ニ全額ヲ支拂フト又ハ便宜數回ニ分チテ支拂時期ヲ定ムルトヲ問ハス危險カ保險期間中如何ナル時期ニ發生スルモ保險者ハ保險料ノ全部ニ對スル請求權ヲ有ス但保險者カ未收保險料ヲ控除シテ損害填補金ヲ支拂フコトヲ得ルハ保險契約者ト被保險者ト異ナル場合ハ特約アルヲ要ス

保險料ハ通常不可分ナリト雖モ是レ危險ノ不可分ノ結果ナルヲ以テ若シ保險契約ノ當事者ニシテ特別ノ危險ヲ斟酌シテ通常ノ保險料ニ附加スルニ特別ノ保險料ヲ以テセル場合ニ於テハ保險期間中ニ其特別ノ危險ニシテ消滅スルトキハ保險料ヲ減額スヘキコトハ當然ナリ(商法四)例ヘハ家屋ノ火災保險ヲ締結スルニ當リ其隣家ニ火力ヲ用キル工場ノ存在スルヲ理由トシ通常ノ保險料ニ比シテ一割若クハ二割ノ増額ヲ爲シタルニ保險期間中ニ工場ノ閉鎖セル場合ノ如シ但此場合ニ保險料ヲ減額スルハ何時ヨリ爲スヘキカ法文ニハ將來ニ向テト規定ス故ニ特別ノ危險ノ消滅セル以後ノ分ニ止マリ其前ニ遡ルコトナキ

ハ明白ナルモ保險料ノ全部ヲ前拂セルトキハ其一部ヲ取戻スコトヲ得ルヤ否ヤ之ヲ理論上ヨリ見ルトキハ保險料ハ一回拂トスルモ又數回ニ分割シテ支拂フモ單ニ便宜ノ問題ニ過キスシテ性質上變更ヲ來スモノニアラス故ニ數回拂ト爲セル場合ニ特別ノ危險ノ消滅シタル後將來ニ向ヒ減額シ得ル以上ハ之ヲ一回拂トセル場合ニモ其割合ヲ以テ減額割戻ヲ爲スヲ以テ相當トス然レトモ保險者カ一旦危險ヲ負擔スルヤ保險期間ノ中途ニ於テ危險消滅スルモ保險料ヲ戻サ、ルコトハ危險不可分ノ原則ナルヲ以テ時ノ長短ニ從ヒテ危險負擔ニ對スル報酬ノ分量ヲ定ムルコトヲ得ス故ニ將來拂込ムヘキ保險料ニ向テノミ減額ノ請求權ヲ保險契約者ニ與フルハ最モ例外ニ屬シ一回ニ前拂トセル場合ニ割戻ヲ許サ、ルコトハ實際上已ムヲ得サルニ出テタルモノトス尤モ當事者ニ於テ特ニ契約ヲ爲セル場合ハ別箇ノ問題ニ屬スヘシ

次ニ保險料ハ保險金額ノ多寡ニ應ストノ結果トシテ保險價格カ保險期間中著シク減少セル場合ニハ保險契約者ニ對シテ保險金額ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ルト同時ニ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得(商法三)但此場合ニ保險金額ノ

減少ハ契約自體ノ變更トナルモノナレトモ保險料ノ減額ハ將來拂込ムヘキ分ニ對シテノミ效力ヲ有スルニ止マル(商法二九)是レ又特別危險負擔ノ場合ト同一ノ理由ニ基ク

第四 保險料ハ通常損害ノ分擔額ト保險者ノ手数料其他ヲ包含ス

損害保險ハ生命保險ニ於ケルカ如ク統計ニ基キテ精密ニ分擔額ト保險者ノ受クル手数料其他トヲ區分スルコトヲ得サルモ通常保險料中ニハ純粹ナル損害分擔額タル部分及ヒ保險者カ保險事業ヲ營ムニ必要ナル費用並ニ保險契約ノ締結ニ必要ナル費用等ヲ包含ス是レ營利主義ノ保險ニ於テ然ルノミナラス相互主義保險ニ於テモ亦然リ唯營利主義保險ニ於テハ尙ホ此他ニ株主ニ配當スヘキ利益ヲモ含メリ故ニ保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得レトモ第三百九十九條、第四百七條、第四百八條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得(商法四九)保險契約カ效力ヲ失フ場合ニ於テハ當然

保險料ヲ返還セサルモノトス

第五 保險料支拂ノ方法

保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルハ保險契約者ニシテ保險契約者ト被保險者ト異ナルトキト雖モ亦同シ(商法一四)保險料支拂ノ時期ニ付テハ往時英國ニ於テハ保險料ノ支拂ヲ以テ契約成立ノ要件ト爲シタルカ故ニ契約成立以前ニ支拂ハサルヘカラサリシカ近時ニ於テハ各國共ニ保險料支拂ノ時期ヲ以テ契約成立ノ要件トナサス唯保險料ノ支拂ナキ間ハ契約ハ成立スルモ保險者ハ責任ヲ負ハサル旨ヲ定ムルヲ以テ普通トス而シテ保險料ハ全額ヲ一時ニ前拂スルヲ通例トスルモ海上保險ニ於ケル定期船舶保險及ヒ火災保險ニ於テハ保險期間中二回又ハ三回ニ分チテ支拂フトアリ此場合ニ於テハ第一回ノ保險料ノ支拂アルマテハ保險者ハ責任ヲ負ハサルヲ以テ通例トス保險料支拂ノ時期ヲ定メタル場合ニ保險契約者カ其時期ニ支拂ヲ爲サ、ルトキハ保險契約ハ其日ヨリ當然效力ヲ失フトナスハ通常保險者ノ定ムル所ナレトモ之ヲ定メスト雖モ民法第五百四十一條ノ雙務契約ノ

原則ニ依リ保險者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ普通ノ慣習ニ從ヘハ保險料支拂ノ時期ニ猶豫期間ナルモノアリ即チ支拂時期ニ支拂ハサルトキハ契約ハ效力ヲ失フト雖モ一定ノ期間内ニ保險料ヲ支拂フトキハ契約ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトシ此期間ヲ稱シテ猶豫期間ト云フ但此期間内ニ損害カ發生スルモ保險者ハ填補ノ責ニ任セサルナリ

次ニ保險料支拂ノ場所ハ特約ナキトキハ保險者ノ營業所ニ於テ支拂ハサルヘカラス(商法二七八)然レトモ實際ニ於テハ各保險者カ營業競争ノ結果努メテ保險料支拂義務者ノ便宜ヲ圖リ或ハ支拂義務者ノ住所ニ於テシ又ハ集金者ヲ派シテ之ヲ受領セシムル等ノ方法ヲ採レリ

第六節 保險料ノ割戻

我國ニ於テハ火災保險又ハ海上保險ニ於テ其拂込ミタル保險料ノ額ニ應シ年未ニ至リテ一定ノ歩合ヲ以テ保險契約者ニ保險料ノ拂戻ヲ爲スモノ往々是アリ而シテ之ヲ二種ニ類別スルコトヲ得即チ一ハ保險期間中ニ危險ノ發生セザリシ場合ニ限リ拂戻ヲ爲スモノニシテ他ハ危險發生ノ有無ニ拘ハラズ拂戻ヲ

第三節 損害保險契約ノ當事者

爲スモノナリ此等ハ單ニ保險申込者ヲ誘引スルカ爲メノ競争ノ方法タルニ過キスシテ保險契約ノ法律上ノ性質ニ對シ何等ノ關係アルモノニアラス是レ蓋シ歐洲諸國ニ於ケルシスガソント割引ノ方法ニ依リ契約ノ際普通保險料ノ若干部ヲ割引スルノ慣習ニ倣ヒタルモノナリ

損害保險契約ハ一方ニ於テ損害ヲ填補スルコトヲ約スル者ト他方ニ於テ此約束ニ對シテ報酬ヲ與フルコトヲ約スル者トノ間ニ成立スル契約ニシテ前者ヲ保險者ト云ヒ後者ヲ保險契約者ト云フ以下此二者ニ付キ順次説明スヘシ

第一 保險者

何人カ保險者タルコトヲ得ヘキヤノ疑問ニ對シテハ先ツ前提トシテ保險者トハ如何ナルモノナリヤヲ確定スルヲ必要トス今若シ保險者トハ廣ク報酬ヲ得テ偶然ナル事故ニ因リ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スヘキコトヲ約スル者ヲ指稱ストセハ自然人タルト法人タルトヲ問ハス何人ト雖モ保險者タルヲ得ヘシ蓋シ契約ノ能力アル者カ特定ノ人ト此種ノ契約ヲ締結スルコトハ固ヨリ法ノ許容ス

ル所ニシテ唯其意思カ單ニ偶然ナル事故ノ發生ヲ賭シテ損益ヲ決スルモノト看
 做サル、場合ハ賭博トシテ制裁ヲ受クヘキノミ
 商法第二百六十四條ニ依レハ保險ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ商行爲トナスヘ
 キ旨ヲ規定セリ從テ營業ト爲スニアラスシテ行ハル、保險行爲ノ存スヘキハ同
 條ノ反面解釋ヨリシテ商法ノ認ムル所ナルコトヲ知り得ヘシ又保險業法第一條
 ニハ保險事業ヲ營ムニハ主務官廳ノ免許ヲ受クルヲ必要トスルモ單獨ナル保險
 行爲ニ付テハ何等規定スル所ナシ從テ何人ト雖モ隨意ニ之ヲ爲シ得ヘキヤ當然
 ナリ然レトモ營業ト爲スニアラサル保險行爲ニ付テハ商法ノ商行爲中ニ規定セ
 ル保險ノ規則ノ適用ナキコト勿論ニシテ此等ハ民法上ニ於ケル一種ノ賠償契約
 タルニ過キササルナリ故ニ商法中ニ所謂保險者ナルモノハ廣ク保險行爲ノ當事者
 ノ一方ヲ指スニアラサルコト明カナリ但商法第四百十八條及ヒ第四百三十三條
 ノ規定ニ依リテ商法中ノ保險ニ關スル規定ハ之ヲ相互保險ニ準用スルヲ以テ保
 險ノ引受ヲ營業ト爲ス者ハ之ヲ稱シテ保險者ト云フヲ得ヘキナリ而シテ前ニ述
 ヘタル意義ニ於テ何人カ果シテ保險者タルコトヲ得ヘキヤヲ考フルニ前ニ保險

事業ノ下ニ於テ述ヘタルカ如ク資本金十萬圓以上ノ株式會社又ハ基金十萬圓以
 上ノ相互會社ニシテ主務官廳ノ免許ヲ得タルモノニ限ルモノトス(保險業法一、二、一六、二八)
 尙ホ保險者ハ他ノ事業ヲ兼スルヲ得サルノミナラス生命保險ト損害保險トヲ併
 セテ營ムヲ得ス(保險業法三四)
 保險會社ハ其事業ヲ營ムニ當リ成ルヘク一地方ニ偏倚スルコトヲ好マズシテ營
 業地域ノ廣キヲ尙フヲ以テ支店、代理店、取次所若クハ申込所等ヲ各地ニ設クルコ
 ト他ノ事業ニ比シテ殊ニ必要ナリ保險會社ノ代理店ニハ種々アリテ或ハ保險契
 約ノ締結、保險料ノ收入及ヒ保險金ノ拂渡等殆ト支店ト同一ノ働ヲ爲スモノアリ
 或ハ補償金代理店ト稱シテ保險料ノ收入及ヒ保險金ノ拂渡ヲノミ爲スモノアリ
 又ハ危險代理店ト唱ヘテ危險ノ發生ニ當リ其防止救助ノミヲ爲スヲ目的トスル
 モノアリ或ハ又單ニ保險料ノ收入ノミヲ取扱フモノアリ而シテ代理店ニ關シテ
 ハ我商法第一編第一章ノ代理商ニ關スル規定ノ適用サル、ハ勿論ナレトモ之ニ
 關シテハ訴訟上ノ便宜ヲ與フルノ必要アリト信ス外國保險會社ノ日本ニ於ケル
 代理店ニ關シテハ代表者ヲ定ムルコトヲ必要トシ其代表者ハ訴訟上一切ノ能力

ヲ有スルモノトス(明治三十三年勅令三八〇號一)

第二 保險契約者

保險契約者ナル言語ハ保險契約ニ於ケル當事者雙方ヲ指稱スルノ嫌ナキニアラスト雖モ我商法ニ於テハ獨逸商法ノ用語ニ倣ヒ被保險者ト區別シテ特ニ保險契約者ナル語ヲ保險契約ノ當事者ノ一方ニ附スルコト、セリ而シテ何人カ保險契約者タルコトヲ得ルヤニ付テハ自己ノ爲メニ契約ヲ爲ス場合ト他人ノ爲メニ契約ヲ爲ス場合トニ區別シテ論セサルヘカラス

一 自己ノ爲メニスル保險契約者
保險契約ハ自己ノ爲メニ之ヲ締結スルヲ以テ普通トス此場合ニ於テハ保險ノ目的タル利益ノ主體タルコトヲ要ス而シテ此自己ノ爲メニスル保險契約者ハ我商法ニ於テ同時ニ被保險者ト稱スルコトヲ得ルヤ否ヤ此問題ハ保險ノ目的物ヲ他ニ讓渡シタル場合ニ於テ商法第四百四條ノ規定ヲ適用スルヲ得ヘキヤ否ヤノ問題ト相關聯ス今此疑義ヲ決定センニハ先ツ被保險者ナル言語ノ意義ヲ確定セサルヘカラス商法第四百二條及ヒ第四百六條等ヲ見ルトキハ單ニ他

人ノ契約ニ因リテ利益ヲ受クル被保險利益ノ所有者ノミヲ指稱スルカ如シ然ルニ又第四百十四條及ヒ第四百十六條等ノ規定ニ付テ稽フルトキハ廣ク保險契約ニ因リテ保證サル、被保險利益ノ所有者ヲ稱スルモノ、如シ按スルニ保險契約者被保險者ナル文字ヲ區別シテ用キルニ至リタルハ獨逸商法ニ基クモノト信ス我舊商法ニ於テモ又他ノ諸國ニ於テモ斯ノ如キ區別ヲ爲スコトナク唯單ニ被保險者ナル文字ヲ用キルノミ然ラハ獨逸商法ニ所謂被保險者ナル言語ハ果シテ如何ナル意味ニ用キラル、ヤト云フニ同法ニ於テハ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ總テ之ヲ被保險者ト稱シ其自己自ラ保險契約ヲ爲ス場合ナルト他人カ保險契約ヲ締結スル場合ナルトヲ問ハサルナリ我商法ニ於テモ特ニ之ト異ナリタル見解ヲ採リタリト見ルヘキ根據ヲ發見セサルカ故ニ廣ク保險契約ニ依リテ保障セラレタル被保險利益ノ所有者ヲ稱シテ被保險者ト名クルモノト信ス從テ自己ノ爲メニ契約ヲ締結スル保險契約者ハ其契約ノ方面ヨリ見ルトキハ保險契約者ニシテ之ト同時ニ被保險利益ノ側面ヨリ云ヘハ被保險者ト稱スルコトヲ得ヘキナリ

二 他人ノ爲メニスル保險契約者

商法第四百一條ニ曰ク「保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ」ト本條ニ付キ注意スヘキハ第一ニ他人ノ爲メニスル保險契約者ハ代理人ニアラサルコトナリ代理人ニ依リテ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ固ヨリ本人ト保險者トノ關係ニ歸スヘキモノニシテ代理人ハ此契約ノ當事者タルモノニアラスト雖モ他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲ス場合ニ於テハ保險契約者カ其契約ノ當事者トナルヘキナリ次ニ保險仲立人ノ媒介ヲ經テ保險契約ヲ取結フコトハ歐洲大陸ニ於テ通常行ハル、所ニシテ我國ニ於テモ亦運送問屋等ニシテ保險取次ノ周旋ヲ附帶業ト爲スモノアリ然レトモ我商法ノ規定ニ依レハ仲立人ハ問屋ト異ナリ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スニ止マリ○商法三商行爲ノ當事者タルモノニアラスト故ニ仲立人ノ媒介ヲ經ルモ其仲立人ハ他人ノ爲メニスル保險契約者トナルモノニアラスト蓋シ他人ノ爲メニスル保險契約ハ民法第五百三十七條ニ規定スル第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ノ一種ナリト雖モ保險契約ノ性質上被保險利

益ノ所有者ノ爲メニスル場合ニノミ限ラル、コト勿論ナリ被保險利益ヲ有セサル者カ他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲スニ付テハ被保險者ノ委任ヲ受クルカ又ハ事務管理トシテ行フノ外ナシ而シテ其委任ヲ受ケテ爲ス場合ハ代理人トシテ行フヲ普通トシ自己ヲ當事者トスル場合ハ例外ナリト見サルヘカラスト然ルニ英國ニ於テハ保險仲買人ナル業務アリテ保險者ト被保險者トノ中間ニ立チテ契約締結ノ便ヲ圖リ保險料ノ支拂ニ關シテハ保險者ニ對シ直接ニ責任ヲ負フ而シテ其業務ノ性質ハ我商法ノ問屋營業ニ類似セリ此業務ハ保險者及ヒ被保險者ノ雙方ニ對シテ極メテ便利ナルヲ以テ近時我國ニ於テ漸々行ハル、ノ傾向アルヲ見ル次ニ事務管理トシテ爲ス場合ニ付テモ他人ノ財産ノ安固ヲ企圖スル者カ保險契約ヲ締結スルヲ得ルハ實際ニ於テ甚タ必要ヲ感スル場合アルヘシト雖モ同時ニ自己ニ被保險利益ヲ有セサル者カ保險契約ヲ締結スルハ動モスレハ詐欺ノ手段ニ供スルヲ保シ難キカ故ニ委任ヲ受ケサル場合ニ於テハ特ニ其委任ヲ受ケサルコトヲ保險者ニ告知スルニアラサレハ其契約ヲ無効トセリ○商法四其委任ヲ受ケタル場合ト雖モ何人ノ爲メニ之ヲ爲スヘキカハ保

六八
險者ニ對シテ之ヲ明示セサルヘカラス然ラサレハ被保險利益ナキノ契約トシテ無効ニ歸スヘキモノトス

本講義擔任加納講師ハ今回北海道拓殖銀行ニ赴任セラレタルヲ以テ茲ニ講義ヲ完結スルコト、シ更ニ昨年度志田講師ノ講義ヲ同講師ノ訂正ヲ受ケタル上掲載スルコト、セリ

保 險 法 (完 結)

保 險 法

法學博士 志田 鉦太郎 講義

卒業生 中 村 甚 慶 編輯

第一編 保險總論

第一章 保險ノ意義

余ノ研究シタル所ニ依レハ總テノ保險ハ經濟上ヨリ之ヲ觀察スレハ大體ニ於テ同一ノ性質ヲ有スルニ拘ハラヌ法律上ヨリ之ヲ觀察スレハ頗ル其性質ヲ異ニスルモノアリテ一方ニ於テハ營利保險ト相互保險トノ意義ヲ共通ニ説明スルコト難ク他方ニ於テハ損害保險ト生命保險トノ意義ヲ共通ニ説明スルコト難シ例ヘハ相互保險ニアリテハ其法律關係ハ社團關係即チ主トシテ社團法人ト社員トノ間ノ關係ナレトモ營利保險ニアリテハ保險者ト被保險者トノ間ノ契約ニ因ル債

保險總論
保險ノ意

保險法 保險總論 保險ノ意義

務關係タルニ過キヌ又損害保險ニアリテハ其目的トスル所損害ノ填補ニアレトモ生命保險ニアリテハ約定シタル金額ノ支拂ニアルカ如シ故ニ余ハ本章ニ於テハ各種ノ保險ヲ一括シテ法律上之ニ共通ノ定義ヲ與フルコトノ不能ナルコトヲ一言スルニ止メ次編ニ於テ各種保險ノ意義ヲ各別ニ説明スヘシ

第一章 保險ノ種類

第一節 營利保險及相互保險

保險ヲ其經濟的經營ノ方式ヨリ區別シ同種ノ危險ニ遭遇スル多數人カ各自其被ムルコトアルヘキ精神的若クハ財産的ノ損害ニ付キ一定ノ金額ノ給付ヲ受ケ又ハ之カ填補ヲ受クルノ目的ヲ社團ノ方法ニ依リテ達スル場合ニハ之ヲ相互保險ト稱シ社團ノ方法ニ依ラス他ニ法律上其金額ノ給付若クハ損害填補ノ責ヲ負フ者即チ保險者アリテ之ト當該多數人各個トノ間ニ締結スル契約ニ依リテ其目的ヲ達スル場合ニハ之ヲ營利保險ト稱ス

法律上ヨリ兩者ノ區別ノ標準ヲ示セハ相互保險ハ社員關係ニシテ一方ニハ同種

ノ危險(財産上ノ損害若クハ精神上ノ損害ヲ生スヘキ事實)ニ遭遇スル社員アリ他方ニハ此社員ヨリ組織セラル、社團法人アリテ其社員ヨリ保険料其他ノ出資ヲ爲スニ依リ危險ノ實現シタル社員ニ對シ其損害ヲ填補シ若クハ約定ノ金額ヲ支拂フモノトス而シテ其社員關係ノ開始スルハ社團法人ノ設立若クハ入社ニ依ルモノニシテ其設立及ヒ入社ナル事實カ契約ナリヤ否ヤハ法人ニ關スル學說ノ異ナルニ從テ亦其結論ヲ同ウセス而シテ相互保險ナル名稱ノ下ニ普通説明セラルルモノハ以上ノ設立行爲及ヒ入社行爲ノ二者ヲ包含スルモノニシテ營利保險契約トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノナリ

次ニ營利保險ハ契約ニ依ル債權關係ニシテ一方ニハ同種ノ危險(財産上ノ損害若クハ精神上ノ損害ヲ生スヘキ事實)ニ遭遇スルモノ即チ被保險者アリ他方ニハ報酬ヲ受ケテ其危險ノ實現シタル場合ニ損害ヲ填補シ若クハ約定ノ金額ヲ支拂フコトヲ約スルモノ即チ保險者アリテ此兩者間ノ契約ヲ廣義ニ於ケル保險契約ト稱シ保險者カ之ヲ營業トシ若クハ或商業ノ爲メニスル場合ニ之ヲ商行爲タル保險即チ狹義ノ保險契約ト稱ス

相互保險行爲ハ商行爲ニアラサルヲ以テ商法中ニ之ヲ規定セス保險業法ニ讓リ
營利保險契約ハ商行爲ナルヲ以テ之ヲ商法中ニ規定セリ保險業法第二十六條第
九十一條及ヒ商法第四百十八條ハ相互保險ニ關スル規定ニシテ商法第三百八十
四條第四百三十三條第六百五十三條及ヒ第六百七十九條ハ營利保險契約ニ關ス
ル規定ナリ

第二節 損害保險及ヒ生命保險

經濟上ヨリ保險ヲ其危險事實被保險事故若クハ危險事故ト云フノ點ヨリ區別シ
テ損害保險及ヒ生命保險ノ二トナス損害保險ハ財產上ノ損害ニ對スル保險ニシ
テ其生シタル損害ノ價額ヲ填補スルノ目的ヲ有ス之ニ反シテ生命保險ハ人ノ生
死ニ因リ經濟上及ヒ精神上ノ利益ヲ失フニ備フル保險ニシテ豫メ約定セル金額
ヲ人ノ生存又ハ死亡ノ場合ニ支拂フ目的ヲ有ス我商法ハ第三編第十章ヲ保險ト
題シ經濟上ヨリ統一シタル保險制度ヲ規定シ更ニ之ヲ損害保險ト生命保險トノ
二種ニ分類セリ但損害保險ト生命保險トノ區別ハ舊ニ商行爲タル保險ノ區別ニ
止マラスシテ相互保險ノ區別ヲモ爲スモノナルコト商法第四百十八條第四百三

十三條第一項及ヒ保險業法等ニ依リテ明カナリ
生命保險ニハ廣狹二義アリ廣義ニ於テハ生存死亡疾病怪我等ノ保險ヲ包含シ所
謂人ニ關スル保險ノ意ニ外ナラス從テ次節ノ人保險ト同一ノ範圍ヲ有ス之ニ反
シ狹義ニ於テハ人ノ生存ト死亡トニ關スル保險ノミヲ指示スルモノトス而シテ
商法ハ狹義ノ見解ヲ採用シタルカ如シト雖モ保險業法ハ廣義ノ見解ヲ採用シタ
リト解スル者ナキニアラス(商法第四百二十七條保險業法第四條同法施行規則書
式第一號備考第一項及ヒ法學新報第十二卷第八號生命保險ノ再保險ヲ論スト
論文參照)

第三節 物保險及ヒ人保險

物保險及ヒ人保險ノ區別ハ損害保險及ヒ生命保險ノ區別ニ類似シ危險ノ實現ス
ヘキ客體ヨリ觀察シタル區別ニシテ人保險ハ廣義ノ生命保險ト其範圍ヲ同ウス
ルコトハ前節ニ述ヘタルカ如シ物保險ナル名稱ハ少シク妥當ヲ缺クノ嫌アリ何
トナレハ昔時ノ保險法理ニ依レハ物保險ノ目的ハ物ナリシニ今日發達セル保險
法理ニ從ヘハ縱令物ヲ保險ニ付スル場合ト雖モ物其モノヲ保險ノ目的トナスニ

アラスシテ物ノ上ニ存スル財産上ノ利益カ目的タルナリ加之今日所謂物保險ナ
ルモノ、中ニハ物ト關係ヲ有セサル保險ヲ包含スルニ至レリ故ニ寧ロ財産保險
ノ名稱ヲ付スルノ勝レルニ如カス然レトモ普通ニ物保險ナル名稱ヲ存スルヲ以
テ暫ク其例ニ從フ

第四節 損害填補保險、利害關係者ノ定額保險及

ヒ定額保險

此區別ハ獨逸保險法ノ大家タルエーレンベルヒノ創見ニ係ルモノニシテ(一)損害
填補保險トハ約定セラレタル事實危險事實又ハ被保險事實ノ發生スルニ因リ保
險者ヨリ給付ヲ受クヘキ者ハ利害關係者タルヲ要スルノミナラス其給付額ハ現
ニ生シタル損害額ヲ限度トスルモノナリ(二)利害關係者ノ定額保險トハ保險者ト
被保險者トノ間ニ任意ニ或金額ヲ定メ保險者ハ危險事實ノ發生シタル場合ニ此
金額ヲ利害關係者ニノミ支拂フヘキモノナリ(三)定額保險トハ利害關係ノ有無及
ヒ損害ノ有無ヲ問ハス危險事實ノ發生シタル場合ニ必ス保險者ヨリ約定金額ヲ
支拂フヘキモノニシテ其支拂ヲ受クル者ハ利害關係者タルヲ要セサルモノトス

例ハ火災、海上等ノ保險ハ第一種ニ屬シ第三者ノ死亡若クハ災害ニ對スル保險、
病災保險等ハ第二種ニ屬シ自己ノ生死ニ對スル保險及ヒ保險契約者自身ノ災害
ニ對スル保險ノ如キハ第三種ニ屬スト云ヘリ我國ニ於テハ病災、災害等ノ保險ハ
未タ之ヲ存セス生命保險ニ付テハ自己ノ生死ニ對シ保險契約ヲ締結スル場合ト
雖モ保險金ヲ受取ルヘキ者ハ必ス被保險者ト相續若クハ親族ノ關係ヲ有セサル
ヘカラス從テエーレンベルヒ氏ノ區別中第二種タル利害關係者ノ定額保險ト第
三種タル定額保險トノ區別ナキモノトス

第五節 損害填補保險及ヒ定額保險(損害保險及

ヒ人ノ生命若クハ健康ノ危險ニ關スル

保險、損害保險及ヒ生命保險)

此三種ノ區別ハ物保險ト人保險トノ區別ニ類似シ一方ニ於テハ何レモ損害填補
保險ヲ置キ他方ニ於テハ或ハ定額保險或ハ生命若クハ健康ニ關スル保險或ハ生
命保險ヲ置クト雖モ此三種ハ其範圍ニ於テ僅少ノ差異ヲ有スルニ過キスシテ何
レモ人保險ニ外ナラス

保險法

保險總論 保險ノ種類 損害填補保險及ヒ定額保險(損害保險及ヒ人ノ生命
若クハ健康ノ危險ニ關スル保險、損害保險及ヒ生命保險)

第六節 陸上保險及海上保險

此區別ハ危險ノ存在スル地域ニ依ル區別ニシテ陸上ノ危險ニ對スル保險ヲ陸上保險ト云ヒ海上ノ危險ニ對スル保險ヲ海上保險ト稱ス而シテ此區別ハ商法ノ歷史上重要ナルモノナリシカ今日ノ如ク海陸運送ノ連絡益其程度ヲ高ムルニ至リ陸上ノ危險ニ對シテモ海上保險ノ填補ヲ及ホスコトアルト共ニ國內水上ノ保險ニ海上保險ヲ應用スルコト多キ時代ニハ此區別ハ論理的ニ正確ナルモノニアラサルニ至レリ

第七節

海上、火災、運送、農業(家畜、雹災、霜災、不作、洪水、玻璃、水道、有價證券、信用、抵當、同盟罷工、責任、生命、疾病、災害、老病等)ノ保險

危險ノ種類ニ從テ保險ヲ區別スルトキハ此表題ノ如ク無數ノ類別ヲ生スヘシ而シテ此區別ハ經濟上及ヒ保險技術上ヨリ論スレハ頗ル重要ナルモノナレトモ之ヲ法律上ヨリ論スレハ損害保險ト生命保險トノ區別、物保險ト人保險トノ區別及ヒ相互保險ト營利保險トノ區別ノ如ク根本ノ法理ヲ異ニスルモノニアラス殊ニ

海上、火災、運送、農業(家畜、雹災、霜災、不作、洪水、玻璃、水道、有價證券、信用、抵當、同盟罷工、責任、生命、疾病、災害、老病等)ノ保險

第八節 專業保險及附隨保險

我國ニ於テハ海上、火災、運送ノ三種ノ財產保險ニ人保險中狹義ノ生命保險、徵兵保險及ヒ嫁資又ハ學資保險ノ三種ヲ加ヘ以上六種ノ保險ヲ有スルニ過キス

此區別ハ保險者ノ業務ヨリ立論シタル區別ナリ抑モ保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニアラサレハ之ヲ營ムコトヲ得サルモノニシテ保險會社ハ其相互タルト株式タルトヲ問ハス他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス且生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的トナスコトヲ得サルモノトス(三保險法二)故ニ株式會社又ハ相互會社カ保險ヲ業トスル場合ニ專業保險ナルモノヲ存ス然ルニ保險以外ノ事業ヲ目的トスル營業者カ其營業ノ附屬トシテ保險ヲ行フコトヲ妨クルモノニアラス故ニ此場合ニハ其營業者カ商人ナルトキハ保險ハ附屬的商行爲トシテ商行爲タル性質ヲ有シ(六商法二)之ニ反シテ其營業者カ商人ニアラサルトキハ保險ハ商行爲タル性質ヲ有セス此二箇ノ場合ヲ包含シテ廣義ニ於ケル附隨的保險ト稱シ其附屬的商行爲タル場合ヲ狹義ニ於ケル附隨的保險ト稱ス

第九節 公保險及私保險

公保險トハ國家ノ機關カ保險ヲ業トスル場合ヲ指シ私保險トハ相互會社又ハ株式會社カ保險ヲ業トスル場合ヲ指ス而シテ公保險ハ強制ヲ用キルヲ常トスルト雖モ強制ハ公保險ノ要件ニアラス例ヘハニュージーランドニ於テハ政府カ生命保險ヲ營ムト雖モ強制ヲ用キサルカ如シ

任意保險及ヒ強制保險

第十節 任意保險及ヒ強制保險

任意保險トハ保險契約ノ締結若クハ保險相互社團ノ加入ニ付キ國家ノ強制ナキ場合ニシテ私保險ノ多數ハ之ニ屬ス之ニ反シテ強制保險トハ保險契約ノ締結若クハ保險相互社團ノ加入ニ付キ國家ノ強制アル場合ニシテ所謂勞働保險ナルモノハ強制保險タルヲ原則トス蓋シ社會政策上ノ目的ニ出ツルヲ以テ強制ナケレハ其實行ヲ期シ難ケレハナリ

私法組織ニ於ケル保險ノ位置

第二章 私法組織ニ於ケル保險ノ位置

營利保險契約ハ債務關係ヲ生スル契約ニシテ相互保險契約ト稱セラル、モノハ社團法人ノ設立行為若クハ入社行為ニ外ナラス故ニ營利保險契約ノ當事者ノ一方ハ營業者ニシテ保險ヲ專業トスル商人タルヲ常トシ相手方ハ個人タルコトアリ

リ法人タルコトアリ又營業者タルコトアリ營業者タラサルコトアリ而シテ契約當事者ノ間ニハ其契約上ノ債務關係ヲ生スルニ止マリ社團關係若クハ組合關係ヲ生セス之ニ反シテ相互保險ニアリテハ所謂保險關係ナルモノハ社團關係ト分離シテ存在スルヲ許サス更ニ正確ニ之ヲ論スレハ保險ハ社團法人ノ目的タル事項ニシテ社團關係ノ内容トシテ存在スルモノナリ營業保險ト相互保險トノ差異ハ斯ノ如シ從テ私法ノ組織上ヨリ之ヲ論スレハ營利保險ハ其本體タル債務關係ヨリ觀察シテ債權法中ニ編入セラレ民法ノ排列順序ヨリ云ヘハ契約ノ一種トシテ終身定期金ノ前後ニ置カルヘシ相互保險ハ全ク之ト異ナリ其本體タル社團關係ヨリ觀察シテ法人ニ關スル法規中ニ編入セラレ民法ノ排列順序ヨリ云ヘハ社團法人トシテ總則第二章中ニ排列サルヘシ

第四章 保險ノ歴史

佛蘭西ノ保險學者アモン氏ノ研究ニ依レハ巴比倫作ノ猶太教典中保險ノ萌芽トモ稱スヘキ事實ヲ掲ク即チ沙漠ヲ旅行スル商隊ノ一員カ自己ノ過失ナクシテ駝ヲ失ヒタル場合ニハ全商隊ノ負擔ヲ以テ之ニ對シ其失ヒタルト同數ノ駝駝ヲ

保險ノ歴史

保險法 保險總論 保險ノ歴史

給付シタルコト是ナリ但其給付ハ原物ニ限り決シテ金錢ヲ以テ給付セザリシコト亦爭フヘカラサル事實ニ屬ス抑モ猶太人ハ當時決シテ保險ニ付キ正確ナル觀念ヲ有シタルニアラサルコト明カナレトモ危險ヲ團體全員ノ負擔ニ移シタルコト及ヒ損失ヲ填補スルヲ以テ限度トナシ其結果填補ヲ受ケタル者ヲシテ利益ヲ得セシムルニ至ラシメサルコトノ二要件ハ不知不識ノ間ニ實行サレタルヨリ推考スレハ之ヲ保險ノ萌芽ト稱スルモ敢テ不可ナカルヘシ

此種ノ事實ハアッシリア、埃及等ノ古代ニ於テモ亦存在シタランコトハ想像スルニ餘アレトモ同氏ノ研究ニ依レハ一ノ記録ノ以テ之ヲ證スルモノナシト云フ然レトモ不幸者ヲ救助スル方法ニ至テハ古代何レノ國ノ文明ニモ缺クルコトナク希臘ノ如キハ國家ノ爲メニ身命ヲ捧ケタル人々ノ子孫ヲ國家事業トシテ養育教育シ又希臘及ヒ羅馬ノ古代ニ於テ個人相互ニ各自ノ全財産ヲ共有ニシ之ニ因リ進テハ利益ヲ得退テハ不幸ニ遭ヒタル場合ニ備フルモノアリシコト明カナル事實ナリ終身年金ノ制度ノ如キモ既ニ羅馬ノ古代ニ於テ其源ヲ發シタリト云フ史家ノ傳フル所ニ依レハ降テ東羅馬帝國ノ時代ニ至リ同業者相集マリテ相互救助ノ

組合ヲ組織シ共同ノ金庫ニ各自ノ出資ヲ供託シ組合員中死亡スル者アルトキハ金庫ヨリ或金額ヲ支出シテ之ヲ死亡者ノ相續人ニ與ヘ葬式其他ノ費用ニ供セシメタリ但此共同救助ハ管ニ死亡ノ場合ノミニ止マラスシテ疾病等ノ場合ニモ之ヲ擴張スルニ至レリ

近世ノ初期ニ至リ前述ノ救助ノ方法モ益々發達シ且其範圍ヲ擴張シタリ蓋シ歐洲北方ノ諸國ヨリ傳播シ來レル「ギルド」(Gild)ノ制度ハ此時代ニ於ケル相互救助ノ淵源タリ此「ギルド」ト稱スル團體ハ共同ノ利益ヲ増進スル爲メニ平等ノ權利ヲ有スル社員ノ團結ニシテ其起源ハ犧牲ヲ殺シテ神ヲ祭り酒宴ヲ催シタル事跡ニ溯ルコトヲ得ヘシ而シテ英國及ヒ諾威ニアリテハ第十世紀以後獨逸及ヒ丁抹ニアリテハ第十二世紀以後之カ發達ヲ見タリ斯ノ如ク最古ノ「ギルド」ハ宗教的ノ團體ニシテ寺院及ヒ慈善ニ關スル目的ヲ有シタリシカ其後宗教以外ノ「ギルド」ヲ生シ第三者ノ侵害ニ對シ社員ヲ共同ニ保護スルコト及ヒ其他緊急ノ必要ニ應シテ之ヲ救助スルノ目的ヲ有シタリ例ヘハ火災等ノ場合ニ相互ニ之ヲ救助スルカ如シ此制度ハ一時歐羅巴諸國ヲ風靡シタリシカ漸次其狀態ヲ一變シ遂ニ古來ノ名稱

タル「ギルド」ヲ改メテ相互擔保團體、同胞社、宗教的相互救助組合、火災救助社等ノ名稱ト爲リ今日ノ地方貯蓄所ノ如キモ亦此變體ニ外ナラス

是ヨリ先キ既ニ希臘及ヒ羅馬ノ時代ヨリ海上商業ニ付キ行ハレ來リシ一種ノ消費貸借アリ之ヲ冒險貸借 (Fœnus nauticum, Contract a la grosse) ト稱シ船舶ノ發航ニ際シ金錢ノ貸借ヲ爲シ借主ハ其船舶ノ安全ニ歸航スルニ當リテハ非常ニ高キ利子ヲ附シテ元金ヲ返還スルノ義務ヲ負擔シ貸主ハ船舶ノ沈沒、喪失等ノ危險ヲ負擔スルノ契約ヲ爲スモノナリ然ルニ第十三世紀ノ頃ニ至リ此制度ハ天主教ノ教旨ト矛盾スル所アリトノ理由ヲ以テ羅馬法王グレゴリー第九世ニ依リ禁止セラレタリシカ其後再ヒ之カ公行ヲ見ルニ至レリ此冒險貸借ハ今日ニモ傳ハリ我商法ニ於テハ之カ規定ナシト雖モ諸國ノ商法中概ネ之ヲ規定セサルハナシ而シテ其法律上ノ性質ニ付テハ議論アレトモ其取引ノ狀態ハ所謂海上保險契約ヲ轉倒シタルモノニシテ即チ保險者ヨリ保險金ヲ前渡シトナシ船舶カ歸航シタル場合ニ被保險者ヨリ保險料ト保險金トヲ併セテ保險者ニ返還スヘキコトヲ定ムルニ於テハ保險契約ハ一變シテ冒險貸借ニ酷似シタル契約ト化スヘシ蓋シ保險ノ間接

ノ動機トナリタルモノハ上來説述シタル相互救助ノ觀念ニ基クモノナレトモ其直接ノ動機ハ此冒險貸借契約ノ觀念タリシコト概ネ學者ノ認ムル所ナリ

第十三世紀ニ當リハルセロナ(南西班牙地中海沿岸ノ都會)ニ於テアラゴン王ノ命ニ依リ制定セラレタル海法アリ此海法ハ三百六十箇條ヨリ成リ古來ノ海法令ヲ編纂シタルモノニシテ船舶貸借、冒險貸借、共同海損等ノ規定ヲ存スレトモ海上保險ニ付テハ何等規定スル所ナシ又之ト相前後シテ英吉利王リチャードカオレロン島ニ於テ海上慣例及ヒ條約ヲ編纂シテ之ヲ「オレロン」法規ト稱シ其他各地ニ於テ數多ノ海上法規ノ編纂セラレタルモノアリシト雖モ海上保險カ始メテ法令中ニ現ハレタルハ千四百三十五年バルセロナニ於テアラゴン王ジャック一世ノ制定セル條例ナリ是ヨリ以後千六百八十一年ニ至ルマテ各地ニ於テ公布セラレタル海法令ハ皆多少海上保險ノ規定ヲ存セサルモノナク就中伊太利ノフロレンスニ於テハ保險ニ關スル特別條例ノ制定セラル、ニ至レリ又千五百六十三年佛蘭西王フイリッブ二世ノ海上商業條例中ニハ單ニ海上保險ノ規定ヲ存スルノミナラス保險監督官ノ名稱及ヒ職務規定ヲモ存シタリ但是ヨリ三年ヲ經テ千五百六十六年和蘭ニ

於テアルヴ公ノ制定シタル法律ニ依レハ生命保險ヲ禁止スルノ一項アリタルヲ以テ考フレハ當時ニ於テモ既ニ多少生命保險ニ類スル制度ノ發達シ來リタルコトヲ知ルニ足ルヘシ

千六百八十一年ヨリ千七百八十九年ニ至ル約百年間ハ保險制度ノ發達ニ付キ極メテ重要ナル時期ナリトス即チ千六百八十一年ノ海商條例中ニハ海上保險ノミヲ規定セラレタリシカ其後倫敦ニ於テ定額保險料ニ依ル相互組織ヲ以テ火災保險會社ヲ設立スル者アリ又千六百八十六年ニ至リルイ十四世ハ巴里市ニ於テ保險及ヒ冒險貸借ヲ業トスル會社ヲ起スノ勅令ヲ發シ千七百五十年ノ項ヨリ生命火災等ノ保險モ漸ク佛國ニ於テ發達スルニ至レリ然ルニ偶佛國大革命アリシカ爲メ一時保險ノ思想ニ頓挫ヲ來シ資本家ノ組織シタル會社ニ反抗スルノ機運ハ保險會社ヲシテ殆ト其跡ヲ絶タシムルニ至レリ

十九世紀ノ初期ニ於テナポレオンノ法典編纂ノ事業アリルイ十四世ノ海商條例ニ倣ヒ海上保險ヲ商法典中ニ規定シ海上保險ノ整頓ヲ助ケタルコト尠ナカラス加之カ爲メニ陸上保險事業ニモ影響ヲ及ホシテ其發達ヲ促カシ延ヒテ相互組

織ノ發達ヲモ見ルニ至レリ而シテ千八百四十八年以後ハ社會問題ノ盛ナリシ時代ニ屬シ災害、老廢、疾病等ノ強制的國家保險ヲ發生セシメタリ抑モ佛國ニ於テ始メテ國家保險ヲ唱道シタルハエミール、ド、ジラルダンナリ同氏ハ「ラ、フレッス」ナル小新聞ニ依リテ其意見ヲ公ニシ次テ衆議院議員及ヒ國民會議議員等ニシテ國家保險ヲ主張スルモノ相次テ起リ政府モ亦ナポレオン三世當時ハ大統領タリノ唱道ノ下ニ農業保險局ヲ設置セントノ議ヲ立テタルコトアリ然ルニ此等ノ國家保險論者ニ反對スル學者及ヒ實際家ノ勢力頗ル盛ニシテ遂ニヨラルダン氏ノ創意モ國民會議及ヒ立法會議ノ容ル、所トナラサリシカナポレオン三世實權ヲ握リ次テ皇帝トナルニ至リ國家的社會主義ノ實行ヲ期シ死亡保險、災害保險及ヒ老廢保險ノ三局ヲ設置シ死亡保險トシテハ三千法ヲ超過セサル金額ノ保險ヲ行ヒ災害保險トシテハ勞働者カ一時勞働不能ト爲ルヘキ災害及ヒ各自從事セル業務ニ付キ絶對的ノ勞働不能ト爲ルヘキ災害ニ付キ保險ヲ行ヒ又老廢保險トシテハ年額千五百法以內ノ年金ヲ與フル保險ヲ行ヒタリ斯ノ如ク其保險ノ範圍狹隘ナルノミナラス其事業ハ政府ノ事業ナルヲ以テ營業者ノ如ク申込人ヲ勸誘シ之ヲ好遇

スルコトナク種々ノ點ニ於テ被保險者ノ便利ハ營業者ノ側ニ在リシヲ以テ此新
 設ノ制度モ公衆ノ歡迎スル所トナラサリシ而シテ之ト相前後シテ白耳義、瑞西等
 ニ於テモ社會政策ニ基ク保險ノ問題ヲ喚起シ就中瑞西ニアリテハ國家ノ監督ノ
 下ニ勞働保險會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ又英國ニ於テモ千八百五十一年ノ法律
 ニ依リ郵便貯蓄銀行ニ於テ年金ヲ取扱ヒ千八百六十四年ニ至リ佛國ノ組織ト恰
 モ同一ナル保險局ヲ設クルニ至リタレトモ結局不成功ニ終リタリ
 勞働保險ハ佛國ニ於テ始メテ唱道セラレタルモノナルカ之ヲ實行シテ完成ノ域
 ニ達セシメタルハ獨逸ナリ即チ獨佛戰爭ニ於テ勝利者タリシ獨逸皇帝ハヒスマ
 ルクノ輔翼ニ依リ國家社會政策ヲ實行シ其一手段トシテ勞働保險ノ制度ヲ定メ
 千八百八十四年ニ至リ疾病保險法及ヒ災害保險法ヲ制定シ千八百八十六年ニ農
 林災害保險法ヲ千八百八十七年ニ海上災害保險法及ヒ土木災害保險法ヲ千八百
 八十九年ニ老廢保險法等ヲ發布シタリ此等ノ保險法ヲ模範トシテ歐洲諸國ニ勞
 働保險法ノ制定ヲ見ルニ至リ今日ニ在テハ文明諸國ニシテ勞働保險法ヲ制定セ
 サルモノハ極メテ稀ナルニ至レリ然ルニ佛國ハ勞働保險ノ國家保險ヲ唱道シタ

ル始祖ナルニモ拘ハラズ數回ノ計畫其功ヲ奏セス千八百九十四年ニ至リ勞働保
 險監督局ヲ商工務省中ニ設置シ勞働保險制度ノ調査及ヒ法案ノ起草ニ從事セシ
 メタレトモ商業會議所聯合會、商事協會、社會經濟協會、工業經濟協會等ノ有力ナル
 反對ニ遭遇シ保險會社モ亦自己ノ利益ヲ維持スルカ爲メニ之ニ反對シ遂ニ今日
 ニ至ルマテ勞働保險法ノ制定ヲ見ルニ至ラス
 斯ノ如ク一方ニ於テハ勞働保險ノ發達アリ他方ニ於テハ普通ノ保險モ亦其發達
 ノ程度著シキモノナキニアラス先ツ私保險ノ監督ヨリ論スレハ千八百六十七年
 ニ佛國保險會社法ノ制定アリ又千八百七十五年保險會社ノ登記其他監督ニ關ス
 ル法律ノ公布アリ英國ニ於テモ千八百七十年、千八百七十一年及ヒ千八百七十二
 年ノ三ヶ年ニ亘リ生命保險會社法ノ整頓スルアリ獨逸ニ於テモ亦千八百三十一
 年以後各邦多少ノ特別法ノ制定アリシカ遂ニ千九百年ニ至リ帝國ノ法律トシテ
 保險會社法ノ制定ヲ見ルニ至レリ又保險ノ私法上ノ關係ハ各國ノ商法中多少之
 ヲ規定セサルモノナク最近ノ法典トシテハ今日瑞西政府ノ公ニシタル保險法ノ
 草案アリ

又現今ニ至リテハ保險ヲ國際的ニ研究スルノ機關モ缺クル所ナク其一ハ萬國生命保險技術者ノ團體ニシテ千九百年七月巴里ニ於テ第四回ノ會議ヲ開キ其二ハ萬國生命保險醫ノ協會ニシテ千九百一年九月和蘭ノアムステルダムニ於テ第二回ノ會議ヲ開キ萬國勞働保險會議ト相對峙シテ保險ニ付キ熱心ナル研究ヲ爲セリ其他一國若クハ數國ニ限ラル、學會又ハ協會ノ如キハ頗ル多ク我國ニ於テモ保險學會アリ日本生命保險技術者ノ團體(日本「アクチュアリー」會)アリ日本生命保險醫協會アリ又各地方ニ於テ生命保險會社ノ談話會アリ斯ノ如ク種々ノ機關ニ依リ研究セラル、目的タル保險其モノ、運轉ヲ司ル會社ハ海上、火災、生命等ノ保險ニ付キ世界ヲ通シテ其數實ニ夥多ニシテ既ニ我國ニ於テ現在スルモノスラ三ノ海上保險會社十餘ノ火災保險會社及ヒ四十有餘ノ生命保險會社アリ而シテ其大多數ハ株式會社ニシテ例外ヲ成スモノハ唯リ矢野氏ノ第一生命保險相互會社、千代田生命保險相互會社其他二三ノ合資會社アルノミ

之ヲ要スルニ保險ナル制度ハ古代及ヒ中世ノ相互救濟團體ヨリ沿革シ來リタルモノニシテ此觀念ハ地中海ノ沿岸貿易ニ因リテ發達シタル冒險貸借ヲ動機トシ一變シテ海上保險ノ制度ヲ產出セリ此等ノ保險ハ主トシテ營利保險ノ形式ヲ具ヘタリシカ近世ニ至リ一方ニハ勞働問題ノ盛ナルニ從ヒ國家保險トシテ勞働保險ヲ生シ他方ニ於テハ營利保險ノ整頓ハ相互救濟ノ主義ニ基ク相互保險ノ發達ヲ促カン兩々相對シテ保險ノ組織ヲ完成スルニ至レリ

現今諸國
ニ於ケル
保險法規

第五章 現今諸國ニ於ケル保險法規

保險ニ關スル諸國ノ法制ヲ分類スレハ商法法典中ニ全ク保險ニ關スル規定ヲ設ケサルモノアリ海上保險ノミヲ規定スルモノアリ又海上及ヒ陸上ノ兩保險ヲ併セ規定スルモノアリ又商法以外ニ勞働保險法ヲ有スル國ト之ヲ有セサル國トアリ保險業法ヲ有スル國ト之ヲ有セサル國トアリ例ヘハ瑞西ノ如キハ其債務法中ニ何等保險ニ關スル規定ヲ存セス又勞働保險法ナル法律ヲモ有セサレトモ保險業ノ監督ニ關シテハ比較的ニ整頓シタル保險法ヲ有セリ(一八五五年六月)又佛蘭西及ヒ獨逸ハ共ニ商法中海上保險ニ關スル規定ノミヲ存シ保險業ノ監督ニ付テハ佛ハ一千八百六十七年ノ生命保險會社法ヲ有シ獨ハ一千九百一年ノ保險業法ヲ有ス然レトモ勞働保險ニ付テハ佛國ハ非常ニ不完全ナル法規ヲ有スルニ過キ

サレトモ獨逸ハ殆ント完成ノ域ニ達シタル各種ノ勞働保險法ヲ有セリ又伊太利
白耳義、西班牙、葡萄牙、和蘭等ノ諸國ハ商法中ニ海上及ヒ陸上ノ兩保險ニ關スル規
定ヲ存スレトモ保險業ノ監督ニ關シテハ特別ノ法律ナク勞働保險ニ關シテハ不
完全ナル法律ヲ有スルニ過キスト云フ
我國ノ保險法規ハ上述諸國ニ比シテ敢テ遜色アルコトナシ即チ商法中ニハ海上
及ヒ陸上ノ保險ヲ規定シ保險業ノ監督ニ關スル各種ノ法規モ整頓シ勞働問題ノ
未タ喧シカラサル今日ニ於テモ尙ホ當局者ノ注意之ニ及ヒテ内務省ハ之カ調査
ニ從事スルコト久シト云フ

參照法令

第六章 參照法令

- 商法及ヒ保險業法ヲ主トシ保險ニ關スル法令尠ナカラス左ニ之ヲ列舉スヘシ
- 第一 現行商法(明治三十二年法律第四十八號)
 - 第二 商法施行法(明治三十二年法律第四十九號)
 - 第三 舊商法(明治二十三年法律第三十二號)同二十六年法律第九號
 - 第四 民法(明治二十九年法律第八十九號、明治三十一年法律第九號)

- 第五 民法施行法(明治三十一年法律第十一號)
- 第六 非訟事件手續法(明治三十一年法律第十四號)
- 第七 保險業法(明治三十三年法律第六十九號)
- 第八 保險業法施行規則(明治三十三年農商務省令第十五號)
- 第九 臺灣總督府保險業法施行規則(明治三十三年臺灣總督府令第五十八號)
- 第十 外國保險會社ニ關スル件(明治三十二年勅令第三百八十號)
- 第十一 外國保險會社ニ關スル件(明治三十三年農商務省令第十九號)
- 第十二 外國會社ノ支店及ヒ外國人カ設定シタル會社組合ニ關スル件(明治三十三年勅令第二百七十二號)
- 第十三 相互保險會社登記取扱手續(明治三十三年司法省令第十八號)
- 第十四 相互保險會社登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付請求ニ關スル手数料ノ件(明治三十三年司法省令第十九號)
- 第十五 非訟事件印紙法(明治三十三年法律第六十六號)
- 第十六 商業登記取扱手續法(明治三十二年司法省令第十三號)附明治三十一年勅

令第十四號

第十七 商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求ニ關スル手数料ノ件(司法省令第十四號)

第十八 外國人ノ署名捺印ニ關スル件(明治三十二年勅令第五十號)

第十九 收入印紙ニ關スル件(明治三十一年勅令第四十號)

第二十 印紙稅法明治三十二年法律第五十四號

第二十一 外國相互保險會社登記簿ノ謄本又ハ抄本等ノ手数料ノ件(明治三十三年司法省令第三十六號)

第二十二 外國相互保險會社登記取扱場所ノ件(明治三十三年司法省令第三十八號)

參考書

第七章 參考書

我國ニ於テ保險ニ關スル參考書類ハ極メテ少ナシ左ニ其一般ヲ掲クヘシ

第一 保險法(和仁法學士)

第二 商法論第三卷(拙著)

第三 商法修正案參考書

第四 商法正義第三卷(岸本法律學士、長谷川喬氏共著)

第五 小エスレル氏舊商法草案理由書第二卷

第六 經濟叢書保險論(粟津法學士)

第七 理論實際生命保險論(菊地綾五郎氏譯 Nathan Willey)

第八 海上保險(村瀬春雄氏)

第九 生命保險論(藤澤理學博士)

第十 保險通論(奧村理學士)

第十一 保險論集(粟津法學士)

第十二 生命保險診斷學(山口醫學士)

第十三 保險判決集(粟津法學士、志田法學博士共著)

第十四 生命保險代理者(粟津法學士)

第十五 保險漫錄(岩間六郎氏)

第十六 新案生命保險論(矢野恒太氏)

- 第十七 通俗生命保險論(岩本玄之助氏)
- 第十八 通俗生命保險問答(麻生義一郎氏)
- 第十九 診査醫必携(印東醫學士遺稿百瀬達太郎氏補)
- 第二十 マイエット氏農業保險論
- 第二十一 マイエット氏災害救濟論
- 第二十二 統計年鑑(最近)
- 第二十三 諸種ノ死亡表
- 第二十四 生命保險會社計算表(丹勝吾氏)
- 第二十五 保險雜誌
- 第二十六 保險銀行時報
- 第二十七 保險銀行新報
- 第二十八 生命保險醫協會々報
- 第二十九 保險第一相互生命保險會社出版
- 第三十 社報(日本生命保險會社出版)

保險契約
法論

第一編 保險契約法論

本編ハ保險契約法論ト題シテ營利保險ニ關スル法理ヲ論シ次編ハ相互保險會社法論ト題シテ相互保險ニ關スル法理ヲ論スヘシ但本編モ亦分チテ二部トナシ第一部ニ於テハ損害保險契約ヲ説明シ第二部ニ於テハ生命保險契約ヲ説明スヘシ

第一部 損害保險契約

第一章 損害保險契約ノ意義

損害保險ハ火災、海陸ノ運送、農業等ノ保險ヲ包含ス而シテ其契約ハ之ヲ被保險者ノ方面ヨリ觀察スレハ火災其他ノ事故カ發生スルニ於テハ財產上ノ利益ヲ失フコトアルヘキ者カ豫メ或人(保險者)ト契約ヲ取結ヒ(自ラ取結ヒ又ハ第三者之ヲ取結フ)其生スル損害ヲ填補スヘキ旨ヲ約セシメ其報酬トシテ之ニ對シ一定ノ給付(金錢給付)ヲ爲スコトヲ約スル(自ラ約シ又ハ第三者之ヲ約ス)契約ナリ又之ヲ保險者ノ方面ヨリ觀察スレハ火災其他ノ事故ノ發生ハ統計ニ基キ之ト契約ヲ取結フ相手方(保險契約者)ノ各個ヨリ受クル一定ノ報酬ヲ領收シ同種類ノ危險ニ冒サルル多數人間ノ平均ニ因リテ大數觀察ノ測定ト實際トノ間ニ權衡ヲ保タシメ以テ

損害保險
契約
ノ
意義

此等ノ相手方各員ノ指定セル財産上ノ利益ヲ確保スルコトヲ約スル契約ナリ
 損害保険契約ノ法律上ノ性質ニ付テハ古來多數ノ學說アリテ羅馬法ノ勢力私法
 ノ全部ヲ壓例シタリシ時代ニ於テハ保險契約モ羅馬法上何レカノ種類ノ契約ニ
 屬スルモノナリトノ議論アリ就中今日ニ到ルマテ多少人ノ之ヲ論述セル學說ニ
 (1) 希望賣買說ト名クルモノアリ此說ニ依レハ契約當事者ノ一方ハ保險料ト稱
 スル代價ヲ支拂ヒテ未來ノ貨物タル保險金額ヲ買入ル、モノナリト云フ然レト
 モ保險制度ノ現狀ヨリ見レハ勿論此見解ハ不當ナリ又當事者ノ意思ヨリ考フレ
 ハ此學說ハ何等ノ根據ヲ有セサルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ保險契約
 ニアリテハ被保險者ハ現在ノ財産ニ付キテ有スル利益ヲ危險ノ實現スルト否ト
 ニ拘ハラズ同一若クハ之ト大差ナキ程度ニ繼續セシメントスルノ意思アレトモ
 危險ノ實現スルコトヲ希フモノニアラス却テ危險實現ノ結果タル損害ハ之ヲ避
 クヘキコトヲ希望スルモノナリ唯萬一其損害カ生シタリトセハ此契約アルカ爲
 メ其填補トシテ保險金額ヲ受取ルコトヲ得ヘキ權利ノ存スルノミ況ヤ其受クヘ
 キ填補額カ保險金額ニ達スヘキヤ否ヤハ危險ノ實現シタル狀態換言スレハ損害

ノ程度ニ依ルモノナルニ於テオヤ
 (2) 保險契約ヲ以テ射倖契約ノ一種ナリトナス學說ハ今日最モ廣ク行ハル、所
 ニシテ何レノ國ニテモ多數ノ賛成者ヲ有スルモノナリ然レトモ射倖契約ナルモ
 ノ、觀念ハ極メテ不明ニシテ今日ノ如ク法理ノ發達シタル時代ニハ民法上重要
 ナル契約ノ種類タルコト能ハサルカ故ニ獨逸ニ於テハ單ニ賭博及ヒ賭事ナル名
 稱ノ下ニ僅ニ其餘勢ヲ保テタリ之ニ反シテ我國ノ民法ニアリテハ全ク之カ規定
 ヲ存セス從テ保險契約ハ射倖契約ノ一種ナリト論スルハ偶、以テ其説明ヲ困難ナ
 ラシムルノ恐アルノミ獨逸ノエーレンベルヒ氏ハ更ニ一步ヲ進メ論シテ曰ク普
 通射倖契約ト稱スルモノハ特定ニシテ且偶然ナル事情ニ因リ其取引カ或ハ一方
 ノ利益ト爲リ或ハ他方ノ利益ト爲ル契約ヲ指ス而シテ一方ノ利益ハ他方ノ損害
 タルヘク又一方ノ損害ハ他方ノ利益タルヘシ然ルニ此意義ニ於ケル射倖契約ハ
 保險契約ト相容レサル性質ヲ有スルモノニシテ即チ之ヲ被保險者ノ位置ヨリ考
 フレハ被保險者ハ一定ノ金額(保險料)ヲ支拂ヒ其有スル財産上ノ利益ヲ確保セシ
 ムル實益ヲ有スルヲ以テ損害ノ生シタルトキハ相手方ヨリ填補額ヲ受ケ危險ノ

實現セサル間ハ其利益ヲ確保セラル、状態ニアルヲ以テ危険ノ實現スルト否トニ拘ハラズ損失ナル觀念ヲ存セサルノミナラス利益ナル觀念ノ其間ニ存スルコトナシ又之ヲ保險者ノ位置ヨリ考フレハ箇々ノ保險契約ニ付テハ或場合ニ壹圓ノ金額ヲ受取リテ千圓ノ金額ヲ支拂ハサルヘカラスアルコトアリ拾圓貳拾圓ヲ受取リテ何等ノ支拂ヲ爲サスシテ止ムコトアルヘキモ之ヲ其取結ヒタル契約全體ヨリ觀察スレハ豫メ爲シタル大數觀察ノ測定ト實際トノ間ニ大差アルヘキ所以ナク從テ壹圓ニ對シテ千圓ヲ支拂フモ拾圓貳拾圓ニ對シテ何等ノ支拂ヲ爲サ、ルモ結局總計ニ於テ保險者ノ財産状態ニ變化ナク損害ナシ故ニ如何ナル點ヨリ考フルモ保險契約ヲ射倖契約ノ一種ト看做スハ誤謬ナリト論セリ

(3) 保險契約ヲ以テ最大善意ヲ要スル契約ナリトナス學說ハ多クノ著書ニ見ル所ナレトモ是レ亦其意義ニ於テ不明ノ點ナキニアラス即チ此學說ノ真意カ保險契約ナルモノハ其用語ニ依リテ嚴格ニ解釋スヘキモノニアラスシテ世上一般善良ノ慣例ニ從テ之ヲ解釋セサルヘカラスト云フニアリトセハ固ヨリ當然ノ事ニ屬シ特ニ保險契約ニ付キテノミ之ヲ喋々スルノ必要ナシ之ニ反シテ此學說ノ根

據トスル所ニシテ若シ保險契約ノ當事者ハ其一方カ特ニ非常ノ背信ヲ行フニ於テハ他方ハ其契約ノ爲メニ拘束セラル、コトナキニ至ルモノナリト論スルニアリトセハ其論據ハ多數ノ保險契約ニ付キ是認スヘキモノナレトモ一方ニハ凡テ保險ニ付キ斯ノ如キ性質ノ存在スルモノニアラサルト同時ニ他方ニハ保險契約以外ノ契約ニアリテモ亦斯ノ如キ性質ヲ有スルモノナキニアラサルコトヲ認メサルヘカラス故ニ以下保險者及ヒ保險契約者並ニ被保險者ノ兩面ヨリ觀察シテ更ニ此問題ヲ詳論スヘシ

第一 保險者 保險者カ其危険ノ實現シタルコトヲ知リテ契約ヲ取結ヒタリトスレハ相手方ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(九商法七三)然レトモ斯ノ如キ性質ハ保險契約ノミ固有ナル性質ニアラスシテ例ヘハ高價ノ報酬ヲ出シテ遠方ヨリ名醫ヲ招聘シタル場合ニ其醫師カ患者ノ既ニ死亡シタルコトヲ知リタルニモ拘ハラズ招聘ニ應シテ患者ノ家ニ赴キタリトスレハ其醫師ハ報酬ノ請求ヲ爲ス能ハサルカ如キ是ナリ又保險者ノ財産ノ状態カ相手方ニ豫期ノ目的ヲ達セシムルコト能ハサルヘキ場合ニ至リタルトキハ保險契約

ハ其相手方ヲ拘束セサルモノナレトモ(商法四五)是レ亦必スシモ保險契約ニ固有ナルモノニアラス即チ長キ期間繼續スヘキ法律關係ニ付テ之ト同様ノ結果ヲ惹起スル場合アリ例ヘハ賃貸借契約ニ付テ民法第六百二十七條ヲ存シ雇傭契約ニ付テ民法第六百七十一條ヲ存シ請負ニ付テ民法第六百四十二條委任ニ付テ民法第六百五十三條商法第三百十四條組合ニ付テ民法第六百七十九條商法第三百二條ヲ存スルカ如キ即チ是ナリ之ヲ要スルニ保險者ノ側ヨリ觀察スレハ保險契約ヲ最大善意ノ契約ナリト稱スルハ其當ヲ得タルモノニアラス

第二 保險契約者及ヒ被保險者 保險契約ヲ最大善意ノ契約ナリト論スル學者ハ主トシテ保險契約者及ヒ被保險者ノ側ヨリ立論スルモノナリ即チ保險者ハ契約ノ取結及ヒ履行ニ際シ相手方ノ報告ノ正當ニシテ且信用スヘキコトヲ根據トナセリ故ニ相手方タル者ハ之ニ對シテ最大ノ善意ヲ用キサルヘカラスト然レトモ一方ニ於テハ最大ノ善意ヲ要セサル保險契約絶無ニアラス例ヘハ生存保險ノ如シ又最大ナラサル善意ノ程度ヲ以テ足ルモノアリ電災保險玻璃保險ノ如シ又他方ニ於テハ保險契約以外ニ或場合ニハ多少此性質ヲ帶フル契約

ナキニアラス例ヘハ賣買ノ如キ雇傭ノ如キ是ナリ然レトモ保險契約ノ大體ヨリ論スレハ契約ノ取結ヨリ始マリ保險關係ノ消滅ニ至ルマテ常ニ此性質ヲ存スルモノニシテ之ヲ他ノ契約例ヘハ賣買雇傭等ニ比スレハ其差實ニ大ナリ從テ此點ニ基キ保險契約ハ最大善意ノ契約ナリト論スルハ敢テ不當ナルニアラス尙ホ最大善意云々ノ問題ハ後章ニ於テ開陳ノ責任若クハ告知義務トシテ詳細ナル説明ヲ爲スヘシ

(4) 保險契約ヲ以テ條件附ノ契約ナリト論スルハ從來行ハレ來リタル學說ナレトモ是レ條件ト法律行為トノ關係ヲ明カニセサルノ謬論ナリ即チ此條件トシテ目セラル、所ノ危險事實ノ指定ハ保險契約ノ本體所謂法定條件ノ一ニ屬ス若シ之ヲ缺クトキハ保險契約ノ存在ヲ望ムヘカラス換言スレハ此指定ハ當事者カ保險契約ナル法律行為ニ附隨セシムル指定ニアラスシテ保險契約自身ノ要件ナリ從テ漫然保險契約上保險者ノ債務辨濟カ或不確定ノ事實ノ發生如何ニ繫ルノ事柄ヲ見テ直チニ保險契約ハ條件附契約ナリト論斷スルカ如キハ法理論ニアラサルナリ

(5) 保險契約ハ定額支拂ノ約束ニシテ損害及ヒ利益ノ如何ハ問フ所ニアラストノ學說ハエンデマン氏カ其保險ヲ論スト題セル論文中ニ唱道シタル所ニシテ同氏ハ保險契約ハ保險者カ報酬ヲ受ケ特定ニシテ且契約ニ詳細ニ決定セラレタル事實ノ發生シタル場合ニハ特定ノ金額若クハ損害ノ填補額ヲ支拂フヘキ契約ナリト定義シ且説明シテ曰ク保險ハ純然タル金錢取引ナリ被保險者ヨリ對價ヲ拂ヘハ保險者ノ支拂給付ヲ受クル權利ヲ取得スルモノニシテ生命保險ニ付キ最モ其性質ヲ發揚シタルモノナリ但一般ノ契約ニ於テ債權者及ヒ債務者ノ間ニ辨濟ノ金額ヲ決定スル方法ハ種々アリテ之ヲ何レノ種類ニ定ムルヤハ任意ナリ故ニ損害保險ニアリテモ契約ノ當時ハ保險者ノ辨濟ノ金額ヲ確定セス單ニ後日ニ至リ確定シ得ヘキ方法ヲ決定シ置キタルニ過キスト此議論ハ生命保險ノ誤解ニ基キタルモノニシテ歷史上及ヒ理論上ノ根據ヲ缺クノミナラス若シ損害保險ニ付テ此學說ノ行ハル、ニ至ラハ損害保險ナル制度ハ之ヲ禁止セサルヘカラサルニ至ラン何トナレハ彼ノ賭博保險ト真正ノ保險トヲ區別スル標準ハ財産上ノ利益ノ存否如何ニ存スルモノナレハナリ

(6) 保險契約ハ書面契約ナリトノ說ヲ唱ヘタル少數ノ學者曾テ存シタリシカ今日ニ至リテハ其合意約諾成契約又ハ意約タルヲ疑フ學者ナシ蓋シ此誤解ヲ生シタルハ海上保險ノ取結ニ付キ書面ヲ要スル旨ヲ規定スル商法少ナカラサリシヲ以テ書面ハ啻ニ證據ニ止マラスシテ契約ノ要件ヲ成スモノナリト解釋シタルニ依ルモノナリ

(7) 保險契約ハ保險者カ整然タル大規模ニ基キ取結ハル、契約ナリトナス學說アリ此學說ハ保險經營ノ實際ヲ觀察シ且其經濟上ノ理論ヨリ打算シタルモノニシテ保險ノ經濟上ノ目的ヲ達スルニハ必ス大規模ニ基カサルヘカラサルコト疑ナシ從テ純理上ハ正當ナレトモ歐米ニ於テハ從來真正ナル保險契約ト稱シ來リシモノ、中箇々獨立シテ取結ハル、所ノ契約外國ニ其例ナキニアラス加之特別ノ法規ナキニ之ヲ法律上ノ要件トナスニハ少ナクトモ慣習上大規模ノ經營ニ基カサル保險契約ハ相手方ヨリ之カ無效若クハ取消ヲ主張シ得ヘク又ハ全然無效タルヘキモノナルコトヲ要スレトモ實際ニ於テハ然ラス從テ此論點ヨリ右ノ學說ヲ批難スル學者亦尠ナカラス然ルニ退テ我國ノ法制ニ就テ見ルニ保險ハ相對

的ノ商行爲タルヘキモノニシテ(四商法二六號)之ヲ業トスル者ハ株式會社若クハ相互會社ニ限リ(法二保險業)法制上其經營ノ大規模タルヘキコトヲ強制セリ而シテ個人カ(一)個々獨立シテ取結フ契約(二)他ノ法律行爲ニ附隨シテ取結フ契約若クハ(三)他ノ營業ノ附屬トシテ取結フ契約ニシテ不確定ノ事實ノ發生ニ因リ相手方ニ生スル損害ヲ填補スルノ目的ヲ有スルモノアルモ是レ真正ノ保險契約ニハアラスト解スルヲ妥當ナリトス(專業保險ハ純然タル保險ナレトモ附隨保險ハ然ラス從テ之ヲ準保險ト稱ス故ニ我國ニ於ケル保險契約ハ保險者カ整然タル大規模ニ因リ取結フ契約ナリト論スルモ誤謬ノ說ニアラスト知ルヘシ)
以上ノ諸說ニ附帶シテ茲ニ說明ヲ要スル事項アリ他ニアラス現時伊太利ノ羅馬大學教授ヴィヴァント氏及ヒ佛國巴里大學教授タレール氏等ハ相互保險ヲ以テ保險ノ本體トナシ營利保險ハ單ニ相互保險ノ一種ノ變體タルニ外ナラスト主張セリ就中タレール氏ハ其著商法論ニ於テ論シテ曰ク保險トハ特定ノ危險ニ冒サルル人カ毎年出資ヲ支拂フコトヲ約シ多數人ニ對シテ危險ヲ引受クル團體ハ此申込ヲ承諾シテ危險ヲ引受ケ斯ノ如クシテ其危險ニ冒サル、一人カ團體ニ對シテ

有スル持分ハ即チ保險ニ外ナラスト斯ノ如キ議論ハ營利保險ヲ經濟上ヨリ觀察シ凡テ之ヲ相互保險ノ法理ト調和符合セシメント試ミタルニ基因スル謬說ナリ若シ斯ノ如キ附會ノ說ヲ以テスルトキハ賣買契約ヲ締結スルハ消費組合ニ加入スルコト、爲リ雇傭モ亦勞働組合ニ加入スルコト、爲ルヘシ要スルニ法理論トシテハ採用スヘキ說ニアラサルナリ

以上説明シ來リタル各種ノ學說中保險契約ノ性質ヲ眞ニ發揮シ得タルモノハ極メテ尠ナシ蓋シ保險契約ハ羅馬私法ノ沿革ヲ離レテ特種ノ發達ヲ成シタルモノニシテ今日ノ法制上特種ノ地位ヲ有スルモノナリ從テ又他ノ契約ト共ニ之ヲ同一ナル模型ニ容レント欲セハ極メテ慎重ナル研究ヲ以テセサルヘカラス我輩ハ之ヨリ以下損害保險契約ノ私法上ノ性質ニ付キ學者間ニ爭ナキ點ノミヲ掲ケ次ニ商法ノ規定ニ從テ損害保險契約ノ意義ヲ説明セントス
損害保險契約ハ之ヲ私法ノ法理ヨリ論スレハ(一)意約(合意約若クハ諾成契約トモ云フ)ニシテ(二)有償且(三)雙務ノ性質ヲ有シ(四)未來不確定ノ損害ヲ填補スルヲ以テ其目的トナスモノナリ

損害保險契約ノ定義ハ商法第三百八十四條ニ掲ケラル該條ニ依レハ
損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアル
ヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ
因リテ其效力ヲ生ス

- ト今此定義ヲ分析スレハ左ノ五箇ノ要素ト爲ル
 - 第一 當事者(保險者及ヒ保險契約者)
 - 第二 危險ノ實現シテ損害ト化スルニ付テノ客體(被保險利益)
 - 第三 偶然ナル一定ノ事故(危險)
 - 第四 損害ノ填補(保險金額ヲ限度トスル金額ノ支拂)
 - 第五 報酬(保險料)
- 是ナリ以下款ヲ分チテ順次之ヲ説明スヘシ

當事者

第一節 當事者

保險契約上損害ノ填補ヲ約スル者ヲ保險者ト稱シ之カ相手方ト爲リテ報酬ヲ支
拂フコトヲ約スル者ヲ保險契約者ト稱シ又被保險利益ヲ有スル者ヲ被保險者ト

保險者

稱ス而シテ保險契約者ハ同時ニ被保險者タル資格ヲ有スルヲ原則トスレトモ此
兩資格ハ必スシモ同一人ニテ之ヲ有スルコトヲ必要トセス(商四參照)

第一款 保險者

保險業法第二條ニ依リ保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニアラサレハ之ヲ營ム
コトヲ得サルヲ以テ茲ニ保險者トシテ説明スルハ株式會社ニ限ル(第一編第二章
第八款ニ於テ附屬保險トシテ説明シタルモノハ之ヲ正確ナル法理ヨリ論スレハ
保險ト類似スル制度ナレトモ純然タル保險ニアラス從テ本編中本節以外ノ説明
ハ之ヲ準用スルコトヲ妨ケスト雖モ當然適用セラルヘキモノニアラス)本款ニ於
テハ保險者タル株式會社ノ法規ヲ簡單ニ説明スヘシ

第一 損害保險株式會社ノ目的

此會社ノ目的ハ必ス損害保險ニ限ルモノナリヤ否ヤハ我商法及ヒ保險業法ノ
解釋如何ニ依ル即チ商法ニ所謂生命保險ヲ廣義ニ解シ人保險ト同一ナリトス
レハ保險業法第四條ニ依リ損害保險會社ハ疾病、災害、老廢等ノ保險ヲ併セテ其
目的トナスコトヲ得ス之ニ反シテ商法ノ生命保險ヲ狹義ニ解シ生死以外ノ事

項ニ關スル人保險ヲ除外スルトキハ保險業法第三條及ヒ第四條ノ解釋ニ付キ
 茲ニ積極消極二箇ノ見解ヲ生スヘシ而シテ積極論ニ依レハ損害保險會社ハ疾
 病其他ノ人保險ヲ兼ヌルコトヲ得ヘシ何トナレハ保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌ
 ルコトヲ得スト雖モ疾病其他ノ保險ハ生命保險ニアラサレトモ保險タルヲ失
 ハス而シテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的トナスコトヲ得サレトモ生
 命保險ニアラサル疾病其他ノ保險ハ併セテ共ニ其目的トナスコトヲ妨ケサレ
 ハナリト然ルニ消極論ハ之ニ反對シテ曰ク保險業法第三條ヲ嚴格ニ解釋スレ
 ハ他ノ事業トハ商法ノ保險トシテ掲ゲタルモノヲ基礎トシテ立論シタルモノ
 ナリ故ニ疾病其他ノ保險ハ商法ニ規定セサル所ナルヲ以テ同條ニ所謂他ノ事
 業ナリト解スルコトヲ得ヘシ縱令此解釋ヲ不當トナスモ保險業法ニ所謂生命
 保險ナル語ハ保險監督ノ點ヨリ用キラレタルヲ以テ之ヲ廣義ニ解シ人保險全
 部ヲ包含セシムヘキモノニシテ疾病其他ノ保險ハ生命保險會社ノ目的トナス
 コトヲ得レトモ損害保險ト併セテ之ヲ同一損害保險會社ノ目的トナスコト能
 ハサルモノナリト余輩ハ消極論ノ後段ノ理由ヲ是認シテ積極論ニ反對セント

欲ス

第二 損害保險株式會社ノ設立

損害保險株式會社ハ之ヲ設立スルニ付キ一時設立ノ場合ニハ會社ノ設立ノ前
 若クハ後又漸次設立ノ場合ニハ株式募集ノ前ニ發起人ヨリ發起ノ認可ヲ主務
 省(現今ニ於テハ農商務省)ニ申請シ發起ノ認可ニ基キテ會社ノ設立ヲ完成シ本
 店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シ而シテ總取締役及ヒ總監査役ヨリ事業免
 許ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス事業免許アリタルトキハ始メテ營業ヲ開始スルコ
 トヲ得ヘシ(保險業法一、一九同法施行細則一、二、三及ヒ商法一四〇參照)

第三 損害保險株式會社ノ定款、商號及ヒ資本

損害保險株式會社ノ定款ニハ商法第二百二十條第二號乃至第八號ニ掲ケラレタ
 ル事項ノ外ニ(一)保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍(二)設立費用消却ノ方法ヲ記載スル
 コトヲ要シ其商號ニハ保險ノ種類(火災保險ナレハ火災保險ノ文字ヲ加フルカ
 如シ)ヲ加フルコトヲ要シ又其資本ハ十萬圓以上ナルヲ要ス(保險業法一、四乃至一、六及ヒ二〇參照)

第四 損害保險會社ノ營業

保險法

保險契約法論

損害保險契約

損害保險契約ノ意義

當事者

損害保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス從テ主務官廳ハ何時ニテモ其事業ノ報告ヲ爲サシメ保險業法第五條及ヒ第六條ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ且會社ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ヘク又業務若クハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ之カ停止ヲ命シ或ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者及ヒ保險者ノ權利ヲ保護スルニ付キ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得若シ會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ官廳ヨリ其事業ノ停止若クハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘク而シテ營業ノ免許ヲ取消サレタル會社ハ之ニ依リテ解散スルモノトス(保險業法八乃至一二及ヒ二二) 同法施行細則六乃至八參照

第五 損害保險會社ノ計算

損害保險會社ハ其設立費用及ヒ初ノ五年間ノ營業費ヲ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ毎年一部分宛定款ノ定ムル所ニ從ヒ消却スルコトヲ得レトモ此消却ヲ終ルマテハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得サルモノトス又毎年一定ノ時期ニ於テ其商業帳簿ヲ閉鎖シテ計算ヲ爲シ農商務大臣ノ定ムル書式ニ從テ各種ノ事項

ヲ主務官廳ニ報告スルコトヲ要シ且各事業年度ノ終リニ於テ現存スル責任準備金ヲ計算シ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス(商法一九四、保險業法一九五、八、九二乃參照九五)

第六 損害保險會社ノ合併

損害保險會社ノ合併ハ相手方タル保險契約者及ヒ被保險者ノ利害ニ關スルコト大ナルヲ以テ普通ノ株式會社ノ合併ニ比スレハ一層嚴重ナル規定アリ即チ一方ニハ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキ商法ノ規定ニ從ヒ一般ノ債權者ニ對シ其旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告ス他方ニハ各被保險者ニ對シ會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ送付シテ催告ヲ爲スヘク若シ異議アレハ一般ノ債權者ニ付テハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニアラサレハ合併ヲ爲スコト能ハサレトモ被保險者ニ付テハ其異議者ノ保險金額ノ合計カ會社ノ總保險金額ノ十分ノ一以上ナルトキハ合併ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シテ總保險金額ノ十分ノ一以下ナルトキハ會社ハ其異議アルニモ拘ハラズ合併ヲ爲シ其合併ヲ以テ異議者ニ對抗スルヲ得ヘシ但合併ノ決議ニ效力ヲ

生セシメント欲セハ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ若シ許可ナケレハ以上ノ手續ヲ履ムモ合併ノ效果ヲ生セサルモノトス(商法七八乃至八〇、二二五、保險法二二及二二三參照)

第七 損害保險會社ノ清算

損害保險會社ノ清算人ハ一般ノ株式會社ノ清算人ト同一ノ規定ニ依リテ生スレトモ其異ナル所ハ免許ノ取消ノ場合ニシテ此場合ニハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス而シテ株主總會ノ決議若クハ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニハ被保險者ニ對スル損害事由カ解散ノ時ヨリ一个月以内ニ生シタルモノニ限り之ヲ填補スルコトヲ要シ此期間ヲ經過シタル者ニ對シテハ未タ經過セサル保險期間ニ對スル保險料ノ拂戻ヲ爲サ、ルヘカラス(保險法七七、七八參照)

第八 保險營業ニ對スル罰則

主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者ニ對シテハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ以テ保險事業ヲ監督スルノ趣旨ヲ貫徹シ(保險法九七參照)又免許ヲ受ケテ保險事業ヲ營ム株式會社ノ行動カ特定ノ法規ニ反スル場合ニハ其取締役、監査

役又ハ清算人ヲ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス(保險法九八乃至一〇〇參照)而シテ此事件ハ會社ノ本店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テシ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス但此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有シ其執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從テ之ヲ爲スモノトス(保險法一〇一、非訟事件手續法二〇六乃至二〇八參照)

第二款 保險契約者

保險契約者トハ保險者ニ對シ保險契約取結ノ相手方トナルモノニシテ自然人タルト法人タルトヲ問ハス又被保險利益ヲ有スルト否トヲ論セサルモノトス但保險契約者カ被保險利益ヲ有セサル場合ニアリテハ其被保險利益ヲ有スル者ヲ被保險者ト名ク而シテ此場合ニ保險契約者カ被保險者ノ爲メニ保險契約ヲ取結フニ付テ兩者ノ間ニ特定ノ法律關係ノ存在スルヲ必要トセス例ヘハ借主カ貸主ノ爲メニ損害保險ヲ取結ヒタリトスルモ此貸借ノ關係カ借主ヲシテ保險契約者タラシメ又貸主ヲシテ被保險者タラシムルノ要件ニハアラサルナリ
他人ノ被保險利益ニ付キ或人カ保險契約ノ取結ニ參與スル場合ヲ三種ニ區別ス

ルコトヲ得ヘシ其一ハ或人カ單ニ他人ノ取結フ契約ヲ媒介シ若クハ補助スル場
合ニシテ特ニ説明ヲ要セス其二ハ或人カ其代理權限内ニ於テ他人被保險利益ヲ
有スル者ノ代理人トシテ保險契約ヲ取結フ場合ニシテ其他人ハ此場合ニ於テハ
被保險者タルト同時ニ保險契約者タリ其三ハ或人カ代理權ヲ有セス若クハ之ヲ
有スルモ其旨ヲ表示セスシテ自己ノ名ヲ以テ保險契約ヲ取結ヒ而シテ被保險利
益ハ他人ニ存シ且保險者ノ約スル損害ノ填補モ亦固ヨリ其他人ニ對スルモノナ
ル場合ニシテ此場合ニハ或人ハ保險契約者ニシテ他人ハ被保險者タリ此第三ノ
場合ハ舊商法第六百二十八條ニ於テ他人ノ計算ヲ以テスル保險ト名ケラレタル
モノニシテ現行商法第四百一條及ヒ第四百二條ニ之ヲ規定セリ而シテ此種ノ制
度ハ夙ニ海上保險ニ於テ發達シタルモノニシテ陸上運送保險及ヒ火災保險ニ於
テモ今日盛ニ行ハル、所ナリ例ヘハ問屋運送取扱人倉庫營業者等ハ他人ノ物品
ニ對シテ保險ヲ付シ各種ノ製造又ハ加工ヲ爲ス營業者ハ得意先ヨリ預リタル物
品ト自己所有ノ物品トヲ併セテ之ニ保險ヲ付スル如キハ日常見ル所ナリ
此制度ノ法律上ノ性質ニ付テハ學說歸一セス或ハ之ヲ間接代理トナシ或ハ間接

代理ト直接代理トノ混合シタルモノトナシ或ハ直接代理トナシ又或ハ第三者ノ
爲メニスル契約トナス左ニ之ヲ分説スヘシ

第一 間接代理說。此學說ハ佛蘭西及ヒ伊太利ニ行ハル、所ニシテ佛商法ハ明
文ヲ以テ之ヲ規定セリ(佛商法三三)此說ニ依レハ保險契約者ハ問屋ト看做サレ契約
上ノ權利及ヒ義務ハ共ニ保險契約者ノ有スヘキモノトナルモ損害填補ノ請求
權ニ付テハ實際上問屋ト異ナル所ナキヲ得ス故ニ或學者ハ被保險者カ保險契
約者ヨリ其請求權ノ移轉ヲ受クルモノナリト説明シタルトモ今日此説明ヲ採
用スル學者極メテ少ナシ今日主トシテ行ハル、見解ハ被保險者ハ直接ニ填補
請求權ヲ有シ保險契約者ハ其推定的代理人トシテ權利ヲ實行スルモノト論シ
此點ニ限リ問屋ノ制度ニ例外ヲ成スモノナリト説明セリ英吉利法律ニ於テモ
亦此間接代理說行ハレ保險契約者カ契約上ノ權利ヲ得義務ヲ負フモノナリト
ノ主義ハ却テ佛及ヒ伊ニ比シ嚴格ニシテ保險證券ニ記載セラレサリシ人カ眞
ニ被保險利益ヲ有スル場合ニ於テ損害ノ填補ヲ請求セント欲セハ保險契約者
ヨリ證券ノ裏書ニ依リ其請求權ノ讓渡ヲ受ケサルヘカラサルモノトセリ

第二 間接代理ト直接代理トノ混合ナリトノ説。此學說ハエーレンベルヒ氏等一派ノ主張スル所ニシテ他人ノ計算ヲ以テスル保險契約ノ取結ハ本來問屋カ委託者ノ爲メニ取結フ取引契約ト同シク保險契約者カ保險者ノ相手方トナルモノニシテ契約ニ因リ保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルハ之カ爲メナリ(商法四〇)然ルニ損害保險契約ノ性質上被保險利益ヲ有セサル者ヲシテ損害ノ填補ヲ受クル權利ヲ得セシムルコト能ハス何トナレハ若シ斯ノ如キコトヲ許スニ於テハ所謂賭博保險ナルモノヲ現出スルニ至リ保險制度ヲ其根柢ヨリ破壊スルニ至ルヘシ故ニ他人ノ計算ニ於テ保險契約ヲ取結フ者ハ契約上ノ義務ヲ負擔スルモ損害ノ填補ヲ受クル權利ハ直チニ被保險利益ヲ有スル者ニ歸著セシメサルヘカラス此點ヨリ觀察スレハ間接代理ニ加フルニ直接代理ヲ以テスルモノニシテ一種特別ノ中間的制度ナリ

第三 直接代理説

此説ハフョークト及ヒポユールノ兩氏カ各其著海上保險法論ニ

於テ主張シ獨逸帝國商事裁判所ノ判決例ニモ採用セラレタル所ニシテ其理由トスル所ハ保險契約ノ取結ハ保險契約者カ被保險者ノ委託ヲ受ケタル場合ノ

ミナラス委託ヲ受ケサル場合ト雖モ保險者ノ相手方タル者ハ被保險者ナリ而シテ保險契約者カ保險料ヲ支拂フハ保險者ニ對シ其相手方トナルヘキ者ヲ表示セサルカ爲メナルカ若クハ表示スルモ果シテ委託代理權ノ授與アリシヤ否ヤ不明ナルヲ以テ已ムヲ得サルコト、シテ保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルニ至ルノミ契約上當事者トシテ著眼セラレ殊ニ保險者カ相手方トシテ著眼シタルハ被保險者ナルカ故ニ被保險者カ損害填補ノ請求權ヲ有スルハ何レノ場合ニ於テモ直接代理ノ結果ニ外ナラスト

第四 以上述ヘタル諸説ノ外獨逸ニ於テ尙ホ一種ノ學說アリヘルウ井ヒ氏カ其著「第三者ニ給付ヲ約スル契約論」中ニ論スル所ニシテ即チ保險契約ヨリ利得ヲ爲スヘカラストノ原則一般ニ認メラル、モ是レ他人ノ有スル被保險利益ニ對スル保險契約ヲ無効トスルニアラスシテ保險ノ結果ハ結局眞實ニ被保險利益ヲ有スル者ニ歸著スルヲ要スルトノ意ニ外ナラス故ニ次ノ二ノ場合ハ他人ノ被保險利益ノ爲メニスル契約ト雖モ之ヲ有效トセサルヘカラス其一ハ當事者カ損害ヲ受クヘキ者ニ填補ヲ爲スヘキコトヲ一致セル場合其二ハ保險契約者カ

被保險利益ヲ有スル者ト或法律上ノ關係ニ立チ之カ爲メ前者ハ後者ニ保險金額ヲ供出セサルヘカラサル場合はナリ而シテ此第二ノ場合中ニハ或ハ(一)契約若クハ法律ノ規定ニ因リ保險契約取結ノ義務アル場合或ハ(二)經濟上保險ノ目的物ハ自己ニ屬セサルモ形式上ノ意義ニ於テハ自己ニ屬スル場合(例ヘハ信託所有者又ハ買入問屋ノ如シ)アルヘシ要スルニ第二ノ場合ハ保險契約者ハ單ニ第三者ノ爲メニノミ契約ヲ取結フニアラスシテ自己モ之ヨリ填補ヲ受クル權利ヲ有スルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ普通ニ名ケテ他人ノ計算ノ爲メニスル保險契約トナスモノ、中ニハ種々ノ體様ノ存スルモノニシテ之ヲ同一模型ノ下ニ概論スルハ不可ナルト同時ニ保險契約ヨリ利得ヲ爲スコトヲ許サスト

ノ原則ヨリ打算シ來レル種々ノ謬說ハ之ヲ排斥セサルヘカラスト
第五 第三者ノ爲メニスル契約ナリトノ說 此說ハマルス及ヒレグ^井ス氏等ニ依リテ唱道セラレタル所ニシテ契約ノ當事者ハ保險契約者ニシテ第三者タル被保險者ノ利益ノ爲メニ保險契約ヲ取結フモノナルカ故ニ自ラ保險料支拂ノ義務ヲ負ヒ契約上損害ノ填補ヲ受クヘキ權利ハ其契約ノ趣旨ニ從ヒ被保險者之

ヲ取得スルモノトス而シテ既ニ法制上第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ヲ是認スル以上ハ此種ノ契約カ第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ノ一種タルコトハ蓋シ疑ヲ容ル、ノ餘地ナシト

以上ノ如ク五箇ノ學說相對立セリト雖モ第二及ヒ第三ハ我法制上採用スヘカラサルモノナルコトハ明カナリ何トナレハ第二ノ學說ニ從ヘハ直接代理ト間接代理ト中間ニアルモノナリト論スルモ此二箇ノ代理ハ果シテ能ク調和スヘキモノナリヤ否ヤ抑モ直接代理ハ我民法ニ所謂代理ニシテ本人ノ名ヲ明示シテ法律行為ヲ爲ス場合ニ存シ而シテ其效果ハ直接ニ本人ニ及フモノナリ然ルニ他人ノ計算ヲ以テスル保險契約ハ本人アルコトヲ表示シ又ハ本人ヲ指名スト雖モ本人ノ代理人トシテ表示ヲ爲スニアラス故ニ法理上ヨリ論スレハ法律ノ規定ニ因リテ本人カ其效果ヲ受クヘキモノニシテ代理ノ作用ニ因リ其效果ヲ受クルモノニアラス又所謂間接代理ナルモノハ問屋又ハ運送取扱人ノ如ク結局委託者即チ他人ノ爲メニスルコトハ明カナレトモ委託セラレタル取引ヲ爲スニ當リテハ一應自己ノ爲メニスル契約ヲ取結フモノタルニ過キス從テ委託者ト問屋トノ間ニハ直

チニ其買入レタル物品ヲ引渡シ若クハ賣上代金ヲ返還スルヲ要スト雖モ是レ決
シテ代理ノ作用ニアラサルナリ斯ノ如ク相調和セサル二箇ノ制度ヲ合シテ一ノ
新制度ヲ作り以テ他人ノ計算ノ爲メニスル保險契約ヲ説明セントスルハ單ニ其
結果ヨリ推論スル誤謬ト云ハサルヘカラス況ヤ間接代理ナル語ヲ用キルスラ沿
革ニ支配セラレタル濫用ナルニ於テオヤ
次ニ直接代理說ハ之ヲ當事者ノ意思ニ尋ヌルモ正鵠ヲ缺クモノナリ何トナレハ
保險契約者ハ自ラ保險料ヲ支拂フノ義務ヲ負擔スルノミナラス自ラ進ンテ其契
約上ノ條項ヲ取捨シ而モ此契約ノ取結ニ付テハ委託ヲ受ケサル場合少ナシトセ
ス要スルニ此契約ノ主トシテ著眼シタル目的ハ他人ニ效果ヲ及ホサントスルニ
アリテ此點ニ於テハ直接代理ト類似スト雖モ代理權ノ授與ナク又代理ノ意思ナ
ク且代理ノ效果ト異ナレル效果ヲ生スルニ之ヲ直接代理ト説明スルハ不當ナリ
ト云ハサルヘカラス

次ニ第一ノ間接代理說ヲ主張スル者ノ真意ハ此種類ノ保險契約ヲ一般ノ保險契
約中ヨリ分離シテ一種特別ノ制度トナシ問屋若クハ問屋ト對立スヘキモノトナ

サントスルニアレトモ我商法ノ規定ニ依レハ此學說ハ採用スル能ハサル所ナリ
何トナレハ第四百一條及ヒ第四百二條ニハ廣ク他人ノ爲メニスル保險契約ト云
ヒ以テ代理ノ作用ニ因ラサル場合(委任ヲ受ケタルト否トヲ問ハス)ノ總テヲ之ニ
包含セシムルヨリ考フルモ將タ又第四百二條ヲ以テ委任ヲ受ケサルモ被保險利
益ヲ有スル或人ヲ表示シテ之カ爲メニ契約ヲ取結フ場合ニハ其表示セラレタル
人ハ被保險者トシテ當然契約上ノ利益ヲ享受スト規定シ以テ民法第五百三十七
條第二項ト相俟チテ被保險者ノ權利ノ發生スル時期ヲ決定シタルヨリ考フルモ
此種ノ契約ハ所謂第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ニシテ間接代理ノ如キ特種ノ
制度ニアラサルコト明カナリ
之ヲ要スルニ我商法ノ解釋トシテハ保險契約者ト被保險利益ヲ有スル者ト異ナ
ル場合ニハ第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ナリト謂フヲ可トス而シテ第三者ノ
利益ノ爲メニスル契約ハ法理上頗ル重要ナルモノナルヲ以テ左ニ其性質ヲ研究
スヘシ

抑モ羅馬法ニ於テハ第三者ニ給付ヲ爲スコトヲ約スル契約ハ其第三者ニ對シテ

何等ノ效果ヲ生セサルノミナラス契約ノ相手方ト雖モ之ニ依リテ何等ノ權利ヲ得サルモノトス然ルニ近世經濟ノ發達ニ伴ヒ斯ノ如キ嚴格ナル法理ハ不便甚タシキヲ以テ遂ニ此種ノ契約ハ當事者間ニ有效ナルノミナラス第三者モ亦其結果トシテ債權ヲ取得スルコトヲ得ルモノトスルニ至レリ而シテ今日尙ホ問題トシテ存スルハ其契約ニ因リ第三者カ直接ニ權利ヲ取得スルヤ否ヤノ點ニシテ舊派ノ學說ハ第三者カ之ヲ承認シテ始メテ給付ヲ約シタル者トノ間ニ契約成立シ之ニ依リテ債權ヲ取得スト説明ス而シテ其理由ニ曰ク第三者ハ自己ノ參與セサルニモ拘ハラズ當事者ノ一方ヨリ他方ニ對シテ爲シタル約束ニ因リ債權ヲ取得スヘキ所以ナシ何トナレハ是レ法理上及ヒ論理上不能ノコトニ屬スレハナリト然ルニ之ト正反對ナル獨逸民法其他新派ノ學說ハ總テノ契約ニ付キ此種ノ方法ヲ以テ第三者カ直接ニ債權ヲ取得スルヲ以テ原則トナセリ又以上ノ兩者ヲ折衷スル二三ノ學說アリテ一方ニ羅馬法以來ノ原則ヲ墨守シ他方ニ近世經濟ノ必要ニ應シ之ヲ改善セントシテ種々ノ説明ヲ試ム例ヘハ利益ヲ享有スルノ意思ヲ表示シテ始メテ契約關係ニ參與シ以テ債權ヲ取得ストノ說又ハ共同的ノ申込ニ對シ

テ第三者ハ承諾ヲ與ヘ以テ債權ヲ取得ストノ說是ナリ蓋シ我民法ハ此折衷派ノ一ニ屬シ商法ハ第四百二條ヲ以テ新派ノ學說ヲ採用シタルモノトス
 我民法ニ於テハ第三者ノ權利ハ其利益ヲ享受スルノ意思ヲ表示シタル時ニ發生スルモノトシ其時マテハ契約當事者間ニミ法律關係ノ存スルモノトセリ翻テ獨逸民法ノ規定ヲ見ルニ契約當事者間ハ債務關係ヲ生スルコトハ其契約カ第三者ニ對シテ權利ヲ發生スルニ付キ妨害ト爲ルヘキ關係ヲ有セス却テ特約ナキ限りハ要約者ハ諾約者ニ對シ第三者ニ給付スヘキ旨ヲ請求スル權利ヲ有スト推定シ之ニ反對ノ特約ヲ是認セリ我民法ノ趣旨モ亦結局之ニ外ナラスシテ契約當事者間ノ法律關係ノ有無ハ第三者ニ權利ヲ生スルニ付キ何等關聯ナキモノト解セサルヘカラス之ヲ要スルニ民法ニ所謂第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ナルモノハ極メテ汎博ナル觀念ニシテ當該第三者カ有スル財產狀態ヲ前提トシテ債務者ヨリ爲スヘキ給付ノ時期内容其他ヲ決定スル契約ヲモ當然包含シ從テ第三者カ被ムルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ目的トスル契約ノ如キハ其一種ニ屬スルモノト解スヘキナリ蓋シ保險契約ハ他人ノ有スル被保險利益ヲ目的トナスヘカラス

トノ原則ハ前ニ述ヘタルヘルビ氏ノ所説ノ如ク全ク存在スルモノニアラサルナリ

斯ノ如ク解釋シ來レハ商法第四百一條及ヒ第四百二條ノ規定ハ容易ニ之ヲ解説スルコトヲ得ヘシ即チ商法第四百一條ハ一方ニハ保險契約ノ性質上ヨリ他人ノ爲メニモ之ヲ取結フコトヲ妨ケサル旨ヲ規定スルト同時ニ他方ニハ保險者ヨリ第三者ニ給付ヲ約スル保險契約ハ民法第五百三十七條ノ例外ヲ成スモノニシテ契約取結ト同時ニ當該第三者(被保險者)ニ權利ヲ發生スル旨ヲモ規定スルモノナリ(第四百一條ノ規定ト第四百二條後段ノ規定トヲ綜合シテ考フレハ第三者カ利益享受ノ意思表示ヲ爲スヲ要セスシテ權利ヲ得ルコト明カナリ)但民法第五百三十七條乃至第五百三十九條ハ此契約上諾約者ノ負擔スヘキ義務ニ付テハ何等規定スル所ナキカ故ニ當然保險契約者ハ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フト規定シ以テ保險者ハ損害ノ生シタル場合ニハ之ヲ填補シ損害ヲ生セスシテ契約期間ヲ經過スル場合ニハ被保險者ノ何人ナリシヤヲ知ルコト能ハス結局保險料ノ支拂ヲ受クルコト能ハスシテ已ムコトアルニ備ヘタリ

次ニ商法第四百二條ハ前條ノ特例ヲ示シタルモノニシテ即チ委任ナクシテ他人ノ爲メニ取結ヒタル契約ニ付キ設ケタル規定ナリ此場合ニハ保險契約者カ委任ノ存セサルコトヲ保險者ニ告ゲタルトキハ其契約ヲ有効トスルモ若シ之ヲ告ケサルトキハ之ヲ無効トス而シテ之ヲ告ゲタルトキハ被保險者ハ直チニ其契約上ノ利益ヲ享受シ諾約者ヨリ給付ヲ受クル權利ヲ取得スルモノトス而シテ此告知ハ或ハ被保險者ノ氏名ヲ指定シテ之ヲ爲シ或ハ單ニ被保險利益ヲ有スル者ノ爲メニスル旨ヲ掲クルニ止マルコトアリ蓋シ此條文ノ設ケラレタル理由ハ他ニアラス商法第二百六十六條ニ依レハ一方ニ於テハ商行為ノ代理人ハ本人ノ爲メニスルコトヲ示サ、ルトキト雖モ其行為ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス故ニ縱令同條但書ノ規定アリト雖モ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシコトヲ證明スルニアラサレハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス從テ第四百一條後段ノ規定ヲ存スルモ保險者ハ保險契約者ヨリ保險料ノ支拂ヲ受クルコト能ハサル場合ナキニアラサルヘシ故ニ代理權授與ノ有無ヲ知ルコト必要ニシテ其授與ニ伴フ行為タル委任ノ存否ヲ告知セシメテ以テ之ヲ確カムルコトヲ期シタ

ルナリ又他方ニ於テハ商法第二百六十七條ニ依レハ商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ同第二百六十六條ト相俟テ被保險者ノ誰タルコトヲ告ケス隨意ニ契約ヲ取結フモ其契約ハ被保險者並ニ保險者ニ對シ有效トナルヘク而シテ保險者ハ何等之ヲ識別スルニ途ナカルヘシ故ニ保險契約ノ確實ヲ保チ被保險利益ヲ有スル者ニ結局損害填補ノ歸著スヘキコトヲ期シ以テ斯ノ如キ規定ヲ設ケタル所以ナリトス

被保險者

第三款 被保險者

被保險者トハ保險契約ニ因リ保險者ニ對シ獨立且固有ノ權利ヲ取得スル者ニシテ換言スレハ損害ノ生スル客體タルヘキ財産上ノ利益(積極的又ハ消極的)ヲ有シ危險ノ實現スルトキハ其利害關係ノ存在シタリシ事實ニ基キ保險者ヨリ損害ノ填補ヲ受クヘキ者ナリ而シテ被保險者ハ契約ノ取結ニ與カルコトアリ與カラサルコトアリ若シ契約取結ニ與カル場合ニハ代理人ヲ用キルコトアリ又用キサルコトアリ其取結ニ與カラサル場合ニシテ代理人ヲ用キサルトキニハ必ス保險契約者ナルモノアリテ其契約ノ取結ニ與カルモノトス

被保險者ニハ單獨的被保險者、共同的被保險者及ヒ競合的被保險者ノ三種アリ單獨的被保險者ハ普通ニ存スルモノニシテ例ヘハ甲者カ其所有スル家屋ヲ火災保險ニ付シ若クハ乙者カ其所有スル船舶ヲ海上保險ニ付スルカ如シ共同的被保險者トハ例ヘハ甲乙丙ノ共有スル家屋ヲ三人共同ニテ火災保險ニ付スルカ如キ若クハ甲乙丙ノ共有スル船舶ヲ共同ニテ海上保險ニ付スルカ如シ競合的被保險者トハ甲ノ所有スル家屋若クハ船舶ノ上ニ乙カ抵當權ヲ有スル場合ニ乙カ其家屋ヲ火災保險ニ付シ若クハ其船舶ヲ海上保險ニ付シタリトスレハ乙ハ保險契約上甲ト競合シテ損害填補ノ權利ヲ有スルカ如シ

被保險利益

第二節 被保險利益

被保險利益トハ契約取結ノ時被保險者ニ現存スル財産上ノ利害關係ヲ利益積極的若クハ消極的ノ方面ヨリ觀察シタルモノニシテ特定ノ事實(危險トシテ特定セラレタル事故)ノ生スルトキハ之ニ因リテ其利益ニ影響ヲ及ホシ從テ被保險者ニ財産上ノ損害ヲ來スヘキ關係ヲ謂フ此被保險利益ハ即チ學者ノ稱シテ保險契約ノ目的ト謂フモノニ外ナラス

保險法

保險契約法論

損害保險契約

損害保險契約ノ意義

被保險利益

被保險利益ハ種々ノ態様ヲ有ス即チ所有者カ其所有物上ニ有スル被保險利益ハ所有權ノ態様ヲ具ヘ抵當權者ノ被保險利益ハ抵當權ノ態様ヲ具ヘ有價證券ノ所持人ノ被保險利益ハ有價證券面ニ表彰セラレタル權利ノ態様ヲ具ヘ貸主ノ貸金ニ付キ有スル被保險利益ハ貸借又ハ消費貸借上ノ債權ノ態様ヲ具フ然レトモ被保險利益ハ財産上ノ利益ニ限ルヲ以テ財産權以外ニハ權利トシテノ態様ヲ具フルコトナシ但權利以外ノ利益ト雖モ亦被保險利益タルヲ得ルモノニシテ例ヘハ雇主ノ負擔スル責任ノ如キ運送營業者カ荷物滅失ノ場合ニ賠償ヲ爲スヘキ責任ノ如キ是ナリ而シテ或學者ハ利益ノ觀念ヲ非常ニ擴張シテ希望上ノ利益(想像上ノ利得)ナルモノヲモ其中ニ包含セシメ被保險利益ハ現實ノ利益ニ限ラスト論スルモ是レ畢竟被保險利益ト被保險利益ニ對シテ危險カ實現シ之ヨリ生スル結果即チ損害ナルモノ、範圍トヲ判然區別セサル誤謬ノ見解ニ過キサレモノトスル財產權ノ態様ヲ有スル被保險利益中ニモ種々ノ變態アリ例ヘハ信用保險ノ如キ又保險者ノ支拂能力ノ保險ノ如キハ何レモ債權ノ辨濟ヲ完全ナラシメンカ爲メノ保險ニシテ此場合ノ被保險利益ハ債權ノ態様ヲ成スモノナリ又抵當保險、抵當

物強制競賣保險、擔保物價格保險等ノ如キハ債權ノ擔保ヲ成ス物權ヲ以テ被保險利益トナスモノナリ又所謂責任保險ナルモノニアリテハ消極的ノ利益ヲ以テ被保險利益トナスモノニシテ換言スレハ責任事項ノ實現スル場合ニハ賠償義務ヲ生スルモノナルヲ以テ其實現前ハ責任者カ消極的ノ利益ヲ有ストノ觀念ニ基ク保險ニ外ナラス

被保險利益ハ之ヲ其客體ト區別スルコトヲ要ス即チ所有者カ被保險者トシテ有スル被保險利益ハ所有權ノ態様ヲ具備シ其所有物上ニ存スル財産上ノ利益ニ外ナラス故ニ其物ハ被保險利益ノ客體ヲ成スモノニシテ被保險利益其レ自身ニハアラス亦被保險利益ノ態様カ物タルニモアラサルナリ從テ其物上ニ存スル所有權以外ノ權利モ亦全ク之ト獨立シテ別種ノ被保險利益ノ態様ヲ成スモノニシテ其物ニ關シテ存スル債權等モ亦別種ノ被保險利益ノ態様ヲ成スヤ勿論ナリ例ヘハ同一家屋ノ上ニ存スル所有權ト抵當權若クハ不動産質權トハ箇々ニ被保險利益ノ態様ヲ成シ得ルカ如シ故ニエーレンベルヒ氏ハ物保險(財產保險)ニ在テハ保險ノ

目的ノ價格ノ標準ハ物ノ價額ニアラスシテ物上ニ存スル利益ノ價額ナリト言ヘ
 リ
 保險契約上被保險利益ノ價額ヲ保險價額ト稱ス抑モ價額ヲ定ムルニ付キテハ二
 箇ノ主義アリ即チ其一ハ當事者ノ一方又ハ雙方カ其心意ノミヲ標準トシテ價額
 ヲ定ムル場合ニシテ之ヲ主觀的價額ト稱シ其二ハ世間一般ニ自ラ定マレル價額
 アルカ又ハ取引所ノ公定相場若クハ平均相場等ノ如キモノヲ標準トシテ價額ヲ
 定ムル場合ニシテ之ヲ客觀的價額ト稱ス而シテ保險契約ノ當事者間ニ被保險利
 益ノ價額ニ付キ特ニ約定アリタルトキハ所謂主觀的價額ニ從ヒタルモノニシテ
 商法第三百九十四條及ヒ第四百三條第三項第三號ニ保險價額ヲ定メタルトキハ
 其價額トアルハ之ヲ指示スルニ外ナラサルナリ之ニ反シテ被保險利益ノ價額ニ
 付キ特ニ約定スル所ナキトキハ所謂客觀的價額ニ從ヒテ保險價額ヲ定ムヘキモ
 ノトス但保險者ト被保險者トノ間ニハ利害ヲ異ニスル所アルヲ以テ保險契約者
 若クハ被保險者ノ提議ニ基キ客觀的價額ニ超過スル約定ヲ爲ス場合多カルヘシ
 故ニ特種ノ保險ニ付キテハ公安ヲ維持スル點ヨリ行政上之ヲ監督スル例ナキニ

アラス例ヘハ獨逸ニ於テハ火災保險契約ノ取結ニ際シテ必ス之ヲ管轄警察署ニ
 届出テ其許可ヲ要スルカ如シ然レトモ我國ニ於テハ斯ノ如キ制度ヲ有セスシテ
 之ヲ保險者ノ自衛ニ一任ス從テ後日ニ至リテ損害ヲ填補スルニ際シ保險者ヨリ
 嘗テ約定シタル保險金額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニアラサレハ其填補
 額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(商法三九四參照)
 保險價額ハ之ヲ保險金額ト區別セサルヘカラス何トナレハ保險價額ハ被保險利
 益ノ價額ノ標準タルニ反シ保險金額ナルモノハ保險者ノ約スル填補額ノ標準ヲ
 定ムルモノナレハナリ左ニ同一ノ被保險利益ニ付キ唯一ノ保險契約アル場合ト
 數多ノ保險契約アル場合トヲ區別シテ保險金額ト保險價額トノ關係ヲ示スト同
 時ニ此等ノ場合ニ於ケル法律關係ヲ詳カニ説明スヘシ
 (甲) 同一ノ被保險利益ニ付キ唯一ノ保險契約アル場合
 (イ) 保險金額カ保險價額ニ超過スル場合

此場合ニハ保險金額カ被保險利益ノ價額即チ保險價額ニ超過スル部分ニ限
 リテ契約ノ效力ヲ生セサルモノニシテ契約カ全然無効ナルニアラス例ヘハ

百圓ノ價額アル所有物ヲ保險金額百五十圓トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其超過部分五十圓ニ付キ契約ノ效力ヲ生セス結局百圓ノ保險契約トナルカ如キ是ナリ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テ其物カ當該危險ノ實現ニ因リ全滅シタルトキハ保險者ヨリ被保險者ニ百圓ヲ填補スレハ足レリ此場合ハ學者ノ所謂超過保險ナリトス(商法三)

(ロ) 保險金額ト保險價額トカ同一ナル場合

此場合ニハ保險金額ノ全部ニ付キ契約ノ效力ヲ生スルモノニシテ保險者ハ被保險利益ニ付キ全部ノ危險ヲ負擔シ當該危險カ實現シタルトキハ保險者ハ被保險利益ノ滅失シタル部分ノ價額ヲ全然被保險者ニ填補セサルヘカラス此場合ハ學者ノ所謂全部保險(全額保險)ナリトス(商法三)

(ハ) 保險金額カ保險價額ニ及ハサル場合

此場合ニモ亦保險金額ノ全部ニ付キ契約ノ效力ヲ生スルモノニシテ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ保險者ノ負擔ヲ定ム例ヘハ百五十圓ノ價額アル所有物ヲ保險金額百圓トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ百五十圓ニ

對スル百圓ノ割合即チ三ニ對スル二ノ割合ヲ以テ保險者ハ填補ノ義務ヲ負擔スルカ如シ此場合ハ學者ノ所謂一部保險(不足保險)ナリトス(商法三)

(乙) 同一ノ被保險利益ニ付キ數多ノ保險契約アル場合

此場合ハ左ノ二箇ノ場合ニ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ而シテ各契約ニ付キ保險價額ヲ特約セサルトキハ契約取結當時ノ客觀的價額ニ從ヒテ各契約カ超過保險若クハ不足保險ノ何レニ屬スルヤヲ決定シ總契約ニ通シテ按分比例ヲ以テ計算スル場合ニハ損害發生當時ノ客觀的價額トス又各契約ニ付キ保險價額ヲ特約シ而シテ其價額カ各契約ニ付キ異ナルトキハ各契約ニ於ケル保險者ノ填補額ヲ算定セントスル場合ノ標準タル保險價額ハ勿論約定セル保險價額ニシテ之ヲ總契約ニ通シテ按分比例ヲ以テ計算スル場合ニハ是レ亦勿論損害發生當時ノ客觀的價額トス

(イ) 同時ニ數箇ノ契約ヲ爲ス場合
數箇ノ保險契約カ同一ノ日附ヲ有スルトキハ同時ニ爲サレタルモノト推定セラル(商法三)

(a) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ超過スル場合

此場合ニハ各保險者ハ各自ノ保險價額ト保險金額トノ割合ニ應シテ其負擔額ヲ決定スルヲ以テ原則トナス若シ各自ノ約定セル保險價額カ同一ナラサルトキハ箇々ノ契約ニ付キ保險金額對保險價額ノ分數ヲ取り之ヲ合計シテ其分子カ分母ニ超過スルトキニ結局保險金額ノ總額カ保險價額ニ超過スル場合ヲ存スルモノニシテ此場合ニハ損害發生當時ノ客觀的保險價額ト各分數ノ比トヲ對照シテ各自ノ負擔額ヲ決定スヘキモノトス略言スレハ各契約ヲ表示スル分數ノ割合ニ依リテ負擔額ヲ決定スヘキナリ學者之ヲ稱シテ重複保險ノ場合ト云フ(八七法三)

(b) 保險金額ノ總額カ保險價額ト同額ナル場合

此場合ハ之ヲ箇々ノ契約ニ付キテ觀察スレハ一部保險即チ不足保險ニシテ之ヲ總テノ契約ヨリ觀察スレハ全部保險(即チ全額保險)ニ外ナラス而シテ各保險者ノ負擔額ヲ計算スルニハ各自(甲)ノ(ハ)ニ於ケル一部保險ノ算用ニ依ルヲ以テ原則トナシ若シ各自ノ約シタル保險價額カ同一ナラサルト

キハ箇々ノ契約ニ付テハ契約取結當時ノ客觀的保險價額ヲ標準トシ各自保險金額對保險價額ノ分數ヲ取り之ヲ合算シテ一トナルトキニ本項ノ場合ヲ存スルモノナルヲ以テ各分數ノ割合ニ依リテ損害發生當時ノ客觀的保險價額ヲ標準トシ各不足保險算定法ヲ用キテ負擔額ヲ定メサルヘカラス學者ハ之ヲ同額保險(全部保險)ノ場合ト云フ

(c) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ及ハサル場合

保險者ハ各自其保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ損害ヲ負擔スヘキハ(甲)ノ(ハ)ノ場合ト異ナル所ナシ(九一法三)但各自ノ約定シタル保險價額カ同一ナラサルトキハ(乙)ノ(イ)ノ(b)ト同シク各自保險金額對保險價額ノ分數ヲ取り分子カ分母ヨリ少ナキ場合ニ本項ノ場合ヲ生スルモノニシテ各自負擔額ノ算出ハ同上ノ分數ノ比ト損害發生當時ノ客觀的保險價額トヲ標準トシテ定ムヘク一部保險即チ不足保險ノ場合ノ計算ト略ホ同様ナリトス

(ロ) 相次テ數箇ノ契約ヲ爲ス場合

保險法 保險契約法論 損害保險契約 損害保險契約ノ意義 被保險利益

(a) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ超過スル場合

此場合ハ契約取結當時ノ順序ニ依リ前保險者ノ約定セル保險金額カ其保險價額ニ超過シタルトキハ其超過部分ハ無効トナリ且後ニ取結セタル保險契約ハ悉ク其效力ヲ失フヲ以テ原則トナス(商法三八九三)又第一ノ契約ニ在テ保險金額カ其保險價額ト同額ナル場合ニハ其保險金額全部ニ付キ效力ヲ生シ其以後ニ取結ヒタル保險契約ハ悉ク其效力ヲ失フヲ以テ原則トナス(商法三八九三)然ルニ以上二箇ノ場合ニ反シ第一ノ契約ニ在テ保險金額カ其保險價額ニ達セサルトキハ其保險金額全部ニ付キ效力ヲ生スルニ止マラス尙ホ其殘額ニ付キ以後ノ保險契約ニ對シテモ效力ヲ生ス而シテ各自ノ約定シタル保險價額カ同一ナラサルトキト雖モ先ツ第一ノ保險者ニ對シ其約定セル保險金額ト保險價額トノ割合ニ付キ不足保險ノ效力ヲ生シ後ノ保險者ハ其約定セル保險價額ト保險金額トノ割合ヲ以テ被保險利益中ノ殘餘部分ニ付キ其負擔額ヲ決定セラル而シテ尙ホ餘アレハ同一ノ方法ヲ以テ後ノ

保險者ニ及ヒ終ニ最終ノ保險者カ被保險利益ノ殘餘部分ト同一ノ負擔額

其場合ヲ有スルカ又ハ殘餘部分ニ超過セル割合ヲ有スルニ因リ其超過部分ニ付

キ效力ヲ失フニ至リテ止ムヲ以テ原則トス(商法三八九三)

(b) 保險金額ノ總額ト保險價額ト同額ナル場合

此場合ハ各自ノ保險價額カ同一ナルトキハ各自一部保險ノ算法ニ依リテ負擔額ヲ定メ又各自ノ約定セル保險價額カ同一ナラサルトキハ第一ノ保險者ハ其約定セル保險金額ト保險價額トノ割合ヲ以テ不足保險トシテ負擔額ヲ決定セラレ被保險利益ノ殘餘額ニ付キテ後ノ保險者ニ及フヘキコト前ノ場合ト異ナルコトナシ(商法三九一)

(c) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ及ハサル場合

此場合ハ各保險者ハ各自一部保險トシテ負擔額ヲ決定セラル、コト前ノ場合ト異ナルコトナシ(商法三九一)

保險金額ハ契約ニ依リテ決定セラル、モノナレトモ保險價額ハ之ヲ約定シタル場合ハ勿論之ヲ約定セサル場合ト雖モ事實上ヨリ論スレハ常ニ多少高低ヲ免カ

レサルモノトス而シテ其價額カ増加シタル場合ハ保險ノ效果ハ依然トシテ保險金額ニ止マルト雖モ之ニ反シテ其價額カ減少シタル場合ニハ純理上ヨリ論スレハ保險金額ヨリ其減少部分ヲ引去リテ其殘部ニ付キ保險ノ效果ヲ存スルモノト云ハサルヘカラス然レトモ其減少額カ些細ナル場合ニモ此理論ヲ貫カント欲セハ損害ノ生シタル場合ハ勿論其未タ生セサル場合ト雖モ當事者ノ間ニ爭ヲ惹起スルコトナキヲ保セス故ニ前述セシカ如ク保險者ヨリ保險價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニアラサレハ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得スト定メラレタル所以ナリ(商法三九四)然ルニ保險契約者ノ側ヨリ保險價額減少ノ場合ヲ考フレハ當ニ保險者ヲシテ損害填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得セシムルニ止マラス之カ爲メ非常ノ不利益ヲ保險契約者ニ及ホスコト、ナルヘシ何トナレハ保險契約者ノ支拂フヘキ保險料ハ保險價額及ヒ保險金額ニ比例シテ定ムルモノナルヲ以テ損害事故ノ發生ニ因リ受クヘキ填補額ノ減少セラルヘキ場合ニハ保險料モ亦其割合ヲ以テ減少セサルヲ得サレハナリ故ニ商法ハ保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ヨリ保險者ニ對シ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ

請求スルコトヲ得ト規定セリ但後ニ述フルカ如ク保險料期間内ノ保險料ハ不可分ナルヲ以テ固ヨリ既往ニ遡リテ此減額ノ效力ヲ及ホスヘキモノニアラサルノミナラス將來ニ向テモ亦次ノ保險料期間ヨリ減額ノ效力ヲ生スヘキモノト解スルヲ正當トス然レトモ商法第三百九十二條ハ此點ニ於テ多少明瞭ヲ缺クノ嫌アリ解釋上疑義ヲ存ス(商法三九二參照)被保險利益ニ關シテハ種々ノ困難ナル問題ヲ生ス其一ハ保險金額中ニ保險契約取結ノ爲メニ要スル費用ヲモ包含セシムルコトヲ得ルヤ否ヤ換言スレハ保險料仲立手数料等ヲモ合算シテ保險金額ヲ定ムルコトヲ得ヘキヤ否ヤノ問題はナリ今日獨逸ノ保險學者ノ解スル所ニ依レハ保險料其他ノ費用ヲ保險金額ニ合算スルコトヲ得ス何トナレハ若シ之ヲ合算ストセハ損害ノ發生シタルカ爲メ被保險者ハ保險者ヨリ其填補ヲ受ケ却テ從前ノ財產狀態ニ勝リタル狀態ニ立ツ結果ヲ生スレハナリ但保險料其他費用ヲ獨立ノ被保險利益トシテ別箇ノ保險契約ヲ取結フコトヲ妨ケスト論スル學者ナキニアラス

被保險利益ニ關スル第二ノ問題ハ或財產ヲ有スル者カ之ヲ保險ニ付シ然ル後其

財産ヲ他ニ讓渡シタルトキハ被保險者ノ有スル保險契約上ノ法律關係ハ讓受人ニ移轉スヘキヤ否ヤニシテ立法上及ヒ學理上種々ノ議論ヲ惹起シタリ然レトモ我商法ハ法律上ノ推定ヲ以テ此問題ヲ決定シ被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ之ト同時ニ保險契約ニ依リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定セリ(商法四)而シテ此推定ハ被保險者カ保險契約者ヲ兼スル場合タルト否トヲ區別セスト雖モ若シ讓渡ノ當事者又ハ保險契約ノ當事者間ニ反對ノ特約アルトキハ之ヲ生セサルモノトス又保險ノ目的ノ讓渡ハ危險ノ狀態ニ異狀ヲ呈シ危險ノ態樣種類等ヲ變更シ又ハ其程度ヲ増加シタルトキハ保險契約ハ獨リ被保險利益ノ讓受人ニ對シテ效力ヲ失フノミナラス保險契約ノ當事者全體ニ對シテモ其效力ヲ失フヘシ但保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ參酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ此讓渡アリタルニ依リ其特別危險カ消滅ストセハ保險契約ハ固ヨリ效力ヲ有シ保險契約上ノ權利ハ讓渡セラレタルモノト推定セラレ被保險利益ノ讓受人ハ保險者ニ對シ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(商法四)

第三節 危險

財産上ノ利益ヲ減少シ若クハ消滅セシムヘキ事實ハ其自然力ナルト人爲ナルト國法上ノ現象ナルトヲ問ハス之ヲ包括シテ觀察スレハ其數許多ニテ枚舉ニ違アラズ然レトモ被保險者ノ有スル財産上ノ利益即チ被保險利益ヲ減少シ若クハ消滅セシムヘキ事實ヲ保險契約ノ當事者ニ於テ種々ノ方面ヨリ限定シ茲ニ始メテ保險契約上ノ危險ナルモノヲ生ス例ヘハ震災ヨリ生スル火災若クハ自火ヲ除キテ其他一切ノ火災ニ對シ家屋ニ保險ヲ付スルカ如キ、商品カ倉庫内ニ在ル間之ヲ倉庫業者ノ故意若クハ過失ニ基カサル火災ニ對シテ保險ニ付スルカ如キ是ナリ。危險トハ被保險利益ヲ減少シ若クハ滅失セシメントスル假想的ノ事實ニシテ統計上其到來スルコトノ確カラシサヲ計算シ得ヘキモノヲ謂フ蓋シ保險ナルモノハ其經濟上ノ效用ヨリ論スレハ被保險者ノ財産ニ付キ其人ノ意思以外ノ原因ニ因リテ生スル或事實ノ結果タル不利益ヲ保險者ノ財産上ノ負擔ニ移ス目的ヲ有スルモノナルカ故ニ被保險利益ト相對シテ必要ナル觀念ハ危險ノ觀念ニ外ナラス

財産上ノ利益ヲ減少シ若クハ消滅セシムヘキ千百ノ事實ヨリ保險契約上ノ危険タルヘキモノヲ限定シ來ルコトハ一ニ保險契約ノ當事者ノ意思ニ存スト雖モ其意思ヲ決定セシムル原因ニ遡リテ之ヲ探求スレハ種々ノ妙味アル問題ニ逢著スヘシ

第一抑モ吾人カ既往ノ經驗ニ因リ其事實ノ實現スヘキヤ否ヤヲ推測スルハ所謂確カラシサノ計算ニ基クコト疑ナシ即チ明朝太陽ノ東天ニ昇ルコトヲ推測スルハ從來吾人ノ經驗ニ因リ其確カラシサヲ計算シ殆ト百分ノ百ニ近キ確カラシサヲ有スレハナリ之ニ反シテ暑中ニ降雪アルコトヲ推測セサルハ從來ノ經驗ニ因リテ其確カラシサノ百分ノ零ニ近キコトヲ計算シ得タレハナリ要スルニ想像シ得ラルヘキ總テノ事實ハ其現出スル確カラシサカ百分ノ百ヨリ百分ノ零マテノ間ヲ往來スルモノニシテ換言スレハ其實現スルコトノ確定シタルモノト實現セサルコトノ確定シタルモノトノ中間ヲ往來スルモノニ外ナラス然ルニ保險ナルモノハ此確カラシサノ計算ニ基キ保險者ノ給付ト被保險者ノ給付トヲ假想上平均セシムヘキモノナルヲ以テ若シ或事實ノ發生スルコトノ確カラシサカ百分

ノ百ニ近キモノナルトキハ保險金額百圓ニ付キ純保險料百圓ニ近キ割合トナリ之ニ手数料其他ヲ算入スレハ被保險者ハ保險ヲ付シタルカ爲メ却テ損失ヲ招クニ至ルコト當然ナリ之ニ反シテ或事實ノ發生スルコトノ確カラシサカ非常ニ少ナク例ヘハ百分ノ零ニ近キ場合ナリトセハ一方ニハ被保險者ハ保險ノ實益ヲ感セサルヘク他方ニハ保險者モ純保險料ニ比シテ非常ニ多額ノ手数料其他ヲ附加スルコト能ハサルカ爲メ營業ノ不成立ヲ來スヘシ斯ノ如ク考ヘ來ルトキハ確カラシサノ兩極端ニ在ル危険ハ勿論之ニ接近スル確カラシサヲ有スルモノト雖モ保險契約上ノ危険ニ適セサルモノト論結シテ誤ナカルヘシ
危険カ到底實現セサルヘキコト確定シタル場合ハ即チ確カラシサカ一方ノ極端ニ存スル場合ナルヲ以テ之ヲ保險契約上ノ危険ト云フコト能ハス然レトモ此場合ト雖モ之ヲ客觀的ニ考フルト主觀的ニ考フルトニ依リ異ナル所ナキニアラス即チ契約當事者雙方及ヒ被保險者カ何レモ其生セサルヘキコトヲ知ルトキハ保險契約ノ成立セサルヘキコトハ勿論ナレトモ之ニ反シテ契約當事者雙方及ヒ被保險者カ何レモ之ヲ知ラサルトキハ其契約ヲ有效トスルモ保險業ノ基礎ヲ害ス

ルコトナク又公安ヲ害スルコトナシ又此三人者中ノ一人若クハ二人カ之ヲ知ル
 場合ハ客觀主義ニ重キヲ置キテ契約ヲ無効トスヘキハ勿論ナリ但契約當時トハ
 申込ヨリ契約ノ成立マテノ期間ヲ指稱ス(商法三九七)
 危険カ既ニ實現シタルコト確實ナル場合ニ付テモ上述ノ説明ヲ應用スルコトヲ
 得ヘキモノトス
 第二 事實ノ性質上財産ニ被ムラシムル損害ノ程度極メテ低キニ拘ハラズ絶エ
 ス殆ト同一ノ割合ヲ以テ發生シ長年月ノ終リニハ蓄積シテ著シキ損害トナルモ
 ノアリ財産上ノ自然ノ消耗ト名クルモノ即チ是ナリ此種類ノ危険ハ確カラシサ
 ノ程度ヨリ論スレハ殆ト百分ノ百ニ近キヲ通例トシ特ニ保險ニ依ラズト雖モ貯
 金其他ノ方法ニ依リ十分ニ填補ノ目的ヲ達シ得ヘキモノナレハ之ヲ保險契約上
 ノ危険トシテ取扱フ者ナシ
 第三 事實ノ性質上其發生ハ頻繁ナラズト雖モ一度發生スルトキハ世上一般ノ
 財産ニ被ムラシムル損害ノ程度時間地域若クハ金額ニ付キ非常ニ大ナルトキハ
 之ヲ危険トシテ保險營業ヲ營ム者ノ輩出セサルコト勿論ナリ何トナレハ其事業

ノ規模及ヒ資本ハ能ク營利會社ノ堪フル所ニアラサレハナリ即チ戰爭若クハ地
 震ニ關スル保險ノ如キ其適例ニシテ同盟罷工ノ保險ノ如キモ稀ニ見ル所以亦此
 理由ニ出ツルナリ
 第四 其事實カ保險契約當事者ノ意思ニ因リ發生スルコトヲ得ルモノナルトキ
 ハ利害ヲ異ニスル雙方ノ意思ヲ確カラシサ的ニ測定スルモ一方ノ惡意又ハ重大
 ナル過失ニ因リ其計算ニ相違ヲ來スコト、ナリ從テ雙方ノ給付ヲ假想的ニ平均
 セシムルコト到底不能ナリ故ニ此種類ノ事實モ亦保險契約上ノ危険トナスコト
 ヲ得ス

第五 事實ノ發生ハ財産上ノ損害ヲ生セシムヘキモノナルモ若シ事實其レ自身
 若クハ損害カ刑罰法上ノ制裁ナル場合ニハ之ヲ危険トシテ保險契約ヲ取結ヒ之
 ニ由リ財産上ノ損害ヲ填補スルニ於テハ犯罪ヲ養成スルノ原因トナルヲ以テ此
 種類ノ事實モ亦保險契約上ノ危険タルコトヲ得ス
 以上五箇ノ制限ハ保險契約上ノ危険ノ何タルヤヲ決定スルノ材料トシテ何レモ
 必要ナリ而シテ商法ハ第三百八十四條ノ規定ヲ以テ保險契約上ノ危険ヲ言明シ

偶然ナル一定ノ事故ト云ヘリ其意ハ事實ノ發生カ將來ニ在ルコト其發生ノ時期カ確定セサルコト及ヒ事故其者ハ契約上一定セラル、コトノ三者ニ外ナラス
 危険ハ假想ナリ將來ニ於テ實現スルニ依リテ損害トナルナリ故ニ危険ナルモノハ損害事故ヲ其發生以前ノ確カラシサヨリ觀察シタルモノニシテ損害ハ危険ノ實現カ被保險利益ニ及ホス效果ナリ故ニ危険ト損害トハ全ク異ナリタル觀念ナルノミナラス危険ト損害事故トモ判然區別スヘキ觀念ナリ
 危険ノ確カラシサハ保險者カ對比觀察上測定シ得タルモノナルヲ以テ各被保險利益ノ態様及ヒ客體ノ異ナルニ從ヒ各等差アルコトヲ免カレス而シテ其等差ハ保險契約者及ヒ被保險者ノ知ル所ヲ離レテ保險者ノ側ニ於テ之ヲ探知スルコト頗ル困難ニシテ營業上殆ト不能ニ屬ス故ニ一方ニ於テハ契約取結ノ際保險契約者ヨリ其危険ノ確カラシサヲ上下スヘキ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ヲ無効トナシ(九商法三)他方ニ於テハ保險期間中危険カ著シク變更又ハ増加シタル場合ニ限り或ハ保險契約ノ效力ヲ失ハシメ或ハ之ヲ解除スルコトヲ得セシム(一商法四)

保險契約上重要ナル觀念ハ被保險利益及ヒ危険ナルコト前述セルカ如シ而シテ被保險利益ハ現實ノモノニシテ確カラシサ的ノモノニアラス且其價額ノ増減アルニモ拘ハラズ損害ノ填補ハ其損害ノ生シタルトキノ價額ヲ參考トシテ決定スヘキモノナルヲ以テ保險契約者及ヒ被保險者ヨリ保險者ニ對シ價額ノ變動ヲ通知スルノ必要ナシ之ニ反シテ危険ナルモノハ假想的ニシテ契約ノ當時確カラシサヲ計算スルモノナレハ其確カラシサニ影響スヘキ事實ハ契約取結ノ際ハ勿論契約ノ效力ノ存續スル間及ヒ危険ノ實現セントスル際ニ何レモ重大ノ關係ヲ有スルカ故ニ總テ保險契約者及ヒ被保險者ヨリ此等ノ事實ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス此義務ヲ稱シテ告知義務又ハ開陳責任ト云フ但契約取結ノ際及ヒ契約期間中ノ告知義務ハ危険ノ確カラシサニ影響ヲ及ホスヘキ事實ヲ陳述スル義務ナレトモ危険ノ實現シタル場合ノ告知義務ハ危険カ確カラシサ的ヨリ現實的ノ狀況ニ移リタル事實ヲ陳述スル義務ナリ故ニ其間ニ性質上ノ差異ナキヲ得ス余輩ハ本節ニ於テ第一及ヒ第二ノ告知義務ヲ説明シ第五節ニ於テ損害填補ノ説明ニ伴ヒテ第三ノ告知義務ヲ説明スヘシ

告知義務ノ法律上ノ基礎ニ付テハ數多ノ學說アリテ或ハ意思合致ノ要件トスルモノアリ或ハ射倖契約ノ特性トナスモノアリ或ハ保險契約ノ最大善意ヲ要スルヨリ出ツルトナスモノアリ或ハ警察ノ目的ニ出ツルモノトナスモノアリ或ハ雙務契約ノ多數ニ付テ見ル所ノ通知義務ノ一種トナスモノアリ或ハ保險契約ノ技術的必要ヨリ出ツル義務トナスモノアリ余ハ主トシテ最後ノ說ヲ採用スルモノナレトモ第四ノ公益說第五ノ雙務契約說ハ全然排斥スヘキ學說ニアラスト信ス左ニ項ヲ分チテ契約取結ノ際及ヒ契約期間内ノ告知義務ニ付テ述フル所アラントス

第一 契約取結ノ際ニ於ケル告知義務

前述セシ如ク保險者カ確カラシサノ計算ニ依リ測定スル危險ハ特定ノ財産ヲ目的トスルモノニアラスシテ單ニ財産ノ各種類ニ付キ共通ノ危險程度ニ外ナラス故ニ之ヲ特定ノ被保險利益ニ適用スルニ當リテハ之ニ特別ナル種々ノ事實ヲ調査シ以テ保險者ト保險契約者ト相互ノ給付ノ割合ヲ平均セシメサルヘカラス是ニ於テ契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任ノ問題ヲ生ス

保險契約者カ保險契約取結ノ際告知スヘキ事實(危險ニ及ホスヘキ事實)ノ範圍ニ付テハ種々ノ學說アリ即チ或ハ危險ヲ判斷スルニ重要ニシテ且必要ナル材料タルヘキ總テノ事實ハ完全且眞實ニ表示セラルヘキモノナリト論スル者アリ或ハ保險契約者ニ知レタル重要ナル事實ニ限り正當ニ之ヲ表示スレハ足ルモノナリト論スル者アリ或ハ陳述ノ不實ナルコトニ加フルニ保險契約者ノ歸責事由アルコトヲ要ストナス學者アリ或ハ陳述ト不陳述トノ差異ヲ認め不實ノ陳述ト事實ノ沈黙トヲ分チ不實ノ陳述ニ付テハ別ニ異論ナキモ事實ノ沈黙ニ付テハ故意ノ沈黙ノミヲ以テ告知義務違背トナスモノアリ又ハ前者ト同シク陳述ト不陳述トノ差異ヲ認め不實ノ表示ト事實ノ沈黙トヲ分ツト雖モ歸責事由ニ因リ知ラサリシ事實ヲ告ケサリシ場合ニモ故意ノ沈黙ト同シク告知義務違背ナリト論スル者アリ然レトモ我商法ハ近世ノ保險法理トシテ最モ發達シタル主義ヲ採用シ第三百九十八條ヲ設ケ保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ告知義務ノ違背ナリト看做シタリ但保險者カ其事實ヲ知り又ハ知ルコ

トヲ得ヘカリシトキハ危険ノ測定上契約當事者雙方ノ給付ヲ平均セシムル上ニ付キ不平均ヲ來ス恐レナキヲ以テ前述ノ原則ニ例外ヲ成スモノト定メタリ

第二 保險期間中ニ爲スヘキ告知義務

保險期間中危険ノ程度ハ常ニ多少ノ變化アルヲ免カレス而シテ其變化カ危険ノ性質ヲ一變シ若クハ其程度ヲ増加シ而モ其變更若クハ増加カ著シキ程度ニ在リ且保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ基クトキハ保險者ヨリ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘク(商法四一)若シ又變更又ハ増加カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ基クトスレハ保險契約ハ其效力ヲ失フヘキモノトス(商法四〇)何トナレハ契約ノ當事者ニ於テ危険ノ變更又ハ増加ヲ豫想シテ悉ク之ヲ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危険中ニ包含セシムル場合ヲ除キ其他ノ場合ニアリテハ其契約上ノ標準タル危険ノ程度ハ契約取結ノ當時ノ程度ニ外ナラス換言スレハ保險者ニ於テ一般ノ場合ヨリ測定シタル程度ニ保險契約者ヨリ開陳シタル種々ノ事實ヲ加ヘタル危険ノ程度ニ外ナラス從テ若シ此程度ヲ著シク變化セシムヘキ事實ヲ生シ而モ其變化カ危険ヲ負擔スル者即チ保

險者ノ不利益トナル場合ニハ契約ヲ繼續スヘキ理由乏シケレハナリ斯ノ如ク或ハ契約ノ效力ヲ失ハシメ又ハ保險者ニ解除權ヲ與フルカ如キ事實ハ保險契約者若クハ被保險者ヨリ遲滯ナク之ヲ通知セシムル必要アリ之ヲ保險期間中ノ告知義務ト稱ス若シ此義務ニ違背スル者アルトキハ保險者ハ危険ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ契約ノ效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得ヘク若シ保險者カ通知ヲ受ケ又ハ通知ヲ受ケサルモ危険ノ變更又ハ増加ヲ知リタル後遲滯ナク契約解除ヲ爲サ、ルトキハ解除權ヲ拋棄シタルモノト看做サルヘシ(商法四一)契約取結ノ際ニ於ケル告知義務ハ契約ノ義務者タル保險契約者タルヘキ者ニ存スルコト固ヨリナリト雖モ保險期間中ニ於ケル告知義務ハ契約者及ヒ被保險者ノ二人ニ存ス何トナレハ契約ノ相手方タル保險契約者ニ此義務ノ存スルコトハ説明ヲ要セサレトモ既ニ契約上ノ利益ヲ受ケ填補ヲ受クル權利ヲ有スル被保險者ハ其被保險利益ニ及ホス危険ノ状態ヲ最モ能ク知レル場合多ケレハナリ

告知義務ハ危険ノ變更又ハ増加ノ場合ニ限ル然ルニ危険カ減少シタルトキハ

如何例へハ海上保險ニ於テ危險ノ多大ナル航路ヲ探ルコトヲ止メ比較的安全ナル航路ニ移リタル場合又ハ家畜保險ニ於テ特殊ノ疾病ヲ免疫セシムル方法ノ發明セラレタルカ爲メ危險ノ減少シタル場合ノ如シ此等ノ場合ニハ固ヨリ保險契約者又ハ被保險者ニ何等ノ義務ヲ存セス又契約ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホサスト雖モ若シ契約當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ヲ定メタル場合換言スレハ特殊ノ危險ヲ指定シテ當該被保險利益ヲ可分トナシタル場合ニアリテハ其減少シタル危險ニ對スル特別保險料ハ保險契約者ヨリ將來ニ向テ減額セラルヘキコトヲ請求スルコトヲ得ヘシ(商法四〇〇)

保險料

第四節 保險料

保險者カ損害填補義務ヲ負擔スル對價トシテ受取ル金額ヲ保險料ト云フ蓋シ保險料ナル語ニハ廣狹二義アリ廣義ニ於テハ營利保險及ヒ相互保險ニ於ケル危險負擔ノ對價ヲ指シ狹義ニ於テハ營利保險ニ於ケル危險負擔ノ對價ヲ稱ス而シテ歐洲ニ於ケル普通ノ用例ニ於テハ狹義ニ從フ故ニ營利保險ヲ一名保險料保險ト云フ然ルニ我保險業法ハ廣義ノ用例ヲ採用セリ(保險業法三七以下參照)

保險料ハ被保險利益ノ價格ト契約上ノ危險ノ程度、保險者ノ受クヘキ手数料及ヒ利益等ヲ決定スレハ之ヲ算出スルコトヲ得ヘシ例へハ一萬圓ノ保險價格ヲ有スル家屋ニ火災保險ヲ付シタリトシ其家屋ノ危險カ一个年千分ノ一ノ確カラシサヲ有スト假定セハ保險者ヨリ請求セサルヘカラサル最低額ハ一个年十圓ナリ之ヲ純保險料ト名ケ之ニ手数料利益等合計二圓五十錢ヲ算入シ十二圓五十錢ヲ營利保險料ト名ケ蓋シ手数料利益等ノ二圓五十錢ハ特ニ附加保險料ノ名稱アリ斯ノ如ク理論上ハ各種ノ保險ニ付キ保險料ヲ算出スルコト容易ナレトモ之ヲ實際ニ徵スレハ頗ル困難ナル問題ニシテ實際家ハ常ニ自己ノ自由意思ニ基キ營業ノ競争上任意ニ之ヲ定ムト云フ從テ今日ノ法理トシテハ保險料ハ契約當事者ノ間ニ約定シタル危險負擔ノ對價ナリト説明スルノ外途ナシトス

理論上保險料計算ノ基礎タル三要件ヨリ保險料ノ不可分ナル性質ヲ探究スヘシ

第一 保險料ハ危險ノ負擔ヨリ生ス

然ルニ今日ノ危險ヲ限定スルノ方法ハ極メテ不完全ニシテ箇々ノ原因ニ遡リテ之カ確カラシサヲ測定スルニ至ラス故ニ火災保險ニアリテハ或家屋カ總テ

ノ原因ヨリ被ムルヘキ火災ヲ標準トシ其原因中特ニ保險者ノ負擔シ難キ危險ヲ除外セリ例ヘハ地震雷火若クハ自火等ノ如シ運送保險ニ付キテモ略ホ之ニ類ス從テ箇々ノ原因ニ比例シテ保險料ヲ分割スルコト能ハサルハ勿論ナリ又今日ノ統計ノ發達ノ程度ニ於テハ多クノ危險ハ一个年ヲ期間トシテ測定セラレ、カ故ニ一个年内ノ或時期ニ於ケル危險ハ精密ニ之ヲ計算スルノ方法ナシ例ヘハ火災統計ノ如シ又海上保險若クハ陸上運送保險ニ於ケル危險ノ如キモ一航海若クハ内國ニ於ケル運送物ノ一年内ニ被ムルヘキ損害若クハ一路程内ニ於ケル運送物ノ危險ヲ測定シタルニ過キサレヲ以テ一定ノ短時期ニ於ケル危險ノ程度ヲ測定スルノ途ナシ斯ノ如キ状態ナルヲ以テ保險料ハ多クハ一个年内不可分ニシテ少ナクトモ一航海若クハ一路程ノ範圍内ニ於テハ不可分ナリ

第二 保險料ハ被保險利益ノ價格ニ比例スルヲ以テ原則トナス

然レトモ被保險利益ノ客體自身カ或ハ其性質ニ因リ或ハ當事者ノ意思ニ因リ不可分ナル場合ナキニアラス此場合ニハ之ニ及ホス危險モ當然不可分ト爲リ

其結果保險料ノ不可分ヲ來スコト、ナル

第三 純保險料ニ附加スヘキ附加保險料ハ必スシモ危險ノ程度ノ増加被保險利益ノ價格ノ増加ニ比例シテ増加スルモノニアラス

從テ營業保險料ノ性質ニ不可分性ヲ加フルノ原因ト爲ル

保險料ノ計算カ被保險利益ノ價格及ヒ危險ノ確カラシサヲ基礎トスルコト前述ノ如シ故ニ若シ契約カ一部無効ナリシカ爲メ保險者カ始メヨリ其部分ニ付キ損害填補ノ責任ナカリシ場合ニハ保險料ノ相當部分ヲ返還セシムルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ハ容易ニ決定スルコトヲ得ヘシ即チ保險料ノ可分ナル場合ニ限ルコト是ナリ然ラハ保險料ノ可分ナル場合トハ何ソヤ曰ク危險測定ノ期間ト契約期間ト一致セサル場合はナリ例ヘハ火災保險ニ付キ三个年ノ契約期間ヲ以テ火災保險ヲ付シタル場合ニアリテ毎年ノ保險料ハ不可分ナレトモ契約期間ノ三个年ノ保險料ハ可分ナリ又特別ノ危險ヲ指定シテ之ニ付キ特別ノ保險料ヲ定メタル場合ニハ普通保險料ト特別保險料トハ可分ナリ又同一ノ契約ヲ以テ二箇以上ノ被保險利益ノ客體ニ付キ保險ヲ付シタル場合ニ

其客體ハ可分ナリトスレハ箇々ノ被保險利益ニ對スル保險料ハ可分ナリ
此等ノ場合ニ於テハ保險料ノ相當部分ヲ返還セシムルコトヲ得ヘシ但保險契約
者被保險者ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタル場合ハ此限ニアラサルコト勿論ナ
リ(商法三九
九參照)

保險契約ハ一度成立スレハ保險者カ未タ危險ヲ負擔スルニ至ラサル間換言スレ
ハ保險者ノ責任カ始マル前ト雖モ保險契約者ヨリ契約ヲ解除スルコト能ハサル
ハ民法ノ原則ナリ然レトモ保險者ハ未タ危險ヲ負擔スルニ至ラサルヲ以テ契約
ノ解除ヨリ生スル損害ハ契約取結ノ費用報酬其他ニ過キサルカ故ニ商法ハ一方
ニハ保險契約者ニ解除權ヲ與ヘ他方ニハ契約ノ解除ヨリ生スヘキ損害ヲ保險者
ニ賠償セシメタリ但前ニ述ヘタルカ如ク純保險料ト附加保險料トノ關係ハ現今
ノ保險ノ技術上正確ニ分界スルコト能ハサルヲ以テ商法ハ單ニ保險料ノ半額ヲ
以テ損害賠償ニ充ツルコト、セリ(商法四〇七、
四〇九參照)
又保險契約ハ無効ニアラスト雖モ契約取結ノ後保險者ノ責任ノ始マル前ニ於テ
危險ノ確カラシサカ減少シ百分ノ百ニ近キタルトキハ其減少カ保險者又ハ保險

契約者ノ行爲ニ出テサルトキニ限り保險者ヨリ其既ニ受取リタル保險料ヲ契約
者ニ返還スルコトヲ要ス何トナレハ保險料ハ危險負擔ノ對價ナレハナリ但之カ
爲メニ保險者ハ自己ノ責ニ歸セサル事由ニ因リ損害ヲ招クコト、ナルヘキヲ以
テ前ニ述ヘタル解除ノ場合ト同シク保險料ノ半額ヲ請求スルコトヲ得ト定メラ
レタリ(商法四〇
八、四〇九)
保險料支拂ノ義務ヲ負擔スル者ハ保險契約者ナリ(商法四
一)故ニ其減額ヲ請求シ又
ハ返還ヲ請求スルハ皆保險契約者ナリトス(商法三九二、三九四、
四〇〇、四〇八、四〇九)然ルニ保險契約
者ト被保險者ト異ナル場合ニ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者
ハ保險料ヲ取立ツルコト能ハス而シテ保險料ノ支拂ナキ爲メ契約ハ其效力ヲ失
ハントス然レトモ之ヲ被保險者ノ利益ヨリ考フレハ寧ロ自ラ保險料ヲ支拂ヒテ
契約ヲ維持スルノ便利ナル場合多シ故ニ商法ハ原則トシテ保險者ヨリ被保險者
ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得セシム但保險者ハ必スシモ被保險者ニ對シ
テ保險料ヲ請求スルヲ要セサルヲ以テ斯ル場合ニ於テハ保險料延滞ノ效果ヲ直
チニ生セシムルヲ妨ケヌ又被保險者カ其保險料ノ請求ヲ受ケタルニモ拘ハラヌ

之ヲ支拂ハス其權利ヲ拋棄シタルトキ亦之ニ同シ(商法四)

保險料支拂ノ方法時期及ヒ場所ニ付キテハ固ヨリ契約ノ約款ヲ以テ之ヲ定ムルヲ原則トナス然レトモ支拂ノ場所ニ付テハ特ニ約款ヲ以テ之ヲ定メサル限りハ商法第二百七十八條ニ依リ保險者ノ營業所ニ於テ之ヲ支拂フヘキモノニシテ其營業所カ支店ナリシ場合ニハ其支店ニ於テ支拂フヘキモノトス然ルニ之ヲ實例ニ徵スルニ保險者ハ皆保險契約者ノ營業所又ハ住所ニ就キ保險料ヲ徵收シ保險契約者ヨリ之ヲ保險者ノ營業所ニ支拂フノ例絶エテ存セス故ニ此慣例ハ保險料支拂ノ場所ニ關シテ慣習法ヲ成スト説ク者ナキニアラスト雖モ誤謬タルヲ免カレズ

保險料支拂ノ時期ハ前拂ヲ以テ通則トナセトモ特約ヲ以テ之ヲ半年拂、三個月拂若クハ毎月拂トナスコトヲ妨ケス但之カ爲メニ保險料不可分ノ性質ヲ變更スルモノニアラス又海上保險ノ如キハ往々保險料後拂ノ例アリ而シテ此保險料支拂ノ義務ハ契約取結ノ後遲滯ナク若クハ保險證券ト引替ニ又ハ契約成立ト同時ニ履行スルヲ通例トシ前拂契約ノ場合若クハ許多ノ保險料計算期間ニ涉ル契約ニ

アリテハ每期ノ初ニ支拂フモノトス若シ以上ノ時期ニ支拂ヲ延滯スルトキハ豫メ定メタル延滯猶豫期間ヲ經過シタル後契約ハ其效力ヲ失フコトヲ約定スルヲ常トス蓋シ延滯猶豫期間ノ性質ニ付テハ學說及ヒ實際ニ爭アリ余輩ハ此期間内ニ損害ヲ生シタルトキハ縱令其後保險料ヲ拂込ムモ保險者ヲ拘束セザルモノト解セント欲ス

保險料延滯ノ猶豫期間ノ如何ヲ問ハス支拂フヘキ保險料ハ支拂ノ時期ヨリ一个年ヲ經過スレハ時効ニ因リ消滅ス(商法四)

第五節 損害及ヒ損害ノ填補

損害及ヒ
補

損害保險制度ノ主眼トスル所ハ損害ノ填補ナリ而シテ契約上損害ト稱スルモノハ約定シタル特種ノ危險カ實現シテ損害事故ヲ生シ之カ爲メ被保險利益ノ侵サ
ル、ニ因リ被保險者カ被ムル所ノ財産上ノ不利益ナリ故ニ損害ノ何タルヲ知ラ
ントセハ被保險利益及ヒ危險ノ何タルヲ知レハ足レリ
損害ノ發生ハ被保險利益ニ對シ危險ノ「確カラシサ」ノ増加シテ百分ノ百ニ達シタ
ルトキニ始マリ其「確カラシサ」カ常態ニ復シタルトキニ終ハル故ニ損害ノ發生ノ

間ハ損害ノ分量ハ絶エス増加スルヲ以テ原則トナシ其増加ノ程度ハ場合ニ依リテ同シカラス然ルニ問題トナルハ保險期間内ニ危險實現シ始メ保險期間ヲ經過シテ尙ホ停止セス若干ノ時日ノ間繼續シテ始メテ止ム場合はナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ保險者ノ責任ニ屬スル損害ノ部分ハ嚴正ニ之ヲ解スレハ保險期間滿了ノ瞬間マテニ生シタル損害ニ止マルヘキモ實際ハ之ヲ計算スルコト頗ル難ク保險者ハ多クノ場合ニ於テ其後ノ損害マテモ包括シテ填補スルヲ常トス而シテ或學者ハ一度損害ノ發生カ開始スルトキハ其事實ノ消滅スルマテニ生シタル損害ハ不可分ナリトノ理由ニ基キ保險者ハ其金額ヲ填補スヘキ責任アリト論セリ是レ實際ニ適切ナル議論ナレトモ特約ナキ限りハ斯ノ如ク解スルコト能ハス一損害ノ發生シ始ムルニ當リテハ被保險者ハ之カ防止ヲ努メサルヘカラス若シ之ヲ努メサルカ爲メニ損害ヲ増加シタルトキハ保險者ヨリ其増加部分ヲ計算シテ填補額ノ減少ヲ求ムルコトヲ得ルハ勿論若シ之ヲ證明スルコト能ハサル場合ト雖モ防止ヲ努メサル結果トシテ損害ヲ生シタリトセハ填補ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ヘシ且被保險者カ損害ノ防止ノ爲メニ必要又ハ有益ノ費用ヲ支出シタリ

トセハ縱令之ト填補額トヲ加ヘ保險金額ニ超過スト雖モ保險者ハ悉ク之ヲ負擔セサルヘカラス(商法四一四)

被保險利益ニ付キ危險實現シテ損害生シ保險者ノ之ヲ填補スヘキ義務理想上確定シタル後ニ至リ其契約上ノ危險以外ノ事實ニ因リ被保險利益ノ殘部カ全滅シタルトキハ保險者ニ填補ノ義務アリヤ否ヤ若シ填補ノ義務アリトセハ其範圍如何ノ問題ヲ生ス我商法ハ第四百十三條ヲ以テ此場合ヲ決定シ保險者ハ契約上ノ危險ノ實現ニ因リ生シタル損害ヲ填補スル責アリトナセリ但實際問題トシテハ契約上ノ危險ニ基クト否トヲ判別スルコト能ハサル場合尠ナカラサルヘシト雖モ或論者ノ如ク此場合ニ損害ノ全部ヲ填補スヘキモノト解スルニ比シテ弊害尠ナカルヘシ

損害事故ノ發生シタル場合ニモ告知義務即チ開陳責任ノ問題ヲ生ス何トナレハ保險者ハ損害ノ生シタル原因、損害ノ範圍、程度、價額等ヲ決定セサル間ハ之カ填補ヲ爲スコト能ハス而シテ徒ニ時日ヲ經過スレハ此等ノ決定愈、困難トナリ被保險者トノ間ニ爭ヲ惹起スルコトアルノミナラス遂ニハ約束シタル保險金額全部ヲ

支拂ハサルヲ得サルコト、ナルヘシ故ニ商法第四百十二條ハ保險契約者及ヒ被保險者ニ開陳責任ヲ負擔セシメ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ其旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要スト規定セリ故ニ此義務ノ違反アルトキハ遲滯ナク通知ヲ發シタルニ於テハ減スルコトヲ得ヘカリシ損害額ヲ填補額ヨリ除去スルコトヲ得ルコト、ナルナリ

保險者ノ填補スヘキ損害額ヲ決定スルノ方法ハ被保險利益及ヒ危險ニ關シテ説明シタル所ニ依リテ明カナリ而シテ損害額ヲ決定セラレタルトキハ保險者ヨリ之ヲ被保險者ニ支拂フヘク其支拂アリタル場合ニハ保險者ハ損害事故ノ性質損害ノ性質其他ノ理由ニ基キ被保險者カ被保險利益ニ付キ有シタル權利ヲ取得スルコトアリ即チ其一ハ被保險利益ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者ヨリ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキ其二ハ損害カ第三者ノ行爲ニ因リ生シタルトキ是ナリ(商法四一六)

保險金支拂ノ義務即チ損害填補義務ノ履行地ハ商法第二百七十八條ニ依リ被保險者ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所タルヲ原則トシ此義務ハ填補額決定

ノ時ヨリ二年ヲ經過シテ時効ニ罹ルモノトス但填補額ノ決定ニ付キ保險者ト被保險者トノ間ニ何等ノ協議ナカリシ場合ニハ損害ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス(商法四一七)

第六節 保險期間

保險期間

保險期間ナルモノハ保險契約上重要ナル觀念ノ一ニ屬スレトモ契約ノ要件タルモノニアラス

保險契約ニ關スル期間ニ三種アリ其一ハ危險ノ「確カラシサ」ノ計算ニ用キタルモノニシテ危險ノ不可分、保險料ノ不可分等ノ原則ヲ生スル基礎ナリ之ヲ危險測定期間若クハ保險料期間ト名ク其二ハ保險者カ危險ヲ負擔スル期間ニシテ換言スレハ保險者ノ填補義務ノ開始シタルヨリ消滅スルマテノ期間ヲ指ス其三ハ契約ノ存續スル期間ニシテ多クノ場合ニ於テ危險負擔ノ期間ト一致スルモノナリ

第二章 保險契約ノ取結

保險契約ノ取結

保險契約ハ要式契約ニアラス從テ其取結ニ付キ證券ノ作成ヲ必要トセス然レトモ大多數ノ場合ニ於テ保險證券ナルモノ、作成セラル、アリ而シテ我商法ハ保

保險法 保險契約法論 損害保險契約 保險契約ノ取結

險證券ニ記載スヘキ要件ヲ決定シ保險契約者ノ請求アルトキハ保險者之ニ署名シテ之ヲ交付セサルヘカラスト規定セリ(商法四〇三、四二二、四二五、四三〇、六)保險證券ハ記名式ノ場合ヲ通例トシ稀ニ無記名式(持參人)又ハ指圖式ナキニアラズ然レトモ何レノ場合ト雖モ有價證券ニアラサルヲ原則トシ唯特別ノ約款ヲ附シテ證券所持人ニアラサレハ保險金額ヲ拂渡サスト定メタル場合ニ限り有價證券タリ故ニ其無記名式タル場合ト雖モ純然タル無記名證券ニアラス唯保險者ト證券所持人カ果シテ被保險利益ヲ有シタリシ者ナルヤヲ檢認スルヲ要セスシテ保險金額ヲ拂渡スコトヲ得ルニ止マル

第二章 保險契約上ノ法律關係ノ變更

保險契約上ノ法律關係ハ契約取結以後變更ヲ來ス場合ナキニアラス而シテ之ヲ分類スレハ二トナル其一ハ主體ノ變更ニシテ其二ハ法律關係ノ内容ノ變更ナリ例ヘハ保險契約者ハ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負擔スルヲ以テ原則トナセトモ或場合ニハ他人之ニ代位スルコトアリ例ヘハ商法第四百六條ノ場合ノ如シ又保險契約上ノ權利カ被保險者ヨリ他人ニ移轉スル場合アリ商法第四百四條ノ如シ此等

保險契約
上ノ法律
關係ノ變
更

ヲ主體ノ變更トナス次ニ内容ノ變更トハ保險料ノ減額ノ場合(商法三九二、三九三)保險料ノ一部返還ノ場合(商法四〇九)填補額ノ減少ノ場合(商法三九四)填補トシテ指定セラレタル金額以外ニ保險者ノ負擔ヲ増ス場合(商法三九三、三九四)相續キテ數箇ノ保險契約ヲ取結ヒタル場合(商法三八九)等はナリ

第四章 保險契約上ノ法律關係ノ消滅

保險契約上ノ法律關係ハ其主要ノモノタル保險者ノ債務ノ履行ニ因テ消滅スルハ勿論其他ノ場合ニ幾多ノ消滅原因ヲ存ス余輩ハ之ヲ任意ノ消滅及ヒ任意ノ消滅ノ二者ニ分類セント欲ス即チ任意ノ消滅ハ商法第四百五條、第四百七條、第四百十一條等ニ規定セラレ其他保險約款ヲ以テ何時タリトモ保險契約者ヨリ之カ解除ヲ爲スコトヲ得ル場合ヲ定ム又不任意ノ消滅ハ商法第四百四條、第四百十條、第四百十七條等ニ規定セラレ其他保險約款ヲ以テ許多ノ原因ヲ之ニ附加スルヲ常トス

保險契約
上ノ法律
關係ノ消
滅

第二部 損害保險各論

第一章 火災保險

損害保險
各論
火災保險

保險法 保險契約法論 損害保險各論 火災保險

商法第四百十九條ハ火災保險ノ定義ヲ掲ケ火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因カ商法第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ定ムル所ノ事由ニ出テサル限リハ保險者之ヲ填補スルノ責ニ任スル保險ナリト云ヘリ故ニ此契約ニ於ケル危険ハ火災ニシテ其被保險利益ハ客體カ火災ニ因リテ消滅シ若クハ毀損シ又ハ減價スルモノナルヲ要ス

第一 火災及ヒ之ヨリ生スル損害

火災ハ其原因體様物體效果等ヨリ觀察スルトキハ頗ル複雑ヲ極メ容易ニ其觀念ヲ決定スルコト能ハス即チ(イ)其原因ヨリ觀察スレハ電氣ヨリ來ルモノアリ摩擦ヨリ來ルモノアリ化學作用ヨリ來ルモノアリ化學作用中酸化作用ハ最も多シト雖モ其他ノ作用ヨリ火災ヲ生スルコトヲ想像シ得サルニアラス(ロ)其體様ヨリ觀察スレハ光線ヲ發輝スル燃燒アリ發輝セサル燃燒アリ熱度ノ高キモノアリ低キモノアリ煙ヲ發スルモノアリ發セサルモノアリ爆發スルモノアリ否ラサルモノアリ(ハ)其目的物ヨリ觀察スレハ紙類アリ木材アリ礦物アリ液體アリ氣體アリ(ニ)其效果ヨリ觀察スレハ形體ヲ變スルモノアリ物理的ニ混合ス

ルモノアリ化學的ニ包含スルモノアリ以上種々ノ點ヲ學理的ニ綜合シ分析シテ火災ノ何タルヤヲ研究スルハ頗ル妙味アル問題ナレトモ今日マテ火災保險ノ實際ハ斯ノ如キ研究ヲ許スノ程度ニマテ發達セス火災ノ統計モ亦精細ナル分類ニ依リ事實ヲ蒐集スルコトナシ從テ普通ニ火災ト謂ヘル空漠タル觀念ニ火災保險ノ基礎ヲ置クノ已ムヲ得サルモノアリ殊ニ我國ノ如キ火災ヲ防ク用意ナク却テ火災ノ生スルカ爲メニ建築セラレタルカノ觀アル家屋ヲ有スル國ニ於テハ到底學理的ニ火災ノ觀念ヲ決定スルコト能ハサルナリ
斯ノ如ク火災保險ニ於ケル火災ノ意義ハ普通ノ思想ニ因リテ決定スルモノトセハ普通ニ所謂火災ナルモノヨリ除去スヘキモノ及ヒ之ニ加フヘキモノヲ研究スルノ必要アリ

(甲) 除外スヘキモノ 商法第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ二箇條ハ總テノ保險ニ通シテ危険中ヨリ除外スヘキモノナレトモ第四百十九條カ火災ノ原因如何ヲ問ハス云々ノ語辭ヲ用キタルヲ以テ特ニ誤解ヲ防クカ爲メニ再ヒ此除外例ヲ明示シタリ其他當事者間ニ特約ヲ以テ火災中ヨリ除外スル

モノ多シ例ハ地震ニ因リテ生シタル火災ノ如シ
(乙) 火災中ニ加フヘキモノ 雷電瓦斯ノ爆發其他特約ヲ以テ之ヲ火災ト同視
スルモノ 歐洲ニ於ケル火災保險ノ實例ニ多シ

以上ノ如ク火災若クハ之ト同視セラル、事故ニ因リテ直接ニ生シタル損害ハ
火災保險者之ヲ填補スルヲ原則トナシ之ニ加ヘテ消防又ハ避難ニ必要ナル處
分ニ因リ被保險利益ニ付テ生シタル損害モ亦之ヲ保險者ヨリ填補セサルヘカ
ラス(商法四〇)但第四百十四條ニ基キ損害ノ防止ニ付キ必要又ハ有益ナリシ費用
ト雖モ填補スヘキコト勿論ナリ(間接ノ損害ハ填補セス如何ナルモノヲ間接ノ
損害トナスヤハ判例ニ依リテ決スルノ外ナシ)

第二 被保險利益及ヒ損害ノ填補
火災保險ノ目的タルモノハ火災ニ罹リ損害ヲ生スヘキモノナルヲ以テ有體物
ヲ客體トナス被保險利益ニ限ルコト勿論ナリ然レトモ貨幣及ヒ有價證券ハ之
ヲ火災保險ニ付スルコトヲ得ス又書類及ヒ金銀寶石等ノ美術品ハ特約アル場
合ニ限り之ヲ保險ニ付スルコトヲ得ル等ノ規約ハ歐米ノ火災保險ニ普通ナル

カ如シ

保險者ハ被保險利益ノ客體ノ種類及ヒ其存在スル地域ニ從テ表ヲ作り保險料
ノ割合ヲ示スヲ常トス而シテ生スヘキ損害ノ填補ヲ確實ニシ且公安ヲ維持ス
ルカ爲メ或ハ保險契約ノ取結ニ付キ警察ノ干涉ヲ必要トスル國アリ或ハ實際
ノ價額以下相當ノ程度ニマテ保險價額ヲ低下スルノ必要ヲ規定スルモノアリ
或ハ同一ノ家屋ノ再建築ノ費用ヲ限度トシテ約定スルモノアリ然レトモ我國
ニ於テハ未タ此等ノ實例ナシ
賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其賃借權等ヲ保險ニ付スルニモアラス又
所有者ノ爲メニ其物ヲ保險ニ付スルニモアラス單ニ自己カ所有者ニ對シテ支
拂フコトアルヘキ損害賠償ノ責任ヲ保險ニ付シタル場合ニハ所謂責任保險ニ
シテ被保險者ハ賃借人ナリ故ニ民法ノ原則ニ從ヘハ所有者ハ之ニ代位スルコ
トヲ得ルニ過キサレトモ(民法四三)此保險ノ目的タルヤ所有者ノ利益ヲ確保セン
カ爲メノ趣旨ニ出ツルヲ以テ寧ロ所有者ヲシテ直接ニ權利ヲ得セシムルニ如
カス商法第四百二十一條ノ規定是ナリ然ラハ賃借人其他ノ者カ近隣ノ爲メニ

支拂フコトアルヘキ損害ノ賠償ニ付テ火災保險契約ヲ取結フトキハ如何若シ
近隣ニ對シ故意又ハ重大ナル過失ナキモ此法律上ノ責任ノ存スル場合ニ於テ
ハ本條ノ類推解釋ヲ以テ近隣ノ者モ亦直接ニ保險者ニ對シテ損害ノ填補ヲ請
求スルコトヲ得トナスヲ穩當ト信ス(明治三十二年三月法律第四〇號)

第三 契約ノ取結

被保險利益ノ客體ハ家屋ニ關スル保險契約ノ取結ニ際シテノミ鑑定人ニ依リ
テ評價スルヲ常トス動産ノ保險ニ付テハ此實用ナシ何トナレハ家具其他ノ動
産ハ更替出入頻繁ナルヲ以テ到底之ヲ調査シテ評價スルノ實效ナケレハナリ
火災保險證券ニハ損害保險ノ通則トシテ記載スルコトヲ要スル事項ノ外被保
險利益ノ客體若クハ其客體ヲ容ル、物ノ所在、構造及ヒ用方ヲ記載シテ被保險
利益ヲ明確ニスルヲ常トス(商法四二二)

運送保險

第一章 運送保險

運送保險ハ偶然ノ事故ニ因リ貨物ノ運送ニ付キ生スル損害ヲ填補スル保險ニシ
テ一方ニ於テハ運送中ノ旅客ノ生命保險ヲ除外シ他方ニ於テハ陸上保險ト海上

保險トヲ包含ス故ニ陸上運送保險ヲ狹義ノ運送保險ト云ヒ海上運送保險ヲ單ニ
海上保險ト稱ス余輩ハ茲ニ狹義ノ運送保險ヲ説明スルニ止ムヘシ
陸上運送保險ニ二種アリ一ハ河川港灣ノ運送ニ關スルモノニシテ一ハ陸地ノ運
送ニ關スルモノナリ

第一 危險

運送保險ノ危險ハ之ヲ(一)地域ト(二)運搬具及ヒ運送ノ方法ト(三)危險ノ原因トノ
三個ノ方面ヨリ確定スルコトヲ要ス即チ或種類ノ運搬具ト運送ノ方法トヲ以
テ或物ヲ約定ノ地域内ヲ運送スル場合ニ火災、濕濡、盜難、紛失等ニ對シ保險スル
モノニシテ法律ノ規定ト特約トヲ以テ種々ノ例外ヲ存スルモノトス

第二 被保險利益

被保險利益ノ客體ハ運送ノ目的タルヘキモノニシテ即チ有體物タラサルヘカ
ラス而シテ其保險價額ハ運送中客觀的ニ之ヲ知ルコト不能ニアラスト雖モ頗
ル困難ナリ故ニ一方ニ於テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル價額、他方ニ於テハ到達
ノ地及ヒ時ニ於ケル價額ノ性質ヲ觀察シテ保險價額ヲ決定スルノ必要アリ然

ルニ到達地ノ價額ハ損害ノ生シタル場合ニ之ヲ知ルコト頗ル困難ナルヲ以テ
寧ロ發送地ノ發送ノ時ニ於ケル價額ヲ保險價額ト定メ特ニ保險價額ヲ約定セ
サル場合ニ之ヲ標準トスヘキモノト規定セリ(商法四)但到達地マテノ運送賃其
他ノ費用ハ運送ニ付テ免カルヘカラサル負擔ナレハ之ヲ保險價額中ニ算入ス
之ニ反シテ到達ニ因リテ得ラルヘキ利益ハ未タ確定セサルモノナルヲ以テ特
約ナキ限りハ之ヲ算入セサルカ如シ

第三 保險期間

運送保險ノ性質上其被保險利益ノ客體ハ保險期間中所在ヲ移轉スルモノナル
ヲ常トス然ルニ時トシテハ運送ノ途中ニ於テ其運送中止セラレ或ハ運送ノ道
筋又ハ其運送ノ方法ノ變更セラル、コトナキヲ保セス然ルニ危險負擔期間内
ニ此等ノ事實ヲ生スルトキハ特ニ規定ナキニ於テハ保險者ノ義務ハ或ハ一時
中止シ若クハ消滅スルコト、ナルヘシ是レ運送保險ニ付キ頻繁ニシテ且免カ
ル、コトヲ得サル事故ニシテ保險者ノ利益ヲ常ニ害スルモノニアラサルト同
時ニ被保險者ノ利益ヲ害スルコト尠ナカラサルモノナルカ故ニ第四百二十六

第四 契約ノ取結

條ヲ以テ此場合ニ契約ハ其效力ヲ失ハサルモノナリト規定シタリ
運送保險契約ノ取結ニ付テハ特ニ異ナリタル法理ノ存スルナシ唯運送保險ニ
ハ種々ノ體様アリテ之ヲ被保險利益ノ客體ヨリ見レハ荷送人ノ付スル契約ハ
個々運送物ニ付テノ契約ナレトモ運送人ノ付スル契約ハ多クハ包括保險ニシ
テ其保險價額ヲ定ムルモノアリ定メサルモノアリ又價額ヲ定ムルモノ、内ニ
毎日運送スル物品ヲ包括シテ一團トナシ之ヲ毎日運送人ノ帳簿ニ登錄スルコ
トヲ條件トシテ保險ニ付スルコトアリ又ハ毎月若クハ毎年ノ貨物ヲ包括シテ
一團トナシ之ヲ保險ニ付スルコトアリ然レトモ被保險者ノ便利ノ點ヨリ論ス
レハ價額ヲ定メサル包括保險ニ及ハサルコト遠シ
運送保險ノ保險證券ニ付テハ商法第四百二十五條ヲ以テ損害保險ノ原則タル
第四百三條ニ加フルニ運送ニ特別ナル事項ヲ以テシタルニ過キス

包括保險

餘論ノ一 包括保險

普通ノ保險契約ニ於テハ危險ノ確カラシサヲ豫定スルモ被保險利益ノ確カラシ

サヲ豫定スルノ必要ヲ感セス何トナレハ被保險利益ハ現ニ特定セル客體ヲ有スルヲ以テナリ然ルニ更ニ一步ヲ進メテ考フルニ被保險利益ヲ其價額ヨリ觀察スレハ常ニ多少ノ變動ヲ免カレス故ニ其變動ノ確カラシサヲ測定シテ之ニ對スル對價ヲ徵收スルトキハ一度保險價額ト保險金額トヲ定メタル後ハ損害ノ生シタルトキニ當リ填補額ヲ計算スルノ必要ナキニ至ルヘシ然レトモ翻テ考フレハ被保險利益ノ客體カ被保險者若クハ保險契約者ノ自由處分ノ下ニアル間ハ此等ノ者ノ故意又ハ重大ナル過失ヲ原因トスル損害事故ノ發生多カルヘク而シテ之ヲ證明シ得ストスルモ損害ノ遠因ヲ成ス場合モ亦決シテ尠少ニアラサルヘシ加之事故ノ發生ハ全ク偶然ナルニモセヨ一度其發生シタル場合ニ被保險者カ損害ノ防止ヲ力メサル場合多カルヘク縱令之ニ對スル制裁ノ法規若クハ規約ヲ存スト雖モ其事實ヲ證明シ得サル場合多キカ爲メ實效尠ナルヘシ故ニ被保險利益ノ價額ノ變動ノ確カラシサヲ測定シテ填補額ヲ一定不動トナスノ實例ニ乏シ然ルニ之ト頗ル類似スル場合即チ被保險利益ノ客體カ絶エス其數量ニ變更アル場合アリ即チ今日ハ甲乙丙丁ノ四箇ノ物品アルモ明日ハ甲丙戊巳ノ四箇ト變ス

ルカ如シ斯ノ如キ場合ニハ被保險利益ノ客體ノ數量若クハ價額ヲ平均シテ其保險料期間内ノ確カラシサヲ測定シ之ニ依リテ何時其被保險利益ニ付テ損害ヲ生スルコトアルモ保險者ヨリ之ヲ填補スヘキモノト定ムルコトアリ例ヘハ倉庫ノ中ニ在ル總貨物ノ保險及ヒ運送人ノ引受ケタル運送中ノ物品ノ如シ之ヲ被保險利益ノ價額ノ點ヨリ觀察スレハ前述ノ場合ト同シク價額總額ノ變動ヲ生スヘキモノナレトモ其變動ノ原因ハ被保險利益ノ客體ノ經濟的價額ノ上下スルヨリ生セスシテ其客體ノ數量ノ増減ニ因リテ生シ且其客體ハ保管者ニ屬セサル場合多ク縱令保管者ニ屬スル場合ト雖モ自己ノ意思ニ因リテ之ヲ毀損スルコト能ハサル場合ヲ常トス故ニ斯ノ如キ場合ニハ特種ノ保險ノ存在スルアリテ之ヲ包括保險ト稱ス

包括保險ハ集合保險ノ一ニシテ集合保險トハ被保險利益ノ客體カ數多ノ同種若クハ異種ノ物又ハ財産ヨリ成立スル場合ニ存スル保險ノ總稱ナリ而シテ單一保險ハ單一物若クハ單一財産ヲ被保險利益ノ客體トスル保險ニシテ集合保險ト對立ス凡ソ數多ノ物若クハ數多ノ財産ニ對シ一ノ集合保險アリヤ將タ又數多ノ單

一 保險アリヤヲ決セント欲セハ之ヲ當事者ノ意思ニ求ムルノ外ナカルヘシ但保險價額ト保險金額トヲ或ハ綜合的ニ定ムルカ或ハ個々別々ニ定ムルカニ因リテ一應當事者ノ意思ヲ推知スルコトヲ得ヘク即チ之ヲ綜合的ニ定ムルトキハ集合保險ヲ爲シタルモノト考ヘラレ尙ホ之ニ付キ疑アルトキハ已ムヲ得ズ數多ノ單一保險アリト解釋スヘシ之ニ反シテ個々別々ノ定メヲ爲シタルトキハ數多ノ單一保險アリト解釋スシ

責任保險
義務保險

餘論ノ一 責任保險(義務保險)

保險契約上ノ危險カ法律上ノ強制ニ基キ被保險者ノ被ムルヘキ財産上ノ負擔タル場合アリ而シテ此法律上ノ強制ハ或ハ直接ニ法律ノ規定ニ依ル場合アリ或ハ法律行爲ニ依ル場合アリテ前者ヲ法定責任ト稱シ後者ヲ契約責任ト稱ス此孰レノ責任タルヲ問ハス其實現シタル場合ニハ責任者ニ財産上ノ損害ヲ來スヲ以テ此責任ヲ危險トシテ取結ヒタル保險アリ之ヲ責任保險ト云フ民法第四十四條ニ於テ法人カ理事其他ノ代理人ノ加害行爲ニ付キ賠償ノ責任アルカ如キ又同法第七百十四條ニ依リ無能力者ノ法定監督者カ其無能力者ノ加害行爲ニ付キ賠償ノ

再保險
(戻保險)

責任アルカ如キ其他第七百十五條第七百十八條等ノ規定ニ依リ負擔スル責任及ヒ商法其他ノ法律ノ規定ニ依リ此種ノ責任アル場合ノ如キ皆所謂法定責任ニシテ理論上之ニ付キ責任保險ノ存在シ得ル場合アルヘシ

餘論ノ二 再保險(戻保險)

保險者カ保險契約上負擔スル債務即チ危險ノ實現シテ損害ヲ發生シタルトキハ之ヲ填補スヘキ義務ヲ其填補ノ點ヨリ觀察スレハ財産上ノ負擔ニ外ナラサルヲ以テ更ニ之ニ付キ自己ヲ被保險者トシテ他人ト保險契約ヲ取結フコトアリ此保險契約ヲ再保險若クハ戻保險ト稱シ其前提タル保險ヲ前提保險ト稱ス再保險ハ保險者ト其被保險者即チ前提保險ノ保險者トノ間ノ組合契約ニ外ナラスト唱フル學者アレトモ全ク再保險ノ性質ヲ明カニセサルヨリ生シタル誤解ニ外ナラス又普通ノ保險契約ノ被保險者カ其保險者ノ無資力トナル場合ヲ想像シ之ヲ被保險事故トシテ或保險者ト更ニ保險契約ヲ取結フ場合ハ再保險ニアラスシテ一種ノ信用保險ニ外ナラス(商法三三八號)再保險ハ責任保險ノ一ニシテ前提保險者カ其負擔スル契約責任ヲ危險トシテ或

保險者ト取結ヒタル保險ナリ而シテ再保險ハ單一保險タル場合アリ集合保險タル場合アリ就中集合保險中ノ包括保險タル場合モ亦尠ナカラス其包括保險タル場合ニ著眼シテ生シタル學說ハ組合契約說ナリ然レトモ(一)再保險ノ約款ハ必スシモ前提保險ノ約款ト同一ナルヲ必要トセス其保險料ハ前提保險ノ保險料ヨリ高キコトアリ低キコトアリ同一ナルコトモアリ要スルニ再保險ノ保險者カ前提保險者即チ再保險ノ被保險者ト共ニ前提保險上ノ危險ノ負擔ニ參與スルモノニアラスシテ獨立シタル保險契約ヲ取結ヒタルモノト解セサルヘカラス(二)組合契約說ハ經濟上ノ說明ト法理上ノ說明トヲ混同シタルモノニシテ經濟上ニ於テハ勿論再保險者ト前提保險者ト共ニ填補額ヲ分擔スルモノナレトモ法律上ニ於テハ再保險者ハ直接ニ前提被保險者ニ對スルモノニアラス(三)組合契約說ニ從フトキハ其再保險カ包括保險ナル場合ト其他ノ集合保險及ヒ單一保險ナル場合トヲ區別シ主トシテ前者ニ付テ組合契約說ヲ主張セサルヘカラサル不便アリテ理論ノ一貫ヲ望ムヘカラス(四)再保險ノ被保險利益ノ客體ハ孰レモ前提保險ノ被保險利益ノ客體ト同一ナレトモ各其被保險利益ヲ異ニスルモノナリ而シテ組合契約

說ハ被保險利益ト其客體ヲ判然區別セサルニ因リテ生シタル誤解ナリ之ヲ要スルニ再保險ト前提保險トハ被保險利益ヲ異ニスレトモ被保險事故ハ同一ニシテ前者ニ於ケル危險ハ前提保險契約上ノ填補責任ナレトモ其危險ノ實現セラル、場合ハ前提保險契約上ノ危險ノ實現スル場合ト全ク同一ナリ換言スレハ此兩者ノ間ニハ被保險利益ヲ異ニシ危險ヲ同ウスト云ハサルヘカラス然ラハ再保險ナルモノハ其前提保險ヨリ全然獨立シタルモノニシテ人保險ヲ前提トスル再保險モ物保險ヲ前提トスル再保險モ孰レモ責任保險トシテ損害保險ノ一種トナルヘキモノナリヤ將タ又其前提保險ノ性質ニ從ヒ例ヘハ火災保險ヲ前提トスル場合ニハ其再保險モ亦火災保險トナリ運送保險ヲ前提トスル場合ニハ運送保險トナルヘキモノナリヤハ一考ヲ價スル論題ナレトモ現今有力ナル學說ニ從ヘハ前提保險ノ性質ニ依リ再保險ノ性質ヲ定ムヘキモノトセリ

第三部 生命保險

第一章 生命保險ノ性質

生命保險ハ其發達ノ初期ニ當リテハ一ハ其濫用ノ甚タシカリシト一ハ宗教上ノ

生命保險
ノ性質

反對ノ理由アリシカ爲メ之ヲ禁止シタル國尠ナカラサリシカ今日ニ至リテハ各國皆經濟上重要ノ制度トシテ直接間接ニ之ヲ保護スルニ至レリ

生命保險ノ性質ニ付テハ英國ノ學者ハ保險トシテ之ヲ疑フ者ナシト雖モ佛獨伊ノ學者ハ之ニ疑ヲ挾ミ或ハ之ヲ金錢支拂ノ買入契約ナリト論シ或ハ之ヲ射倖的ノ貸借ナリトシ或ハ之ヲ備蓄的行爲トシ或ハ特種ノ信用契約ナリトシ或ハ投資的行爲ナリトシ或ハ純然タル貯金契約ナリトシ又或ハ以上ノ兩極端ヲ折衷シテ貯金契約ト保險契約トノ混合シタル一種ノ行爲ナリト説明スル學者アリ我輩ノ信スル所ニ依レハ以上ノ學說ハ何レモ皆多少ノ誤謬ヲ存シ完全ナルモノナリト云フコト能ハス何トナレハ經濟上ヨリ論スル保險ハ危險ノ分擔ト貯金トノ二要素ヲ備フル點ニ於テ其損害保險タルト生命保險タルトヲ別視スルコト能ハサルモノニシテ唯法律上其二者何レニ重キヲ置クヤニ付テ學者ノ見解ヲ異ニスルモノナレハナリ

生命保險ノ法律上ノ性質ヲ決定セント欲セハ先ツ生命保險ハ保險ニアラストノ學說ノ因テ生スル所以ヲ探究セサルヘカラス抑モ生命保險ニ於ケル保險料及ヒ

保險者ノ支拂フヘキ金額ニ付テハ別ニ重要ナル問題ヲ生セス故ニ被保險利益及ヒ危險ニ關スル觀念ヲ明カニスルニ於テハ其他ノ問題ハ當然氷釋シ得ラルヘシ然ラハ生命保險ニ於テハ被保險利益及ヒ危險ナル觀念ヲ存スルヤ若シ存ストスレハ損害保險ニ於ケル被保險利益及ヒ危險ノ觀念ト同一ナルモノナリヤ否ヤヲ始トシテ逐次種々ノ點ヲ論究スルカ爲メ左ニ綱目ヲ分チテ之ヲ説明セン

第一 危險

損害保險契約上ノ危險トハ現存スル財産的狀態ニ及ホスヘキ變化ヲ確カラシサ的ニ觀察シタルモノニシテ其一タヒ實現シテ損害事實トナルヤ結果ハ損害ト化スヘキモノナリ而シテ其實現スルト否トハ全ク不確定ナルモノヲ謂フ然ルニ或學者ハ曰ク死亡ハ此意義ニ於ケル危險ニアラス何トナレハ死亡ナルモノハ或豫見スヘキ期間内ニ於テ避クルコト能ハサルモノナレハナリ又損害保險ニ於ケル危險ハ之ヲ一般ニ論スレハ確カラシサ的ニ或事實ノ發生ヲ計算シタルモノナレトモ其事實ノ性質ニ因リテハ保險契約上ノ危險タルコト能ハサルモノナキニアラス例ヘハ被保險者カ自ラ其事實ヲ惹起スコトヲ得ルモノ若

クハ特定ノ期間内ニ當然到來スヘキモノ等ノ如シ故ニ保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スルノ責ニ任セサルモノトス(九六法三)然ルニ生命ノ消滅即チ死亡ハ或期間内ニハ當然到來スヘキモノニシテ或ハ(一)生命ノ存スルカ爲メニ或利益カ存在シ生命ノ消滅スルカ爲メニ或利益カ消滅シ或ハ(二)生命ノ存在スルカ爲メニ或財産上ノ負擔ヲ存シ生命ノ消滅スルカ爲メニ或財産上ノ負擔ヲ免カル、カ如キハ何レモ皆其目的ノ性質ニ伴フ危險ニシテ之ヨリ生シタル損害ハ目的ノ性質ニ因リ生スル損害ナルヲ以テ損害保險上ノ危險タルコト能ハサルナリ又人ノ生産力ヲ被保險利益トスレハ危險ノ程度ハ年一年増加シ來リ遂ニ早晚損害事故ヲ發生スルモノニシテ所謂自然ノ消耗ニ該當シ從テ保險ニ付スヘキ危險ニアラス以上ハ損害保險上ノ危險ナル觀念ヲ生命保險ニ應用スルコト能ハストノ論據ナレトモ何レモ皆多少ノ誤解ナキ能ハス即チ生命保險中終身保險ニ付テ以上ノ駁論ハ比較的ニ有力ナレトモ尙ホ其正鵠ヲ得タルモノト云フヘカラス何ト

ナレハ現ニ生活シツ、アル今日ト死亡ニ瀕スル時期ヲ對照シテ考フレハ死亡ナル事實ハ目的ノ性質ニ伴フ危險ナレトモ其發生ヲ確カラシサ的ニ豫想シ得ラレ且一定ノ期間毎ニ考フレハ死亡ハ全ク偶然ニシテ其確カラシサノ程度カ兩極端ニ近ツカサルモノナルヲ以テ單ニ此點ノミヨリ論スレハ之ヲ保險契約上ノ危險ト考フルコトヲ妨ケサルヘシ例ヘハ木材ヲ以テ建築シタル家屋カ火災ニ罹ルハ廣義ニ於テハ其性質ニ因ル損害ナリト論スルコトヲ得ヘキモ其確カラシサノ程度ハ兩極端ニ近ツカサルモノナルヲ以テ保險ノ效力ヲ妨ケサルカ如シ加之翻テ考フルニ被保險利益ノ性質ヨリ來ル損害ト雖モ特約ヲ以テ之カ填補ヲ約スルコトヲ妨ケサルハ當然ナレハ以上ノ駁論ノ根據ハ正確ナルモノニアラス殊ニ定期保險ニ付テハ更ニ其駁論ノ不當ナルコトヲ發見スヘシ何トナレハ定期保險ニアリテハ其期間内ニ於ケル死亡ハ全ク偶然ニシテ且健康ノ程度如何ニ依リ必スシモ同一ノ比例ヲ以テ其生命カ死亡ニ近ツクモノト云フコト能ハサルヘシ之ニ加フルニ生命保險中死亡保險ノ外ニ生存保險ナルモノアリ之ニ付テハ生存ハ損害ナリヤ否ヤヲ探究スルノ必要アルニモ拘ハラズ

以上ノ駁論中ニハ何等此點ニ向テ論究スル所ナキノミナラス生存ナルモノハ到底永久ナルコトヲ得ス之ニ反シテ一定ノ期間内ノ生存ハ全ク偶然ニシテ以上ノ駁論ヲ之ニ應用スヘキ餘地ヲ存セサルナリ

第二 被保險利益

被保險利益ハ現存スル財産上ノ利害關係ヲ利益ノ方面ヨリ觀察シタルモノナリ然ルニ生命保險ノ被保險利益ヲ以テ生命自身ナリト論スル者アレトモ人ハ自己ノ生命上ニ財産上ノ利害關係ヲ有スルコトナシトノ一言ヲ以テ之ヲ斥クルヲ得ヘシ然ラハ生命ハ被保險利益ニアラストスレハ人カ生命ノ繼續ニ付キ財産上ノ利害關係ヲ有スト論スレハ如何換言スレハ生命ハ被保險利益ノ客體ナルコトヲ得ルモノナリヤ否ヤヲ探究セサルヘカラス或學者ハ曰ク人ハ其生命ノ繼續ニ付テ經濟上ノ利害關係ヲ有ス何トナレハ人カ經濟的行動ヲ爲スニ付キ其行動ノ上ニ財産權ヲ存スルモノナレハナリト然レトモ此說モ現今行ハル、私法ノ通説ニ反スルヲ以テ採用スヘカラス然ラハ生命ノ繼續ニ付キ財産上ノ利害關係ハ成立スルコト能ハサルモノナリヤ曰ク然ラス其生命ノ繼續ス

ルニ因リ經濟的ノ行動ヲ生シ其行動ノ結果トシテ財産的ノ利益ヲ得ヘキ者ハ即チ財産上ノ利害關係ヲ有スル者ニ外ナラス又生命ノ繼續ヲ要件トシテ或經濟上ノ行動ヲ爲シ若クハ爲サシムルニ於テハ財産上ノ利害關係ノ存在ヲ見ルコト、ナル又生命ノ消滅即チ死亡ノ場合ニ或財産上ノ負擔ヲ生スル者ハ其生命ニ付キ財産上ノ利害關係ヲ存スルコト疑フヘクモアラス蓋シ保險契約上ノ被保險利益ナルモノハ其體様トシテ必スシモ權利タルヲ必要トセサルコト損害保險ノ章ニ於テ之ヲ説明セシカ如シ斯ノ如ク生命ノ繼續ニ付キ人カ財産上ノ利害關係ヲ有スルコト固ヨリ異論ナシト雖モ此利害關係ハ價額ノ點ヨリ觀察スレハ常ニ浮動ノ有様ニアルモノニシテ今日ハ千金ノ價額ヲ有スル關係モ明日ハ全ク價額ヲ失フコトナキヲ保セス而シテ損害保險ノ重要ナル性質ニシテ被保險利益ニ關スルモノハ左ノ二要件ニ外ナラス

一 被保險利益ノ價額ニ超過シタル填補金額(保險金額)ヲ約スルトキハ其超過部分ハ無効ナルコト(商法三九六)

二 填補スヘキ價額ハ損害ノ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ因リテ決定セ